

日本外傷データバンク報告 (2004-2007)

JAPAN TRAUMA DATA BANK REPORT 2004-2007

日本外傷学会 Trauma Registry検討委員会

日本救急医学会 診療の質評価指標に関する委員会

図1 JTDB参加施設名(全114施設 順不同)

市立札幌病院	東京医科歯科大学医学部附属病院	大阪市立大学医学部附属病院
日鋼記念病院	東京都立墨東病院	神戸大学医学部附属病院
札幌医科大学附属病院	昭和大学横浜市北部病院	兵庫県災害医療センター
八戸市立市民病院	国立横浜病院	公立豊岡病院
岩手医科大学	日本医科大学武蔵小杉病院	公立村岡病院
岩手県立久慈病院	済生会横浜市東部病院	関西労災病院
太田西ノ内病院	聖マリアンナ医科大学	奈良県立奈良病院
会津中央病院	関東労災病院	奈良県立医科大学
筑波メディカルセンター病院	横浜国立大学医学部附属市民総合医療センター	和歌山県立医科大学附属病院
獨協医科大学病院	東海大学医学部付属病院	津山中央病院
群馬大学医学部附属病院	昭和大学藤が丘病院	川崎医科大学附属病院
さいたま赤十字病院	北里大学病院	岡山大学医学部・歯学部附属病院
川口市医療センター	横須賀市立うわまち病院	県立広島病院
獨協医科大学越谷病院	横浜市立みなと赤十字病院	中国労災病院
防衛医科大学校病院	富山県立中央病院	山口大学医学部附属病院
埼玉医科大学総合医療センター	富山大学附属病院	徳島県立三好病院
船橋市立医療センター	山梨県立中央病院	香川大学医学部附属病院
国保旭中央病院	佐久総合病院	愛媛県立中央病院
日本医科大学千葉北総病院	信州大学医学部附属病院	愛媛大学医学部附属病院救急部
千葉県救急医療センター	JA岐阜厚生連中濃病院	高知医療センター
亀田総合病院	岐阜大学医学部附属病院	久留米大学病院
国保直営総合病院君津中央病院	沼津市立病院	飯塚病院
昭和大学病院	静岡赤十字病院	健和会大手町病院
国立病院東京医療センター	聖隷三方ヶ原病院	北九州市立八幡病院
都立広尾病院	豊橋市民病院	九州大学病院
武蔵野赤十字病院	愛知医科大学医学部附属病院	北九州総合病院
日本医科大学多摩永山病院	名古屋掖済会病院	小倉記念病院
東京医科大学	社会保険中京病院	済生会福岡総合病院
帝京大学病院	岡崎市民病院	福岡大学病院
国立国際医療センター	大阪府泉州救命救急センター	雪ノ聖母会聖マリア病院
東京女子医科大学東医療センター	大阪府済生会千里病院	佐賀県立病院好生館
独立行政法人国立病院機構災害医療センター	阪和記念病院	独立行政法人国立病院機構長崎医療センター
日本医科大学付属病院	大阪府三島救命救急センター	大分大学医学部附属病院
杏林大学医学部附属病院	近畿大学医学部附属病院	県立宮崎病院
駿河台日本大学病院	岸和田徳洲会病院	愛心会大隅鹿屋病院
東京女子医科大学	大阪大学医学部附属病院	沖縄県立中部病院
青梅市立総合病院	大阪市立総合医療センター	浦添総合病院
日本大学医学部附属板橋病院	関西医科大学附属滝井病院	敬愛会中頭病院

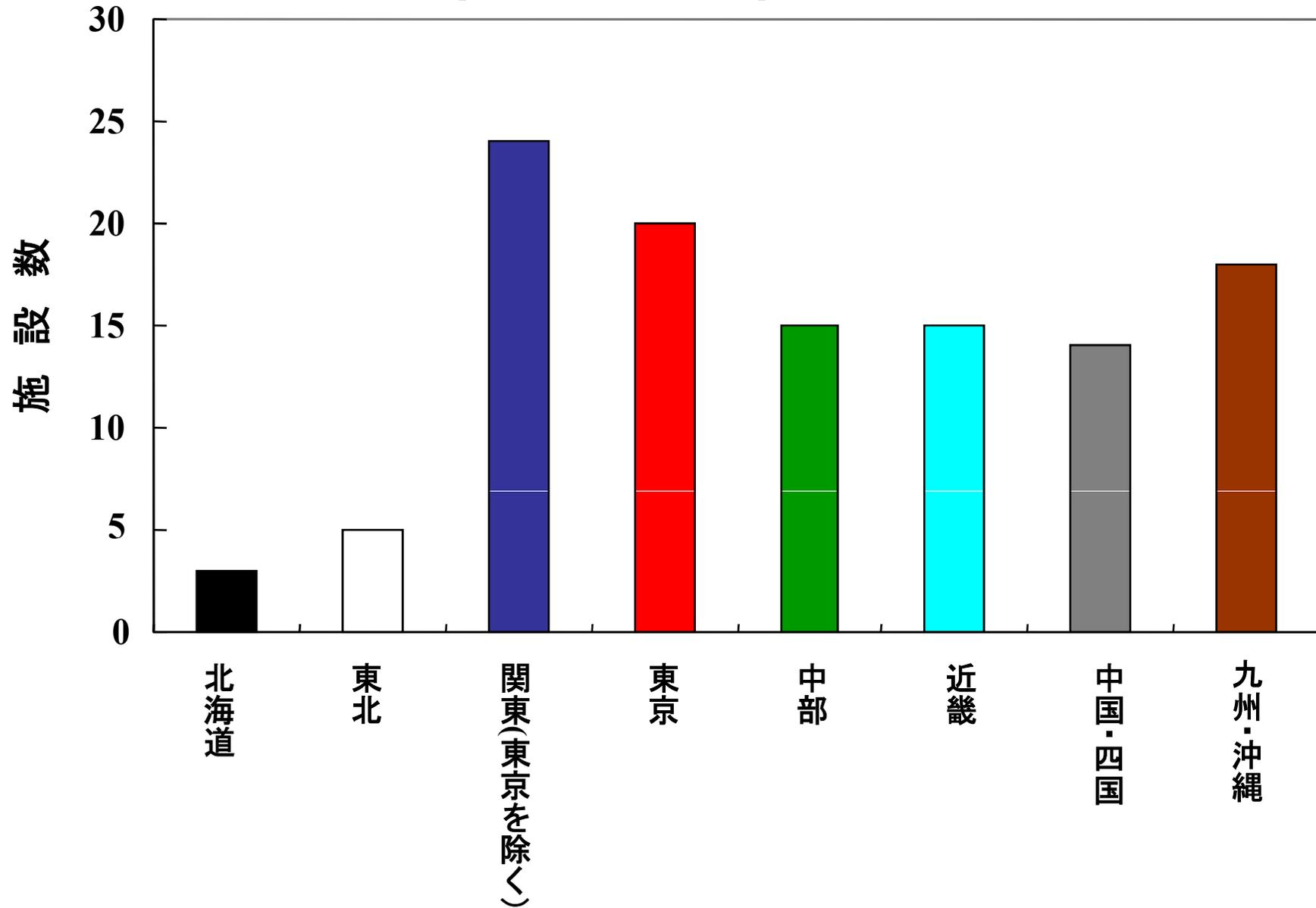
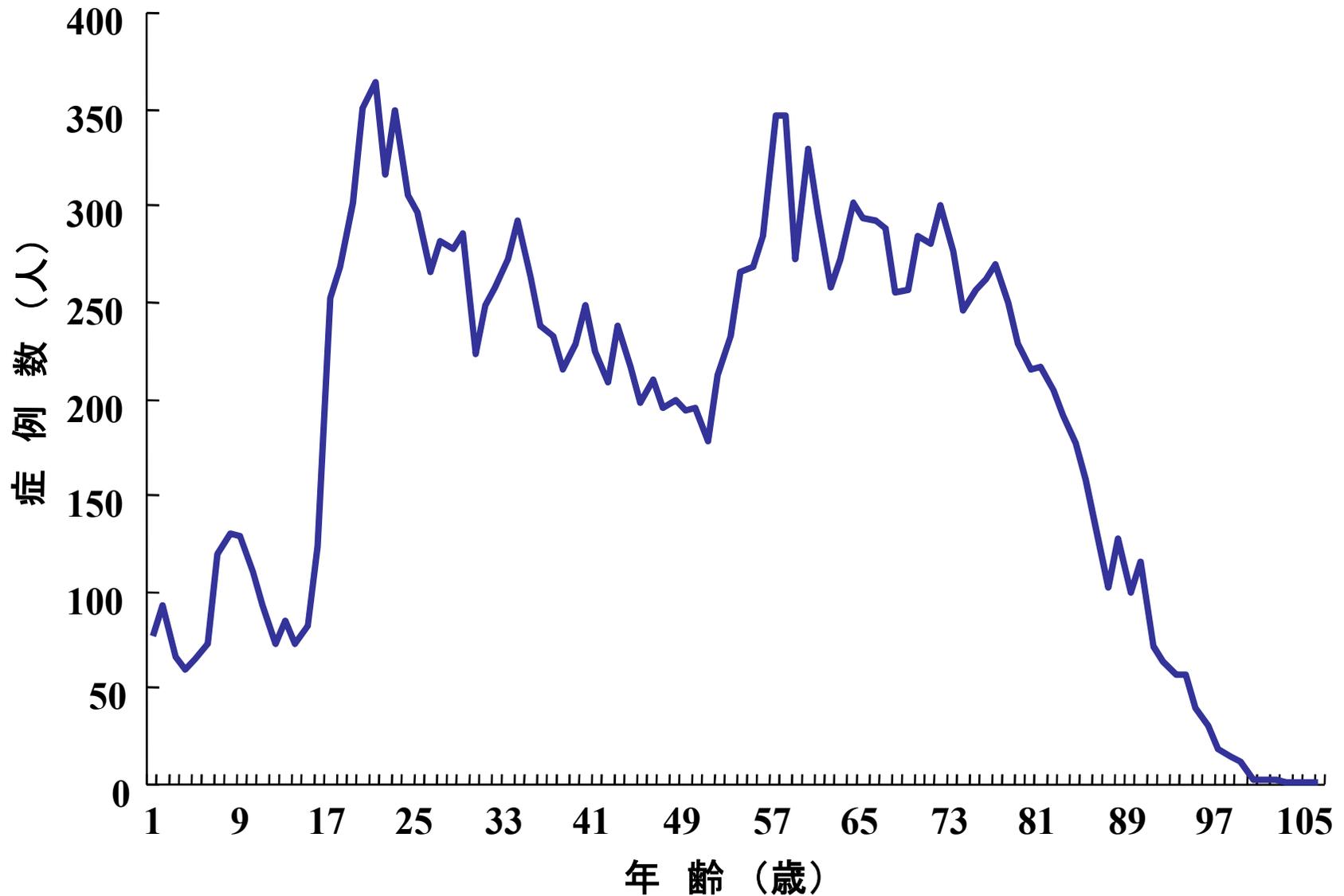


図2 地方別の参加施設数



20歳代と50歳代で二峰性の分布を示す。

図3 全症例年齢分布

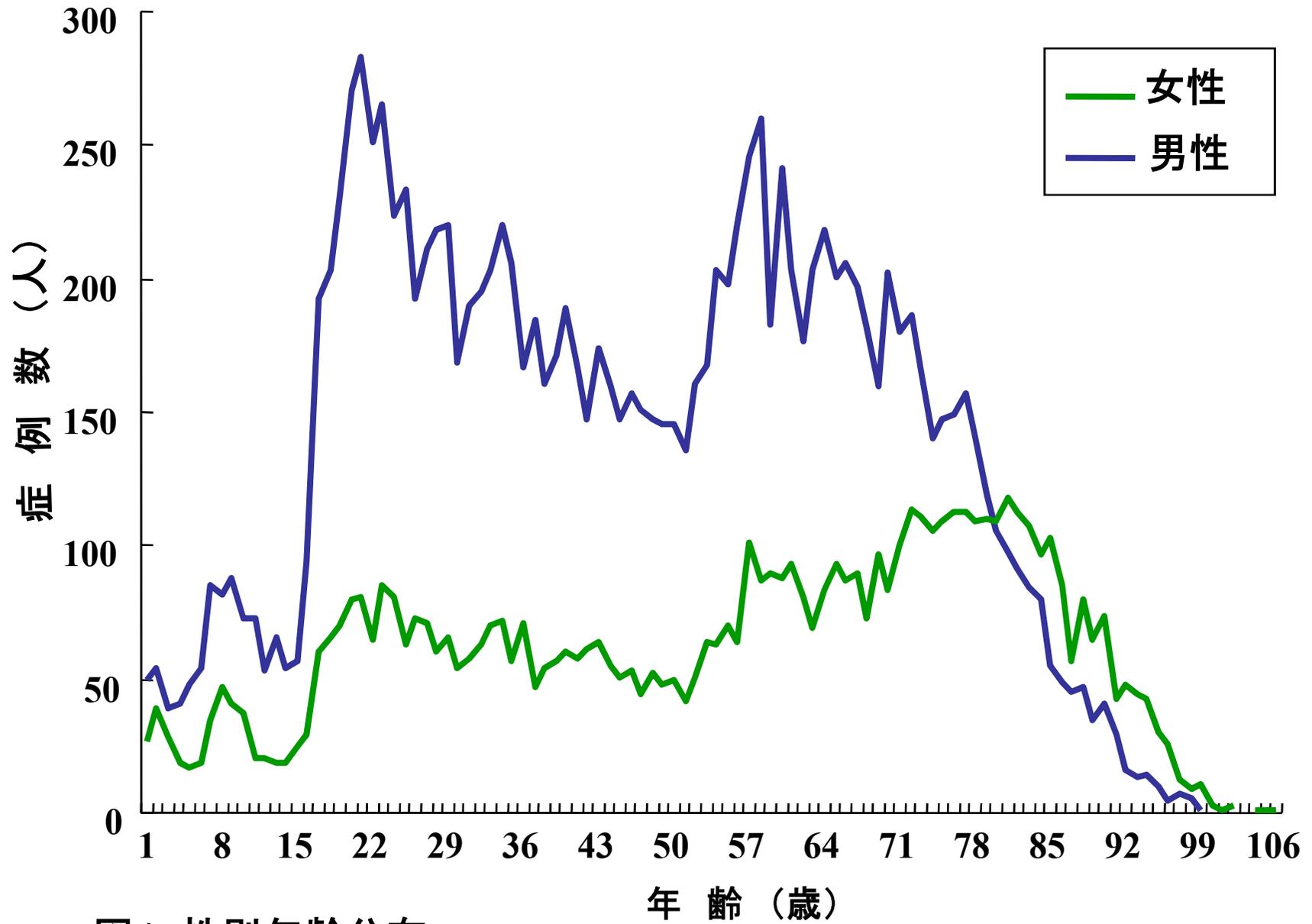


図4 性別年齢分布

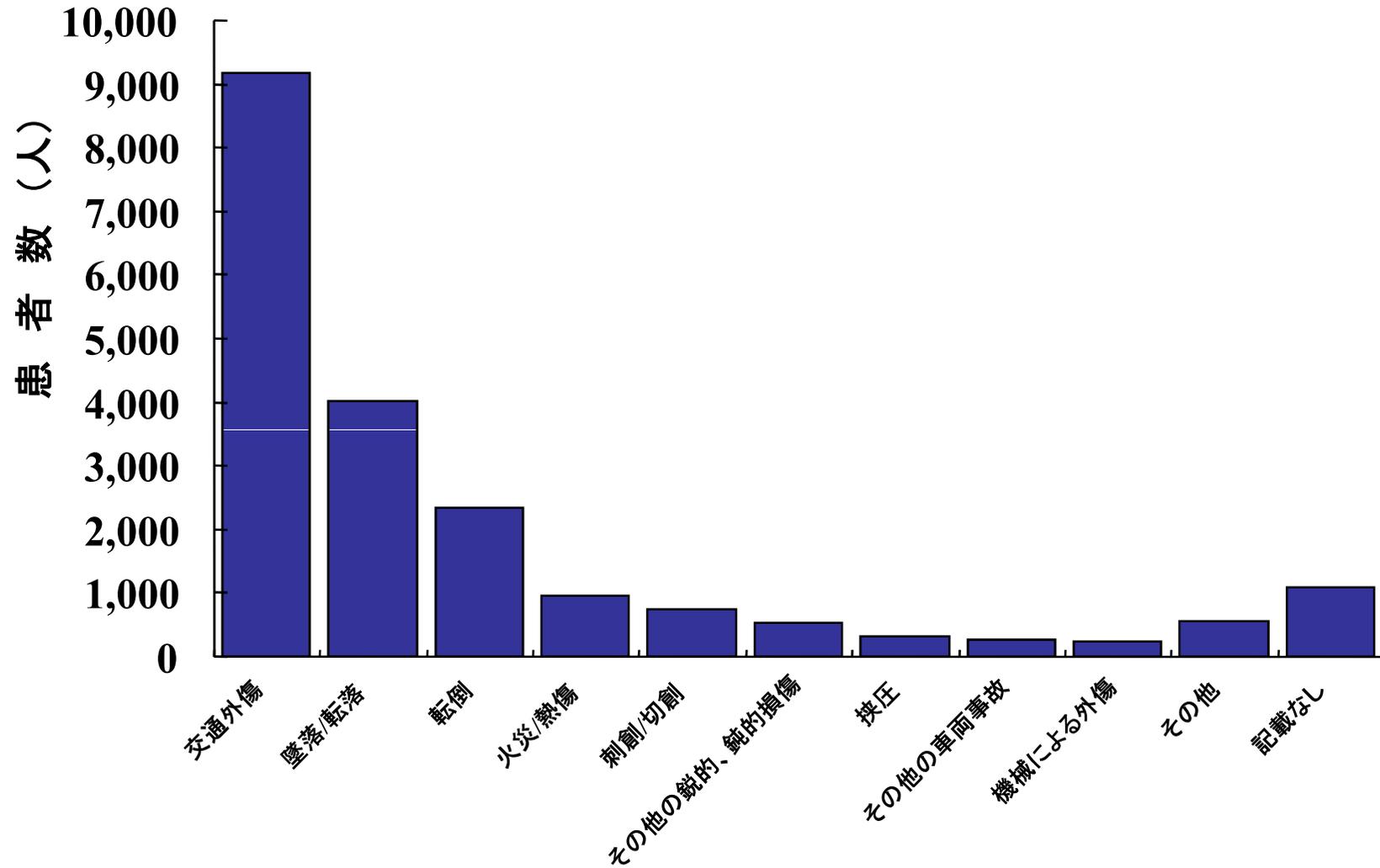


図5 受傷機転別の患者数

受傷機転	患者数 (人)	受傷機転別患者 数の割合(%)
交通外傷	9181	45.32
墜落/転落	4029	19.89
転倒	2350	11.60
火災/熱傷	947	4.67
刺創/切創	743	3.67
その他の鋭的、鈍的損傷	539	2.66
重量物による挟圧	328	1.62
スポーツによる事故	288	1.42
その他の車両乗車中事故・電車接触	261	1.29
機械による外傷(プレス機、回転体)	234	1.16
落下物、飛来物	205	1.01
杵創(刺杭創)	27	0.13
銃創	18	0.09
家屋倒壊、土砂崩れ等	12	0.06
爆発	10	0.05
記載なし・不明	1085	5.36
計	20257	100.00

表5 受傷機転別の
患者数の割合

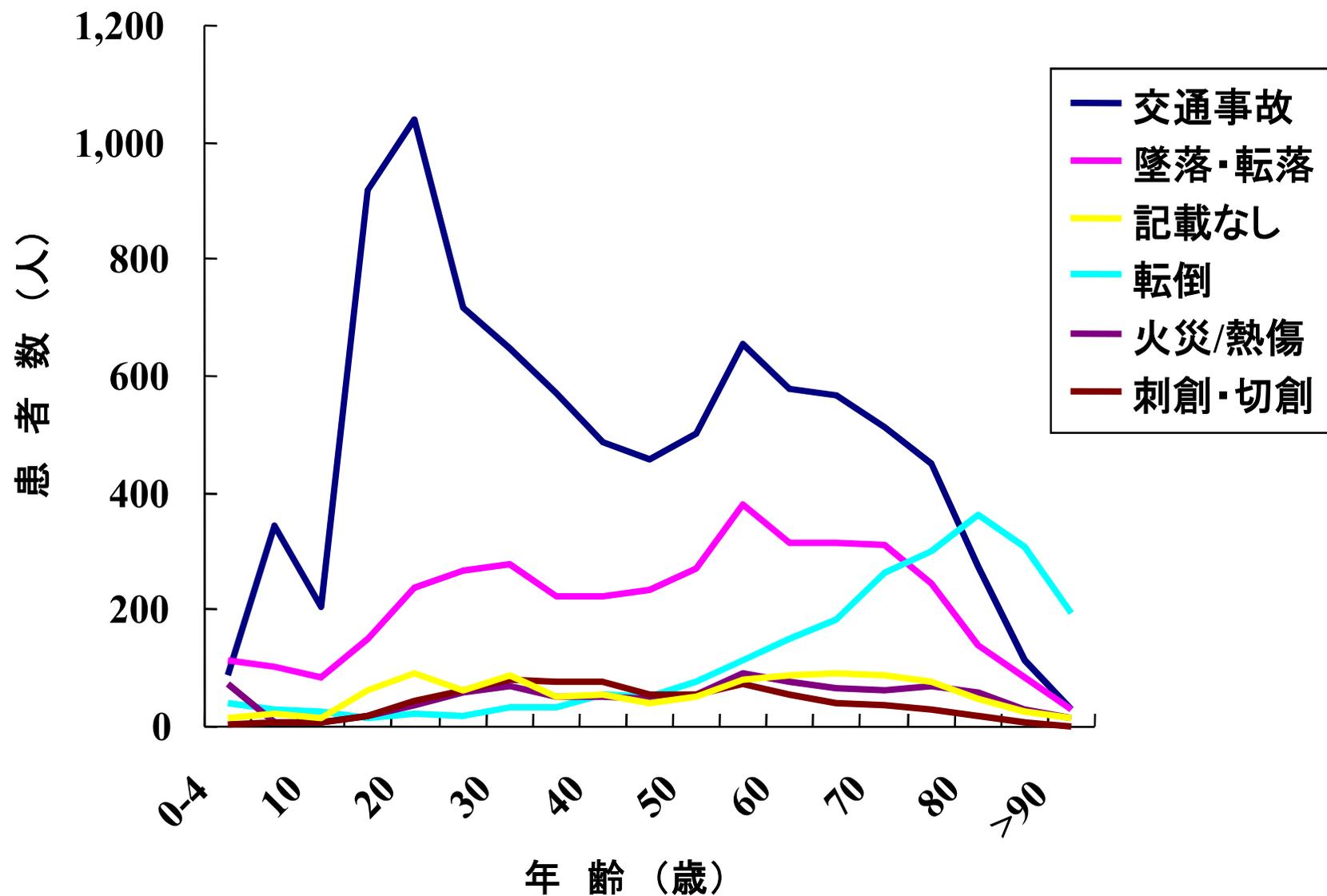


図6 受傷機転別患者数の年齢分布

Japan Trauma Data Bank Report 2004-2007

年齢範囲(歳)	交通外傷 (人)	交通外傷の年齢 層別割合(%)	墜落/転落 (人)	墜落/転落の 年齢層別割 合(%)	記載なし(人)	記載なしの年 齢層別割合 (%)	転倒(人)	転倒患者の 年齢層別割 合(%)	火災/熱傷 (人)	火災/熱傷の 年齢層別割 合(%)	刺創/切創 (人)	刺創/切創の 年齢層別割 合(%)
<1	89	0.97	114	2.83	15	1.38	40	1.70	72	10.64	4	0.54
1-4	343	3.74	103	2.56	22	2.03	29	1.23	6	0.89	6	0.81
5-9	205	2.23	84	2.08	15	1.38	26	1.11	6	0.89	6	0.81
10-14	917	9.99	150	3.72	64	5.90	16	0.68	17	2.51	17	2.29
15-19	1039	11.32	238	5.91	93	8.57	22	0.94	38	5.61	44	5.92
20-24	718	7.82	266	6.60	64	5.90	20	0.85	60	8.86	64	8.61
25-34	646	7.04	277	6.88	88	8.11	33	1.40	68	10.04	79	10.63
35-39	572	6.23	225	5.58	53	4.88	33	1.40	52	7.68	77	10.36
40-44	487	5.30	223	5.53	56	5.16	55	2.34	52	7.68	76	10.23
45-49	458	4.99	235	5.83	39	3.59	52	2.21	49	7.24	56	7.54
50-54	503	5.48	269	6.68	53	4.88	77	3.28	55	8.12	56	7.54
55-59	654	7.12	379	9.41	79	7.28	114	4.85	90	13.29	72	9.69
60-64	577	6.28	314	7.79	89	8.20	151	6.43	77	11.37	56	7.54
65-69	568	6.19	314	7.79	90	8.29	182	7.74	66	9.75	39	5.25
70-74	511	5.57	312	7.74	88	8.11	264	11.23	61	9.01	37	4.98
75-79	450	4.90	244	6.06	76	7.00	299	12.72	71	10.49	29	3.90
80-84	276	3.01	140	3.47	49	4.52	362	15.40	60	8.86	17	2.29
85-89	112	1.22	85	2.11	25	2.30	309	13.15	30	4.43	6	0.81
90-94	28	0.30	30	0.74	13	1.20	195	8.30	13	1.92	1	0.13
95-99	7	0.08	7	0.17	1	0.09	59	2.51	2	0.30	1	0.13
不明・記載なし	21	0.23	20	0.50	13	1.20	12	0.51	2	0.30	0	0.00
計	9181		4029		1085		2350		947		743	

図6 受傷機転別の年齢層別分布

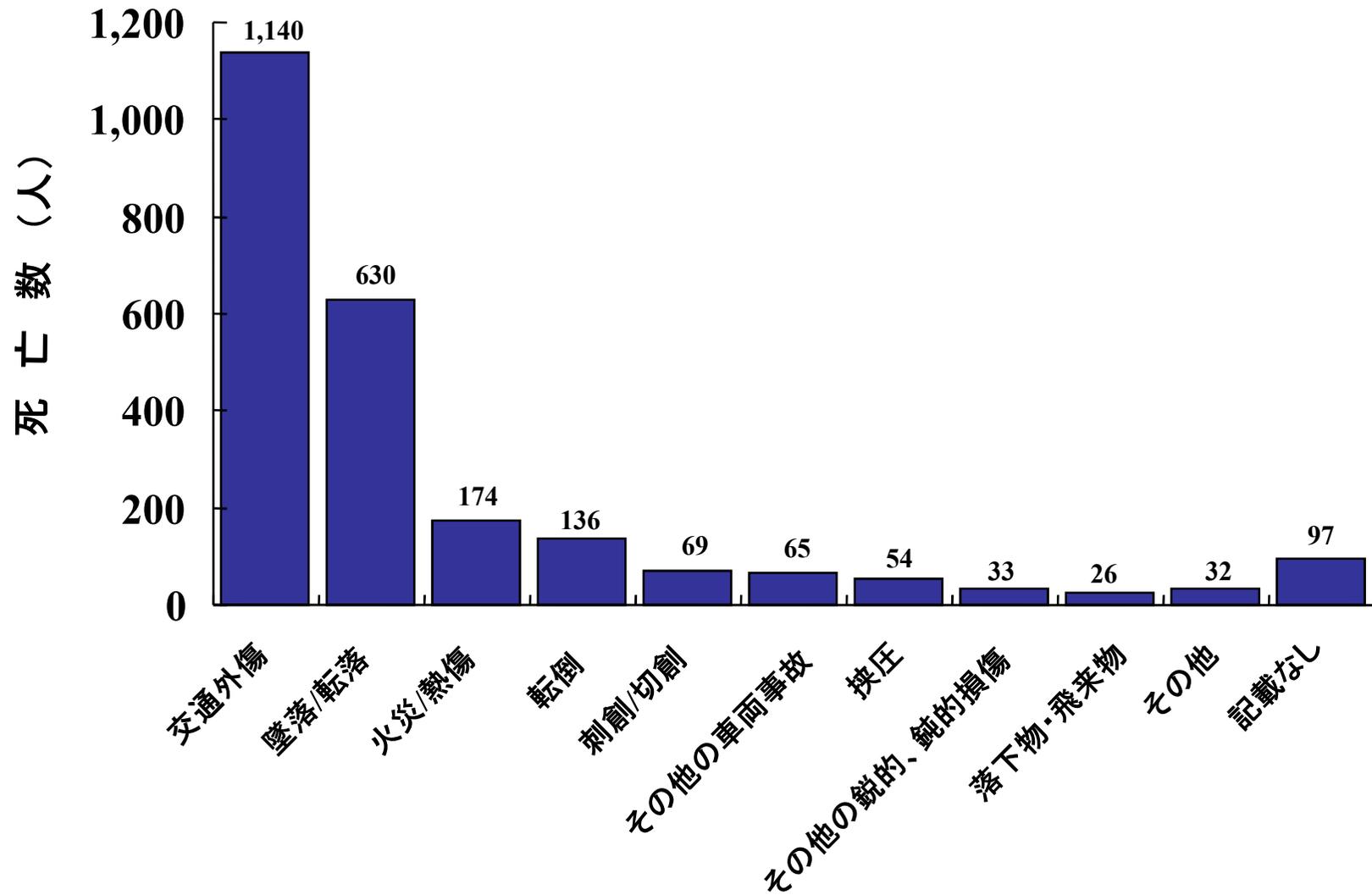


図7 受傷機転別の死亡数

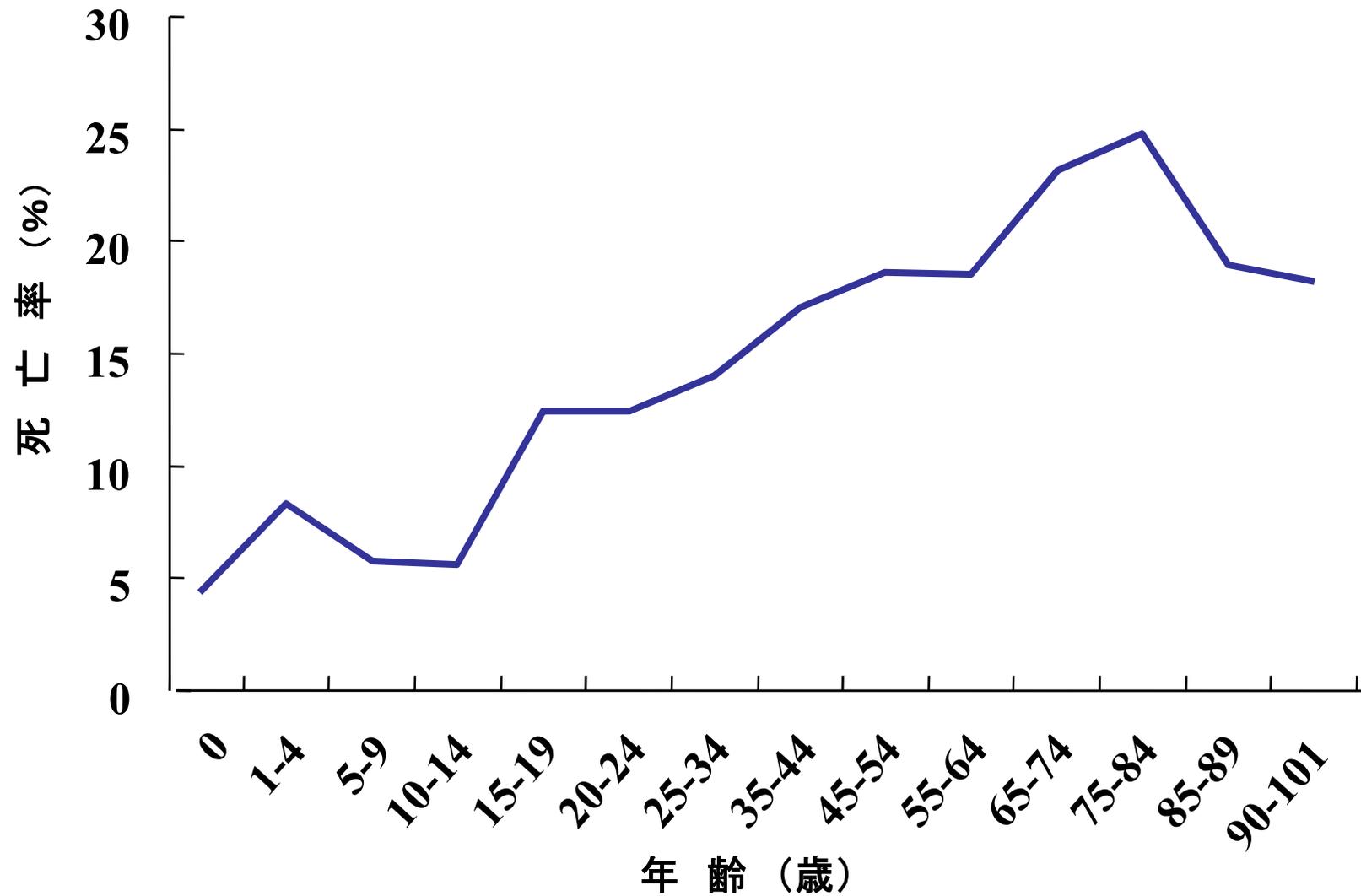


図8 年齢別の死亡率

Japan Trauma Data Bank Report 2004-2007

年齢	患者数	死亡数	死亡率(%)
0	46	2	4.35
1-4	180	15	8.33
5-9	327	19	5.81
10-14	232	13	5.60
15-19	885	110	12.43
20-24	1162	145	12.48
25-34	1892	265	14.01
35-44	1540	263	17.08
45-54	1493	278	18.62
55-64	2073	385	18.57
65-74	1828	424	23.19
75-84	1539	382	24.82
85-89	433	82	18.94
90-101	269	49	18.22

表8 年齢別の死亡率

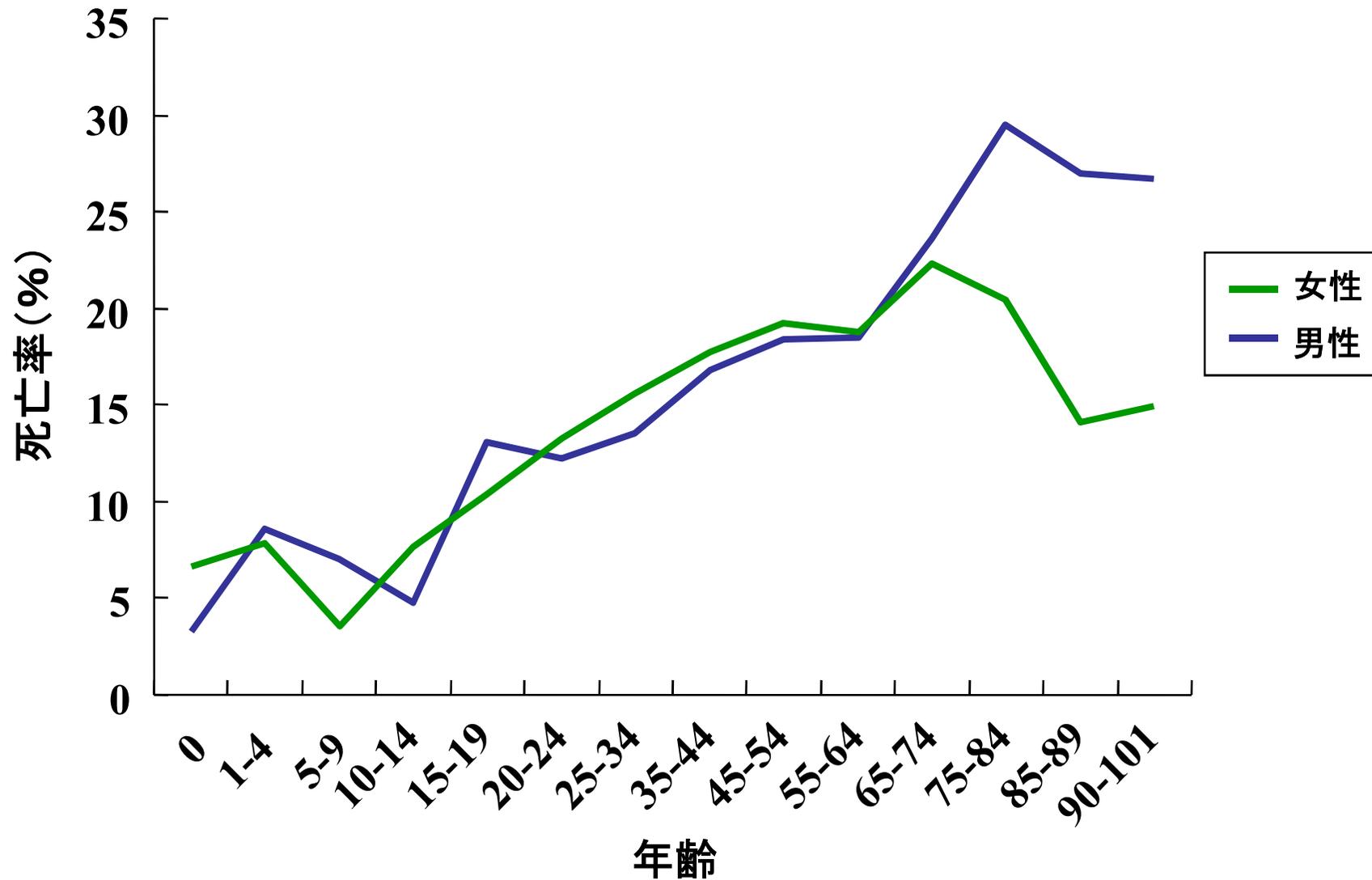


図9 性別と年齢別の患者死亡率

年齢	患者数(男)	死亡数	死亡率(%)	患者数(女)	死亡数	死亡率(%)
0	31	1	3.23	15	1	6.67
1-4	116	10	8.62	64	5	7.81
5-9	213	15	7.04	114	4	3.51
10-14	167	8	4.79	65	5	7.69
15-19	673	88	13.08	212	22	10.38
20-24	905	111	12.27	257	34	13.23
25-34	1444	195	13.50	448	70	15.63
35-44	1134	191	16.84	406	72	17.73
45-54	1123	207	18.43	370	71	19.19
55-64	1476	273	18.50	597	112	18.76
65-74	1188	281	23.65	640	143	22.34
75-84	750	221	29.47	789	161	20.41
85-89	163	44	26.99	270	38	14.07
90-101	75	20	26.67	194	29	14.95

表9. 性別と年齢別の患者死亡率

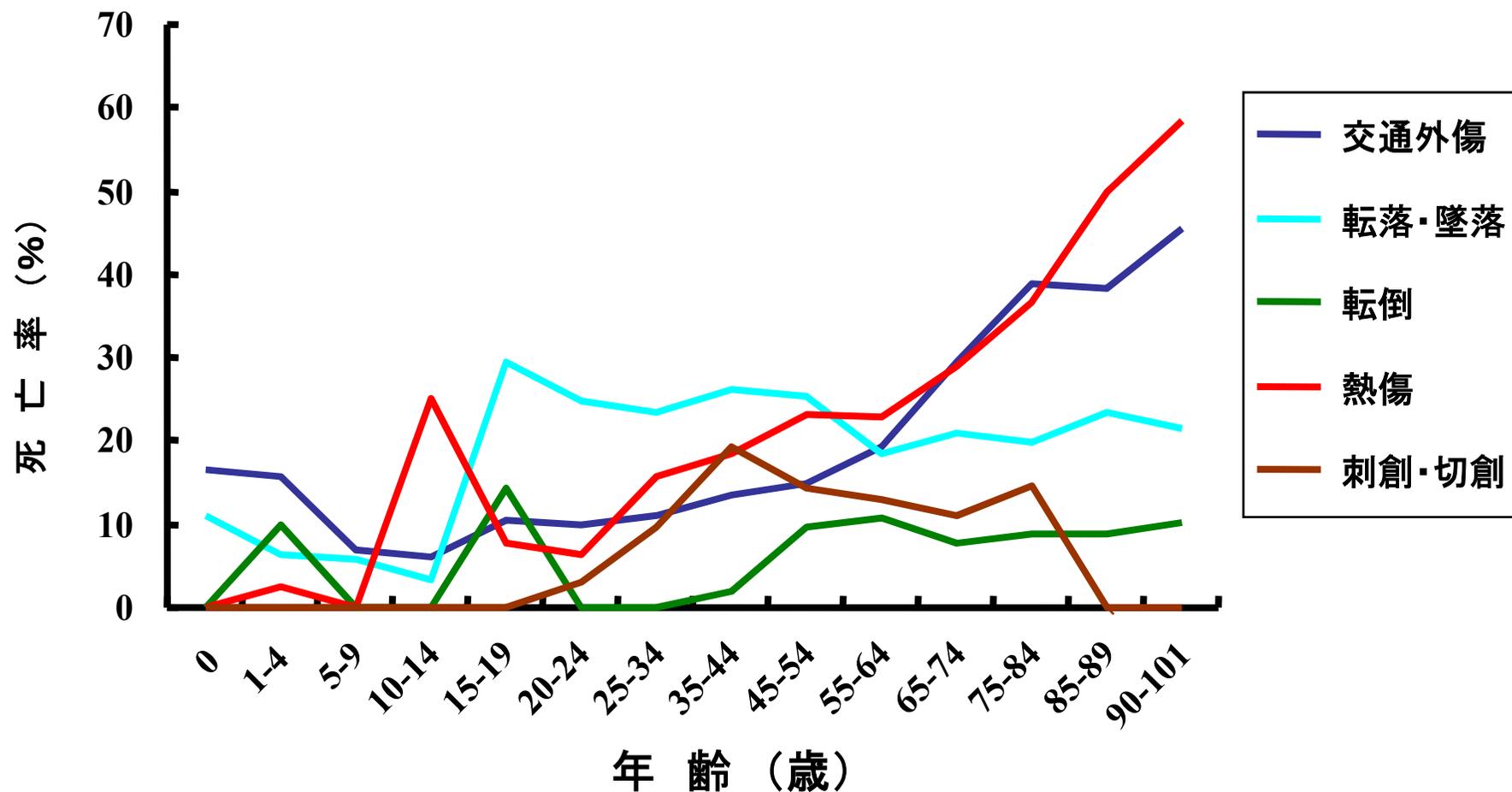


図10 受傷機転と年齢別の患者死亡率

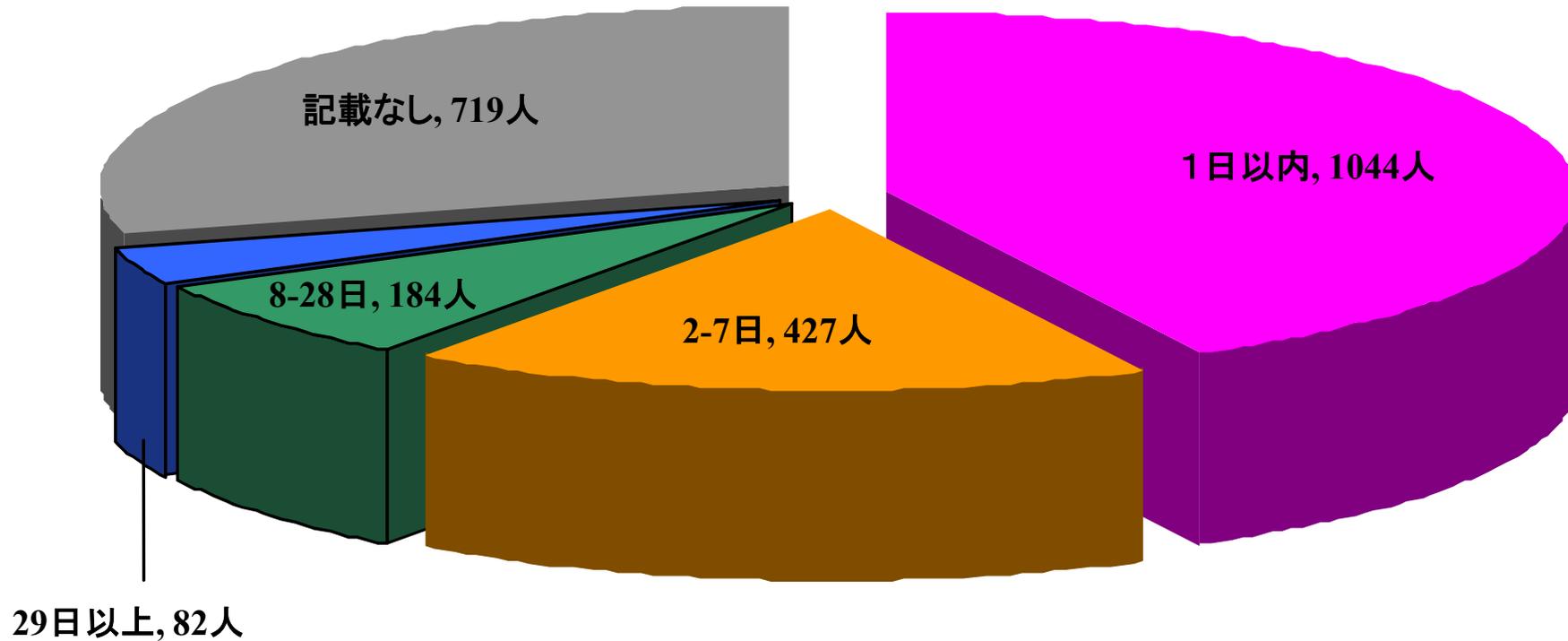
Japan Trauma Data Bank Report 2004-2007

年齢	交通外傷患者数	交通外傷死亡数	交通外傷死亡率(%)	転落・墜落患者数	転落・墜落死亡数	転落・墜落死亡率(%)	転倒患者数	転倒死亡数	転倒死亡率(%)
0	6	1	16.7	9	1	11.1	10	0	0.0
1-4	51	8	15.7	64	4	6.3	10	1	10.0
5-9	231	16	6.9	70	4	5.7	11	0	0.0
10-14	133	8	6.0	60	2	3.3	15	0	0.0
15-19	666	70	10.5	95	28	29.5	7	1	14.3
20-24	772	76	9.8	177	44	24.9	13	0	0.0
25-34	999	111	11.1	419	98	23.4	29	0	0.0
35-44	763	102	13.4	309	81	26.2	55	1	1.8
45-54	687	102	14.8	373	95	25.5	84	8	9.5
55-64	903	175	19.4	472	87	18.4	175	19	10.9
65-74	774	228	29.5	442	93	21.0	307	24	7.8
75-84	536	208	38.8	271	54	19.9	483	43	8.9
85-89	81	31	38.3	64	15	23.4	240	21	8.8
90-101	33	15	45.5	28	6	21.4	194	20	10.3

年齢	熱傷患者数	熱傷死亡数	熱傷死亡率(%)	刺創・切創患者数	刺創・切創死亡数	刺創・切創死亡率(%)
0	15	0	0.0	0	0	0.0
1-4	39	1	2.6	3	0	0.0
5-9	4	0	0.0	3	0	0.0
10-14	4	1	25.0	2	0	0.0
15-19	13	1	7.7	13	0	0.0
20-24	31	2	6.5	33	1	3.0
25-34	108	17	15.7	104	10	9.6
35-44	81	15	18.5	109	21	19.3
45-54	86	20	23.3	84	12	14.3
55-64	135	31	23.0	100	13	13.0
65-74	100	29	29.0	54	6	11.1
75-84	98	36	36.7	41	6	14.6
85-89	26	13	50.0	6	0	0.0
90-101	12	7	58.3	2	0	0.0

表10 受傷機転と年齢別の患者死亡率

n = 2,456



「1日以内」には、心肺停止症例と初療室での死亡症例を含む。

図11-A 受傷から死亡までの入院期間と症例数

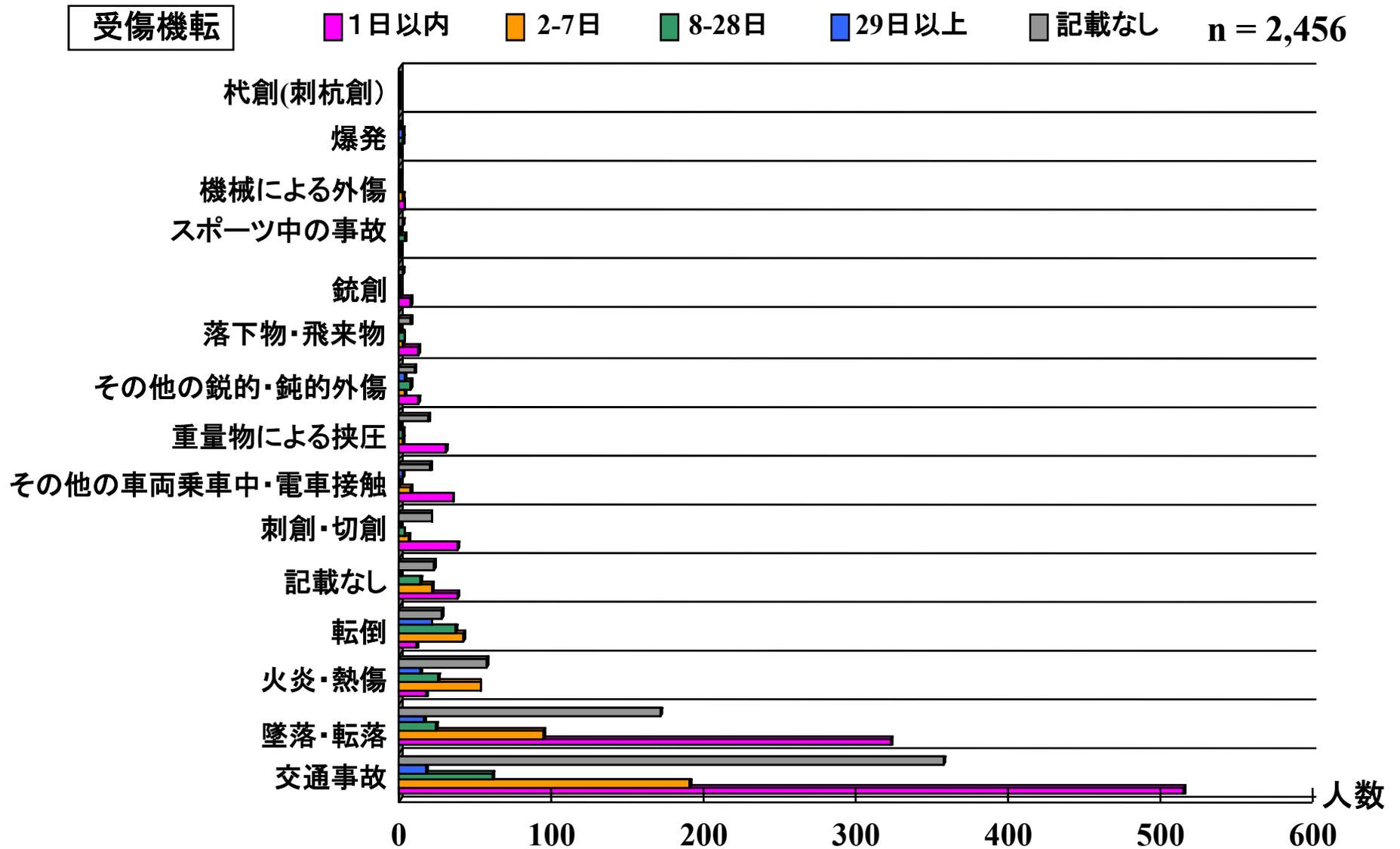
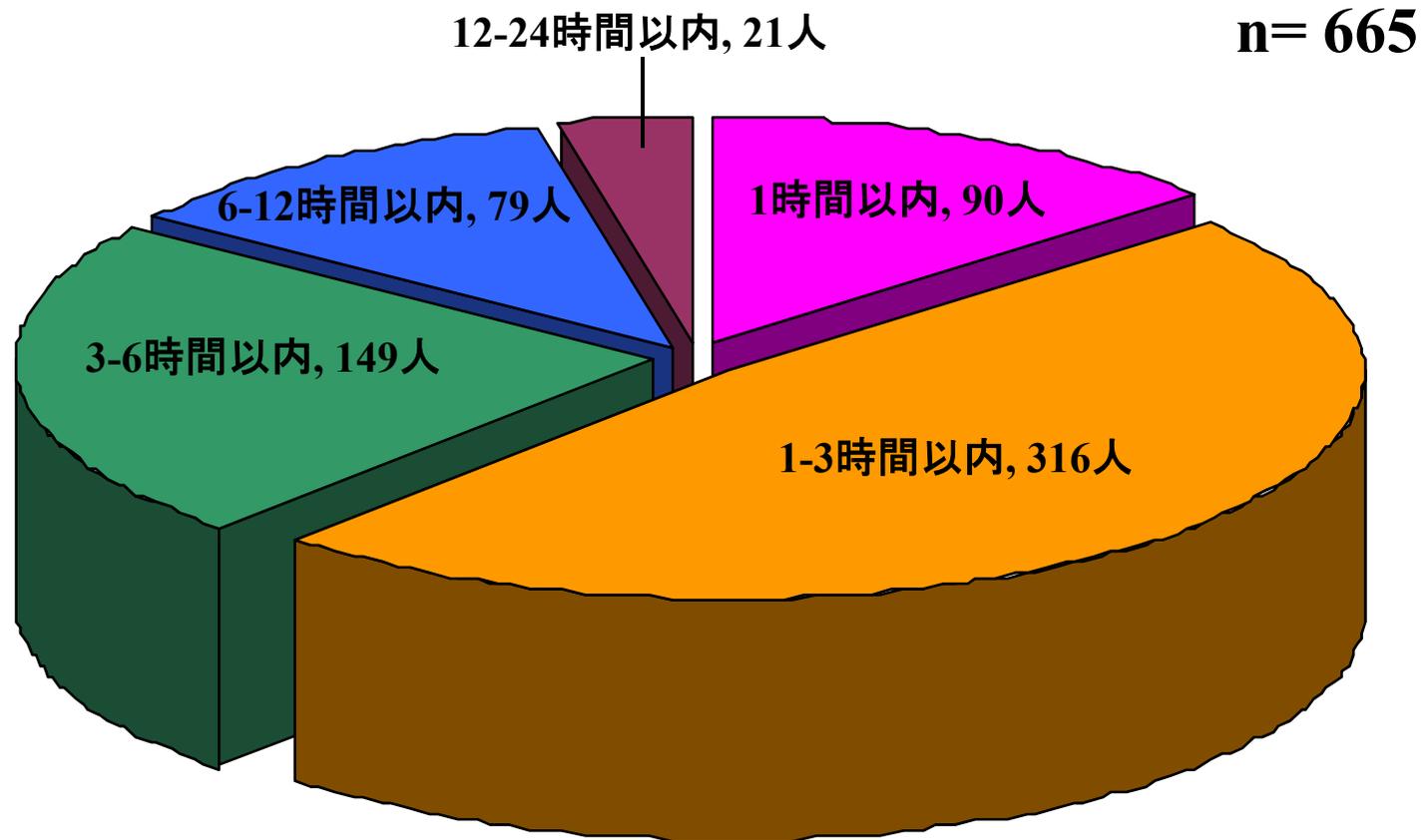


図11-B 受傷機転別の「受傷から死亡までの日数」の症例分布

	交通事故	墜落・転落	火炎・熱傷	転倒	記載なし	刺創・切創	その他の車両 乗車中・電車 接触	重量物に よる狭圧
1日以内	514	322	18	11	38	38	35	30
2-7日	190	94	53	42	22	6	8	2
8-28日	61	24	26	37	14	3	0	2
29日以上	18	16	14	21	1	1	2	1
記載なし	357	171	57	28	23	21	20	19

	その他の鋭的・ 鈍的外傷	落下物・ 飛来物	銃創	スポーツ中 の事故	機械による 外傷	爆発	杵創 (刺杭創)	計
1日以内	13	13	7	1	3	1	0	1,044
2-7日	4	2	1	1	2	0	0	427
8-28日	8	3	0	4	0	2	0	184
29日以上	4	1	0	1	0	2	0	82
記載なし	10	7	2	2	1	1	0	719

表11-B 受傷機転別の「受傷から死亡までの日数」の症例分布



受傷後24時間以内に死亡した症例(図11Aの一日以内)について、
1-3時間、3-6時間、6-12時間、12-24時間に 分類してその分布を示した。

図11-C 受傷24時間以内の死亡症例

予測生存率(TRISS法によるPs)

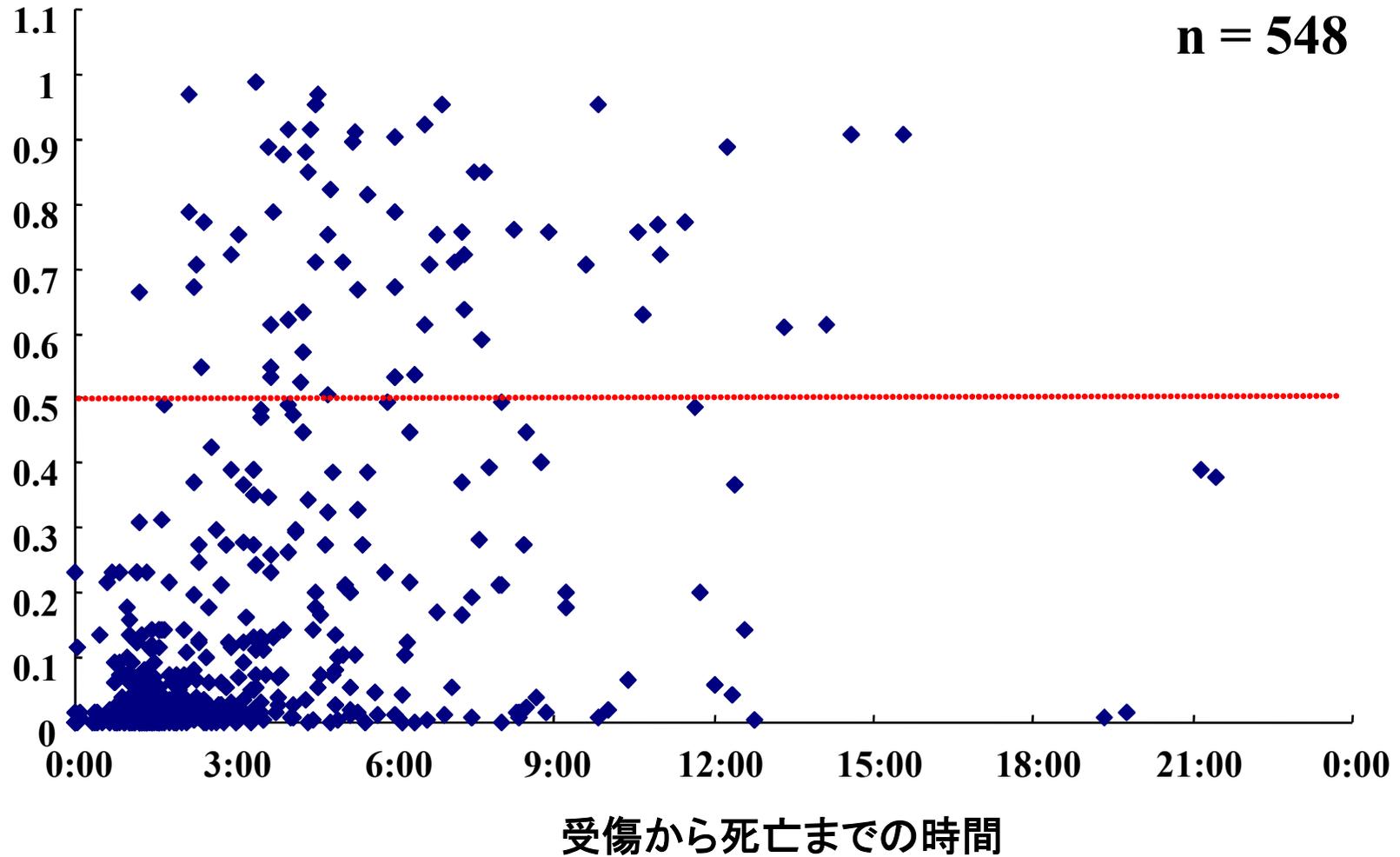
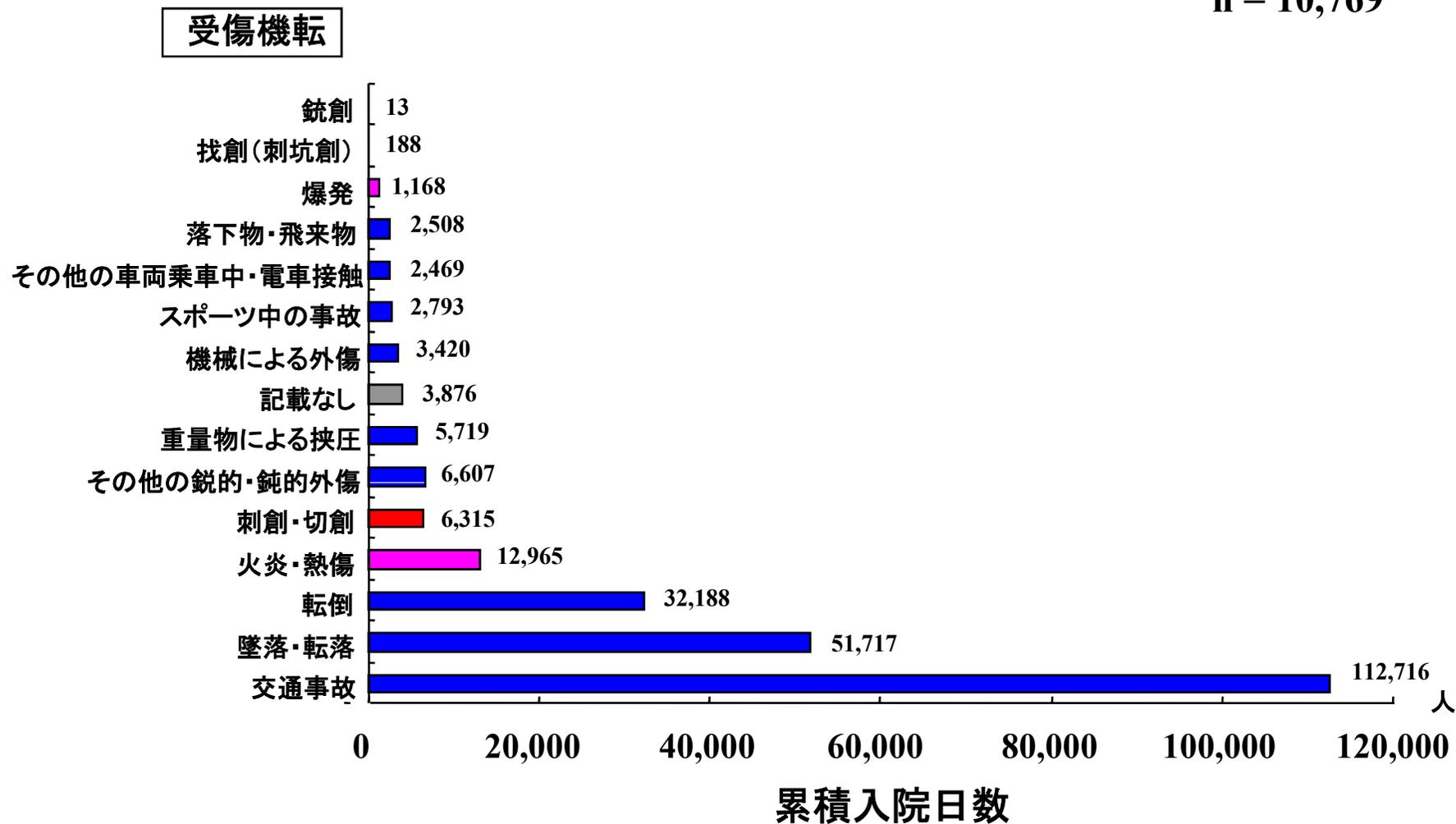


図11-D 受傷から死亡までの時間と予測生存率の関係
外傷性CPAOAの症例も含まれる

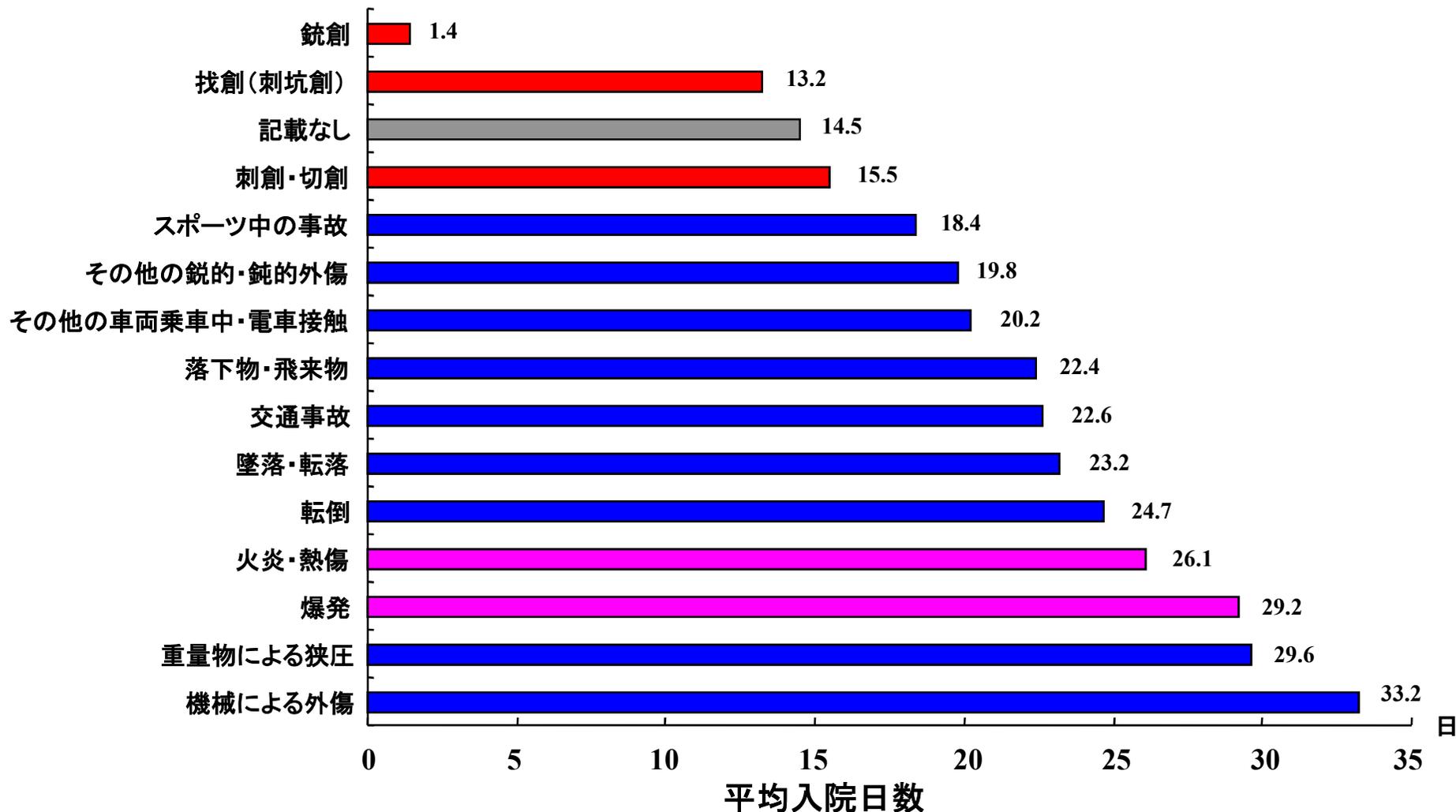
n = 10,769



症例数は10,769で、累積入院日数は244,662日であった。
 鈍的外傷は青、穿通性外傷は赤、火炎・熱傷および爆発をピンクで示した。

図12 受傷機転別の累積入院日数

受傷機転



鈍的外傷は青、穿通性外傷は赤、火炎・熱傷および爆発をピンクで示した。

図13 受傷転帰別の平均入院日数

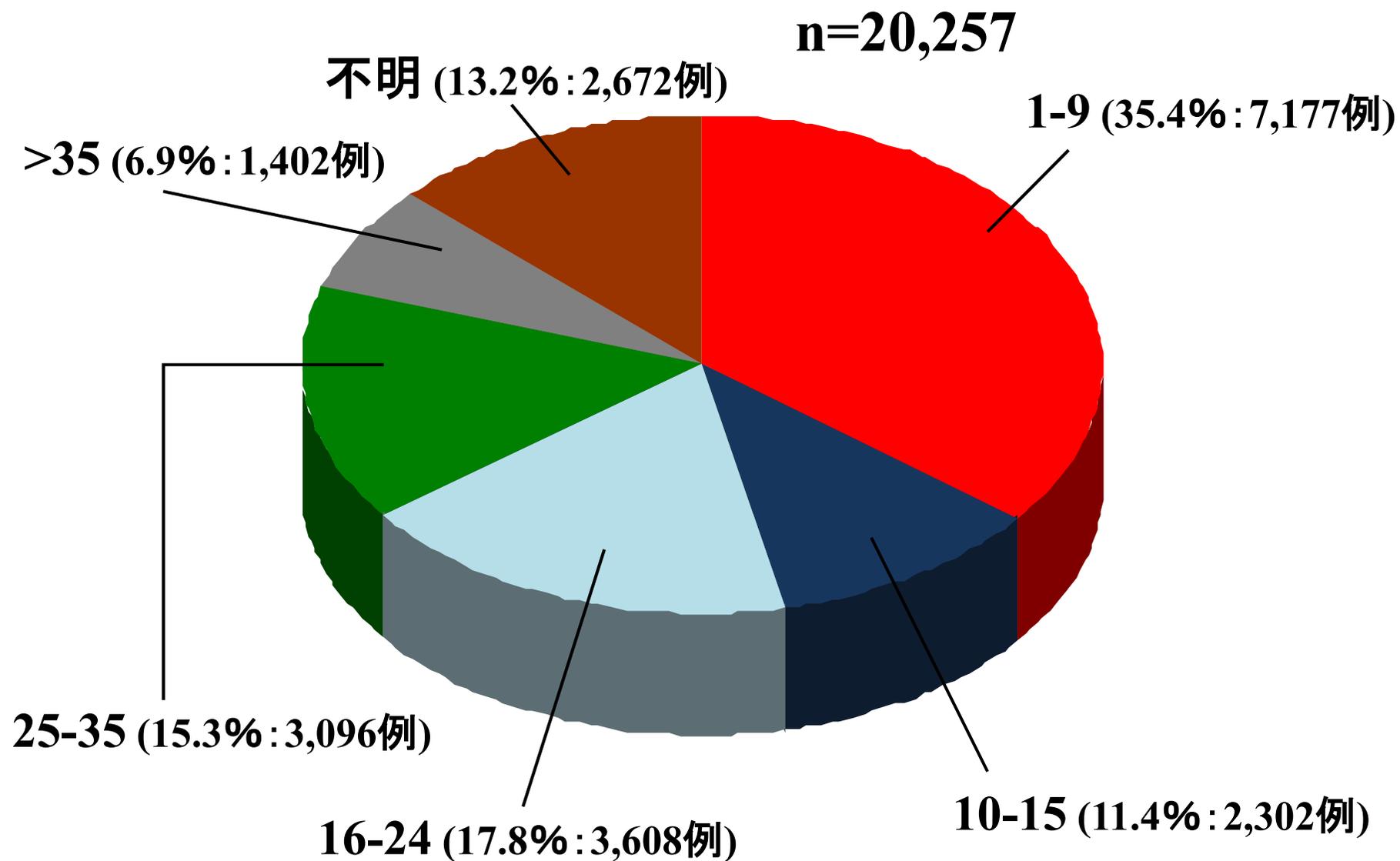
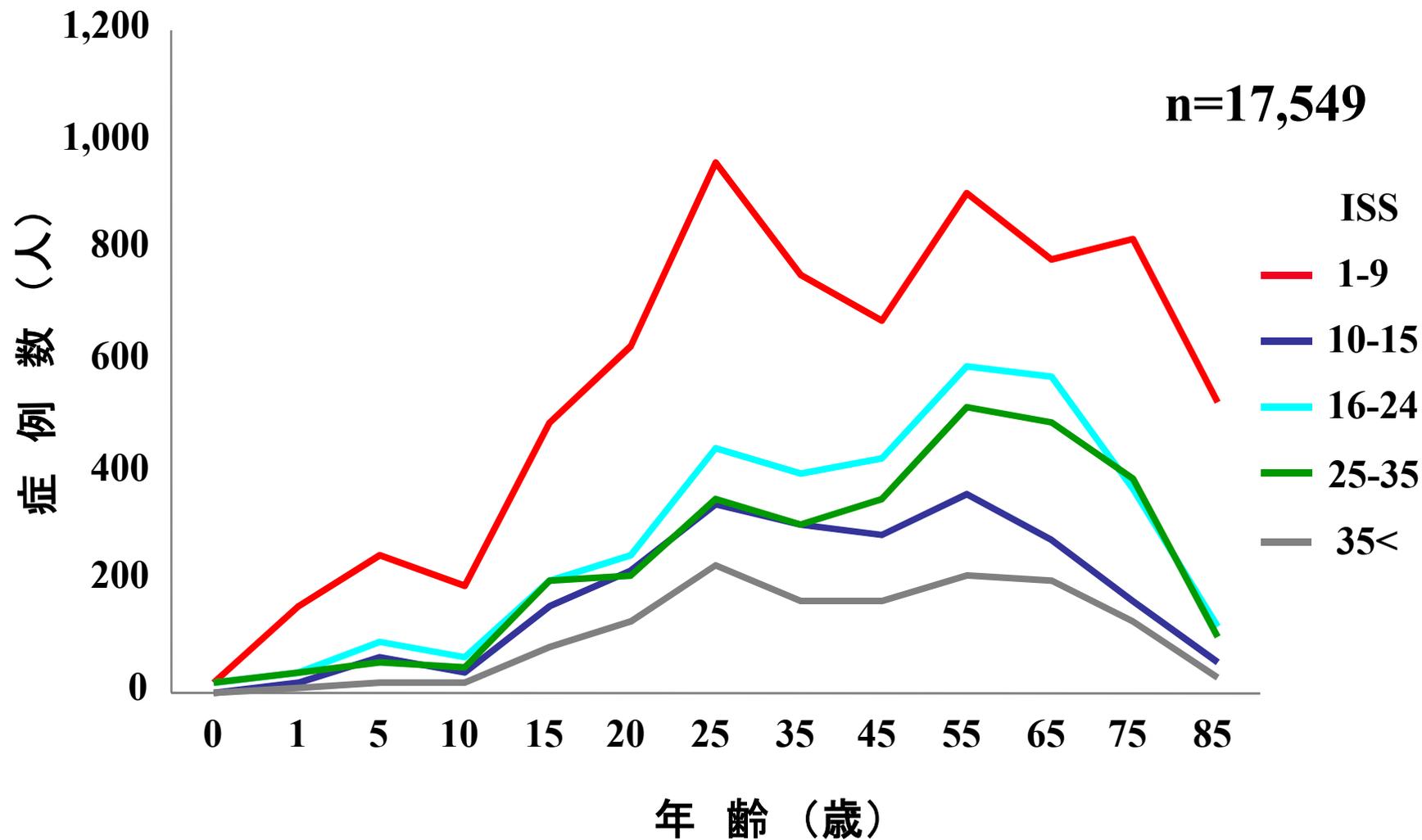


図14 ISSカテゴリー別の症例数と割合



どのカテゴリーにおいてもピークは25-34歳と55-64歳にあった。

図15 ISSカテゴリー別の症例数の年齢分布

Japan Trauma Data Bank Report 2004-2007

ISS \ 年齢	0	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-34	35-44	45-54	55-64	65-74	75-84	85-	不明	計
1-9	23	156	247	196	493	629	958	756	672	907	786	825	526	3	7,177
10-15	3	15	65	37	159	224	346	306	286	359	274	169	57	2	2,302
16-24	23	37	94	62	204	246	444	401	425	595	571	373	123	10	3,608
25-35	15	34	60	47	200	214	353	309	352	520	491	389	98	14	3,096
35<	1	12	16	14	85	126	234	164	162	213	204	132	32	7	1,402
不明	12	31	80	50	156	192	334	312	253	408	412	284	119	29	2,672
計	77	285	562	406	1,297	1,631	2,669	2,248	2,150	3,002	2,738	2,172	955	65	20,257

表15 ISSカテゴリー別の症例数の年齢分布

n=2,456

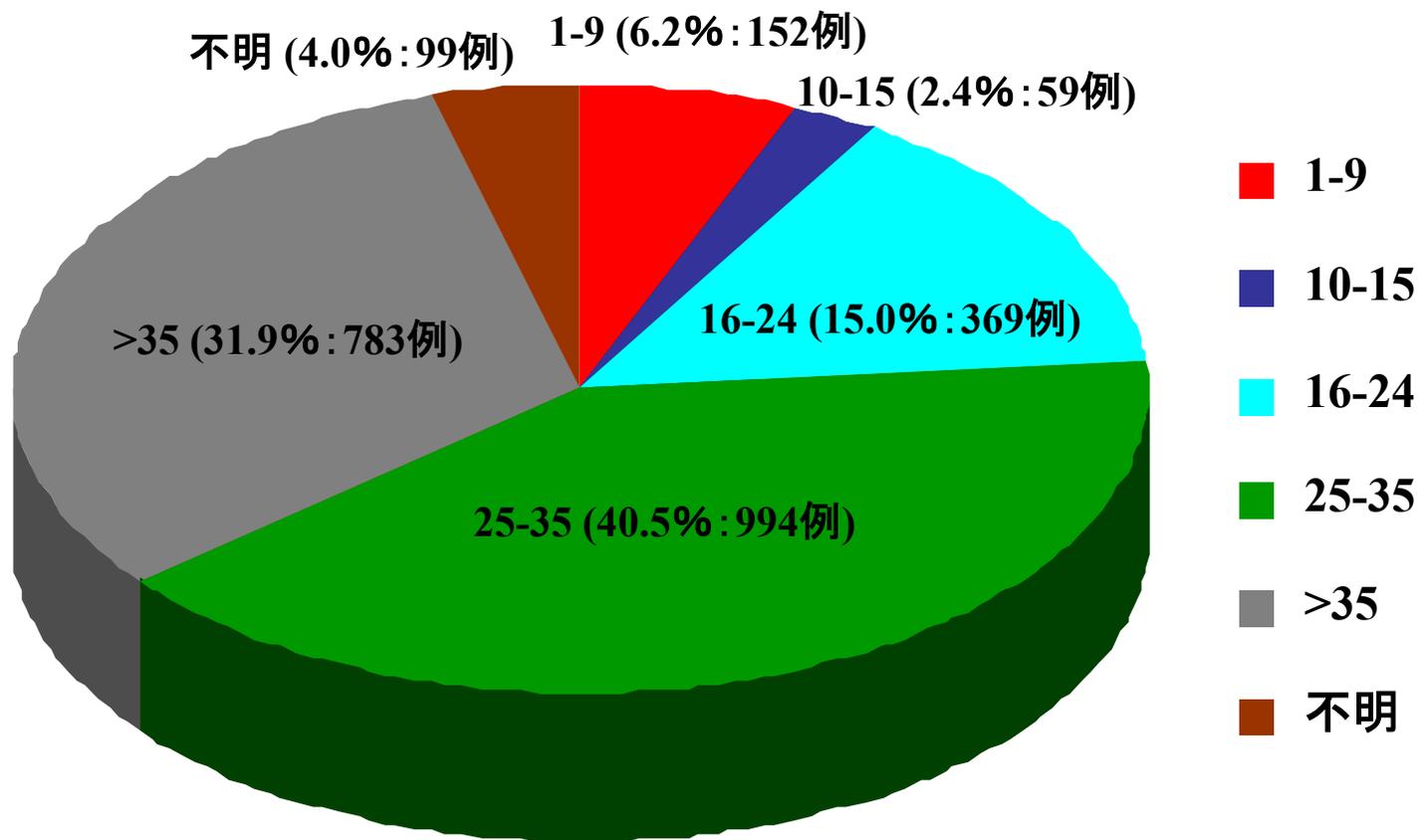


図16-A ISSカテゴリー別の死亡数の割合

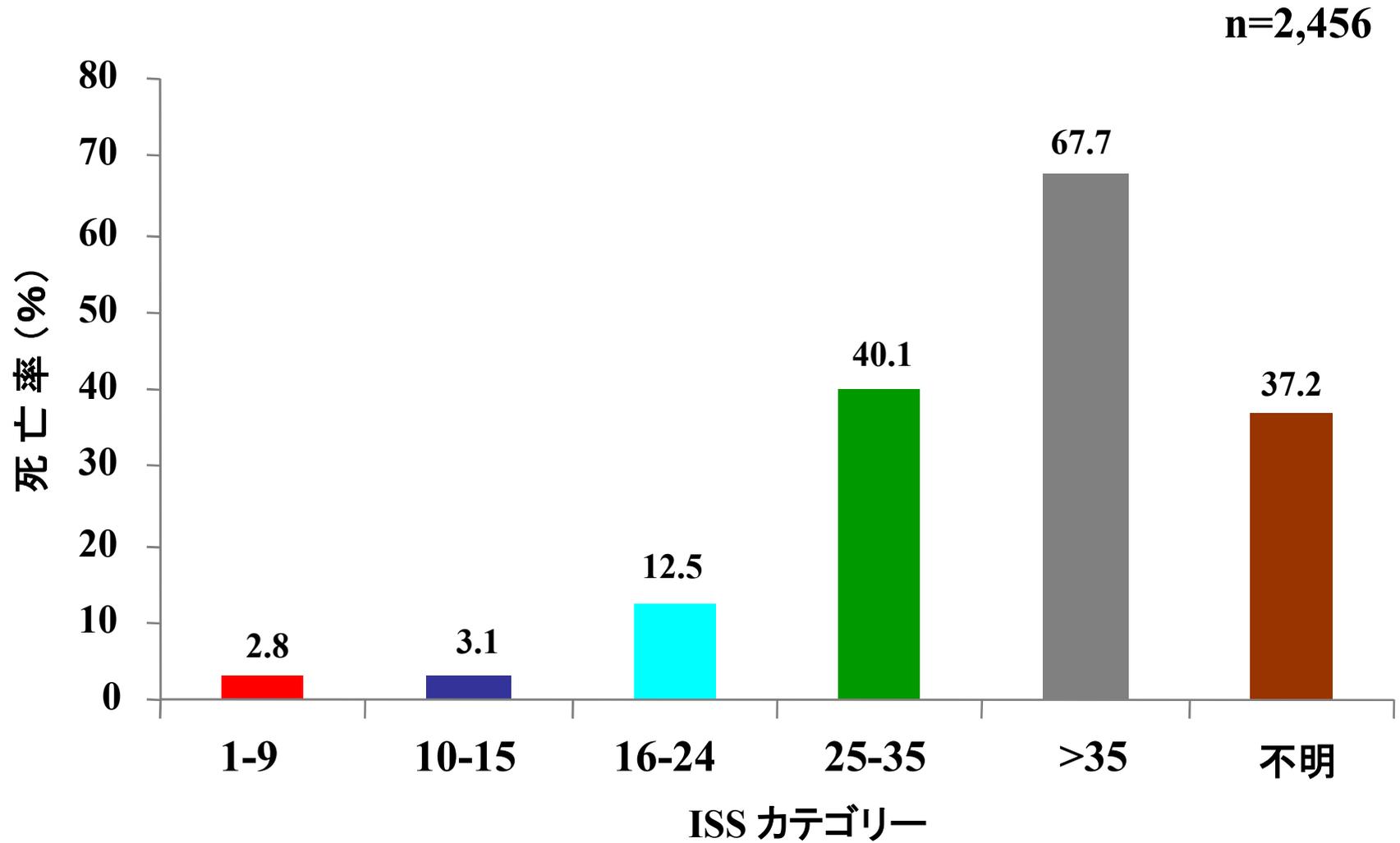
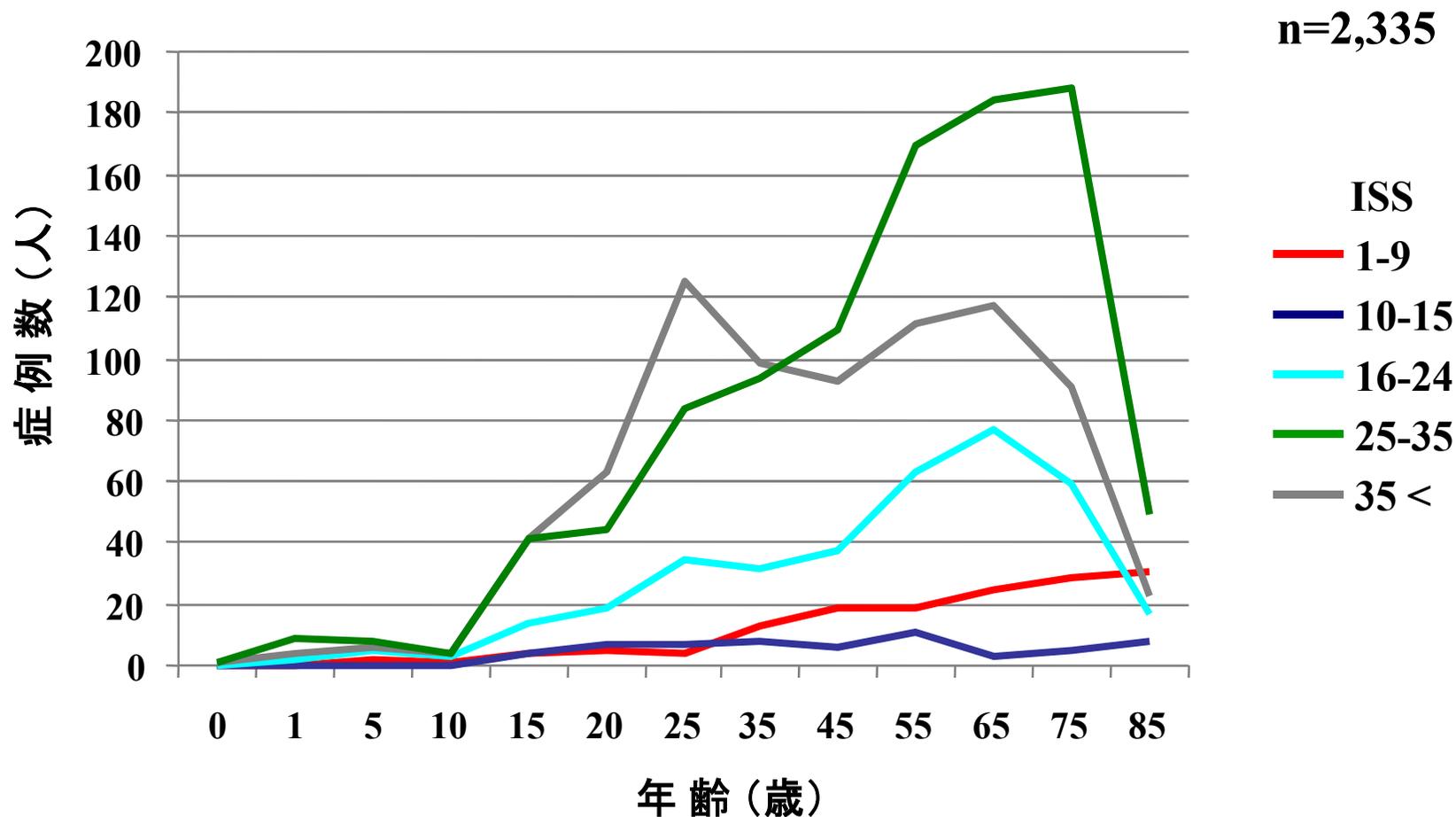


図16-B ISSカテゴリー別の死亡率



ISS 16-24とISS 25-35は中高年にピークを持ち、ISS>35は若者と中高年に2つのピークを持った。

図17 ISSカテゴリー別死亡数の年齢分布

n=2,456

	0	1	5	10	15	20	25	35	45	55	65	75	85	不明	計
1-9	0	0	2	1	4	5	4	13	19	19	25	29	31	0	152
10-15	0	0	0	0	4	7	7	8	6	11	3	5	8	0	59
16-24	0	2	5	3	14	19	34	32	37	63	77	59	17	7	369
25-35	1	9	8	4	41	44	84	94	109	169	184	188	49	10	994
35<	1	4	6	4	41	63	125	99	93	111	117	91	23	5	783
不明	0	0	0	1	6	7	11	18	8	12	19	10	2	5	99
計	2	15	21	13	110	145	265	264	272	385	425	382	130	27	2,456

表17 ISSカテゴリー別死亡数の年齢分布

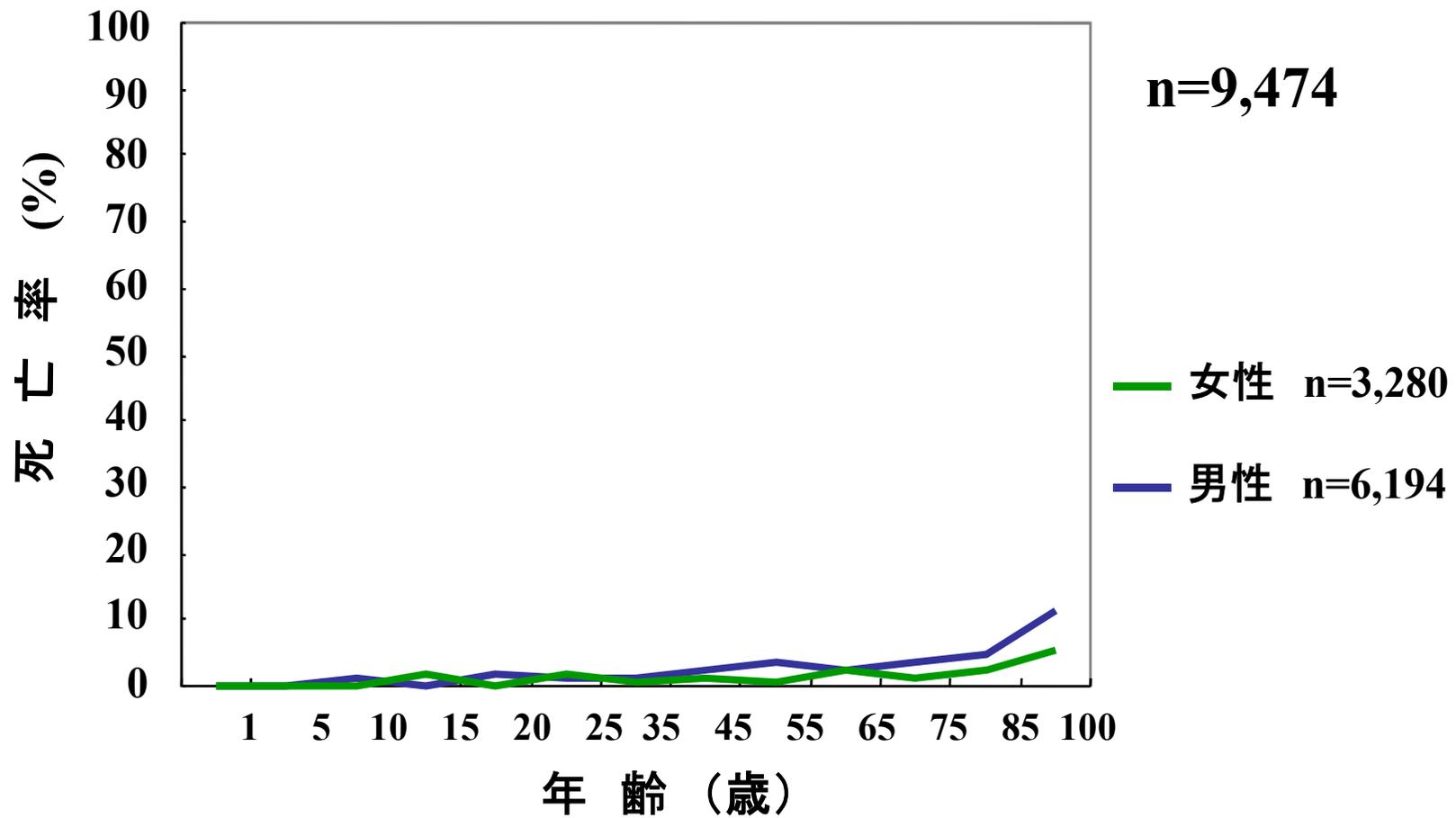


図18 ISS 15以下の死亡数の性別年齢分布

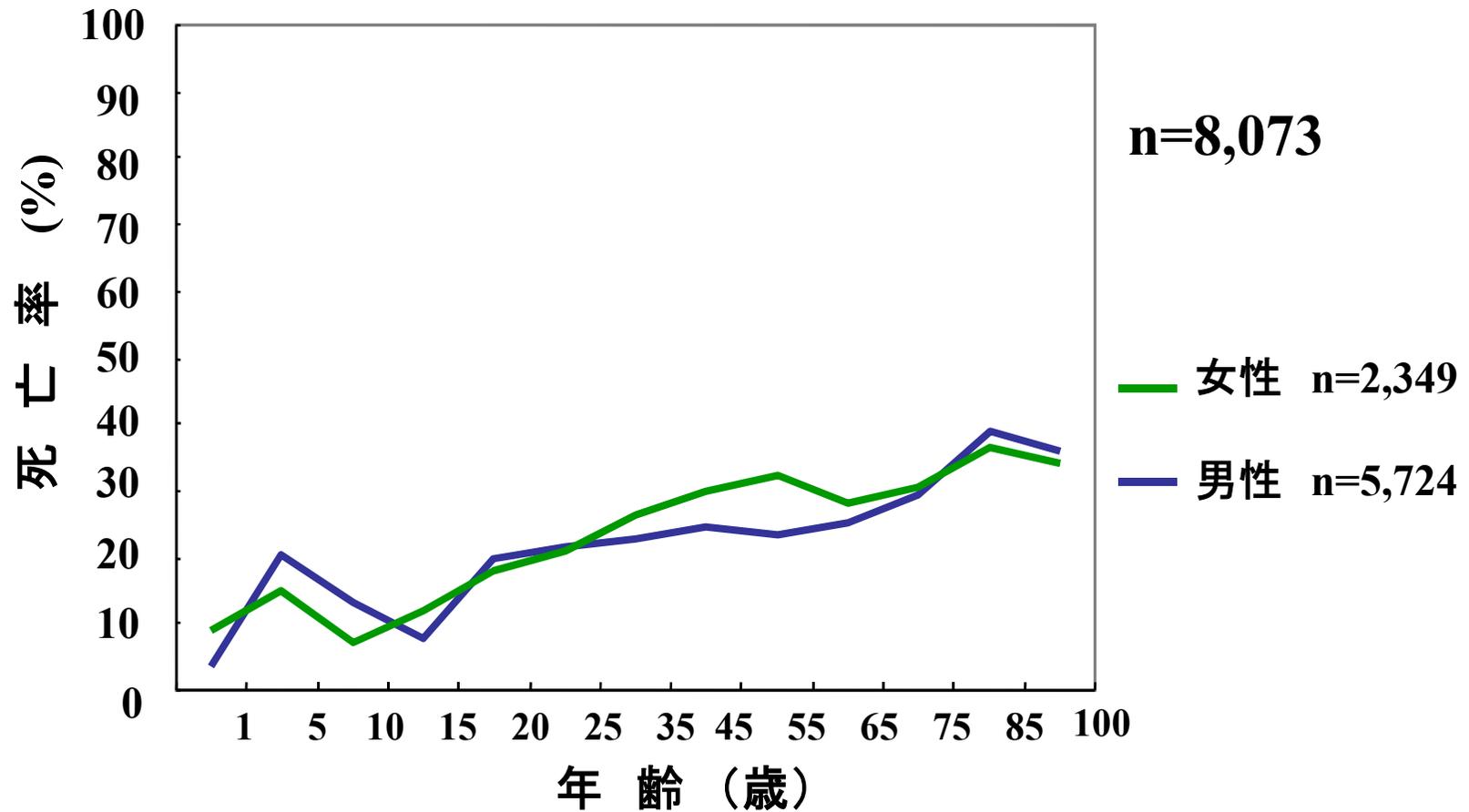


図19 ISS 16以上の死亡数の性別年齢分布

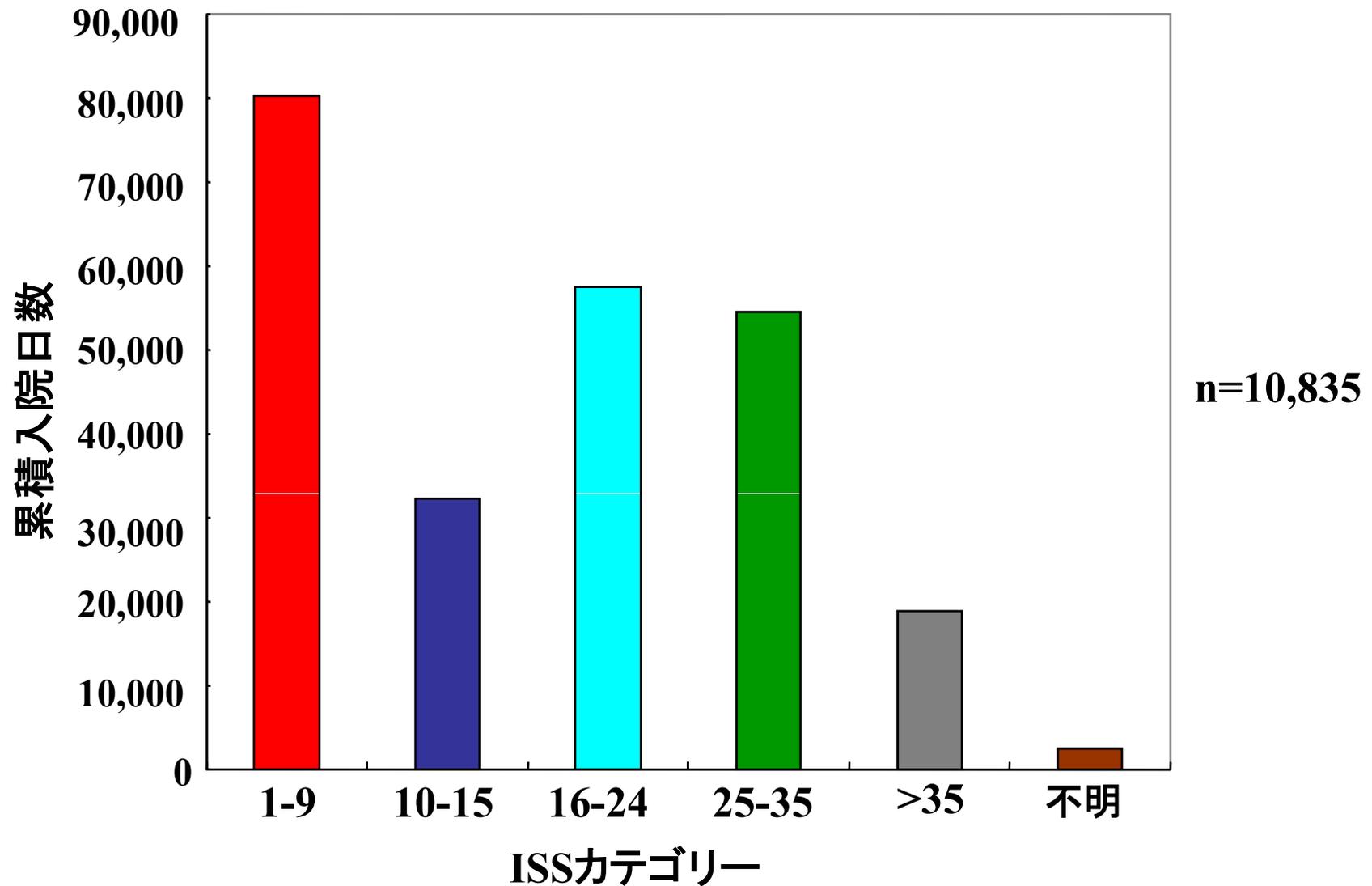


図20-A ISS カテゴリー別の累積入院日数

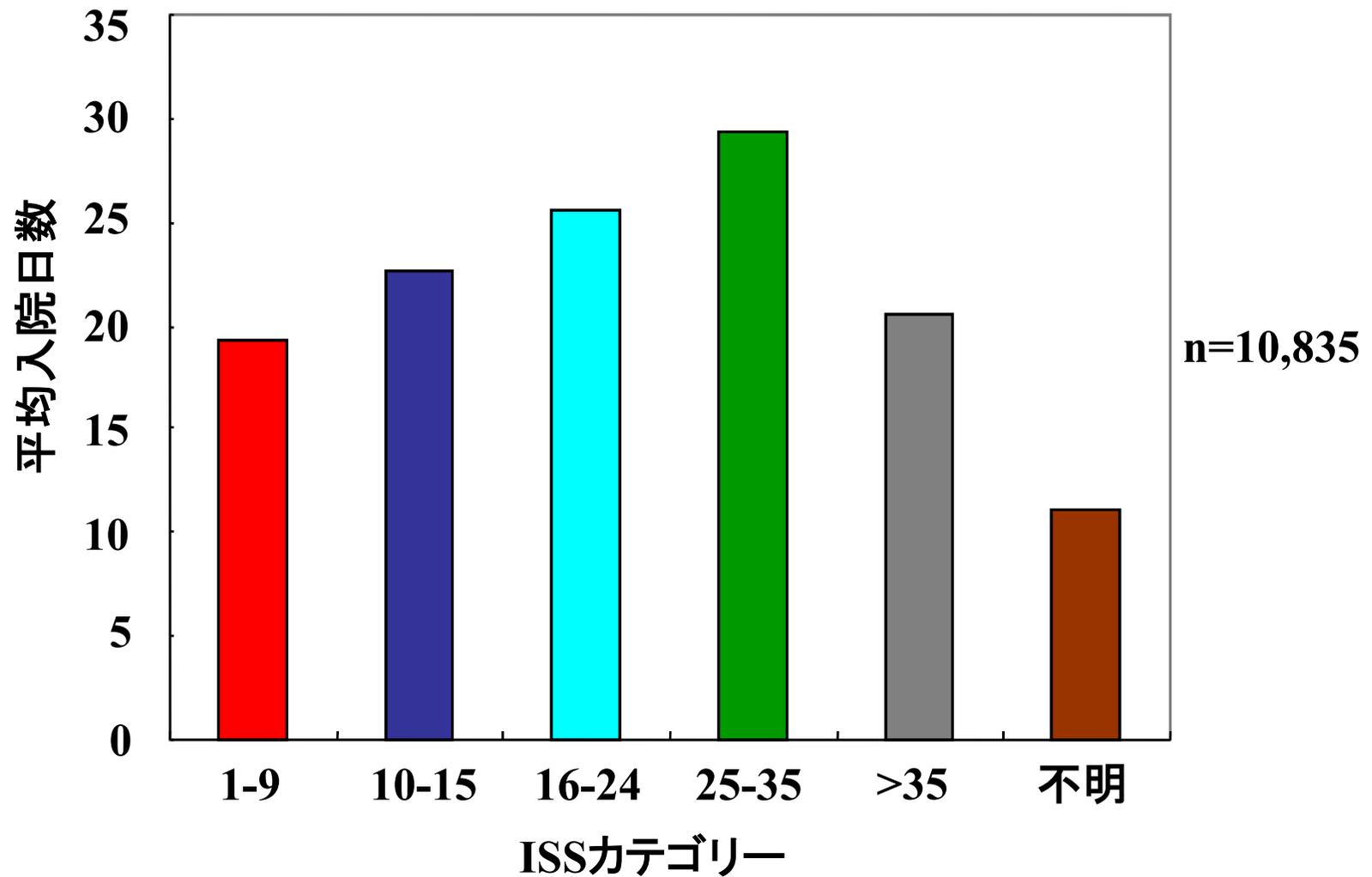


図20-B ISS カテゴリー別の平均入院日数

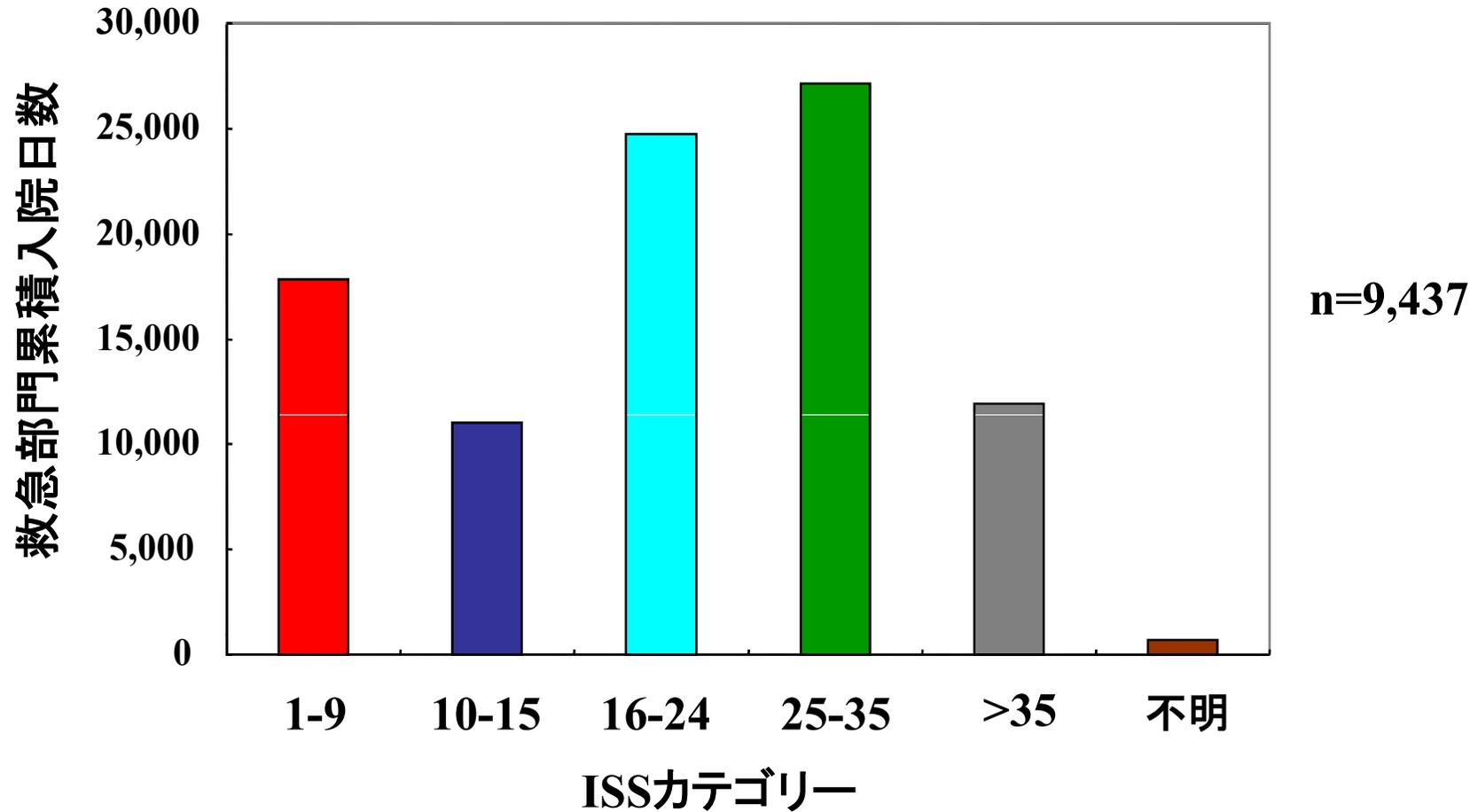


図20-C ISS カテゴリー別の救急部門累積入院日数

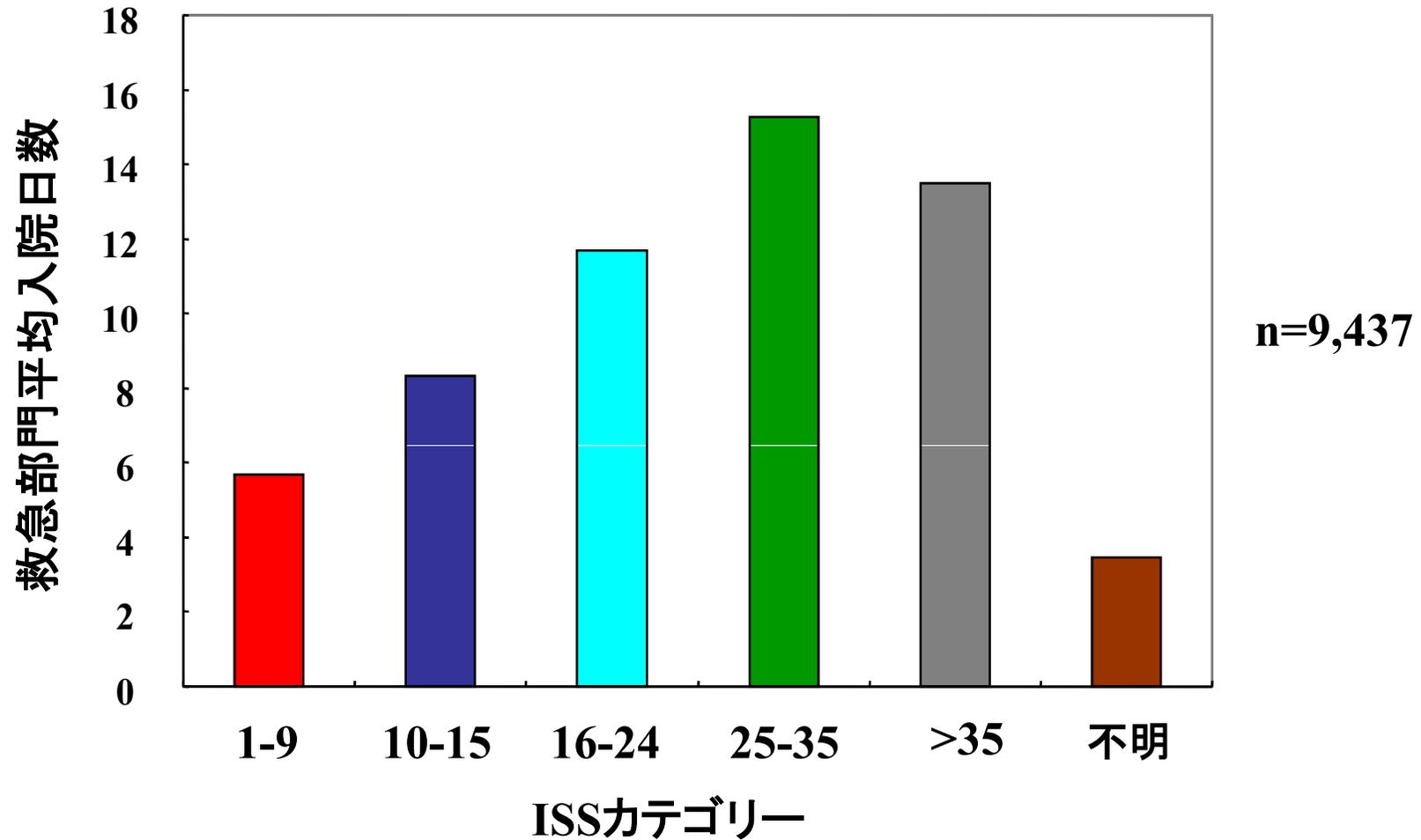
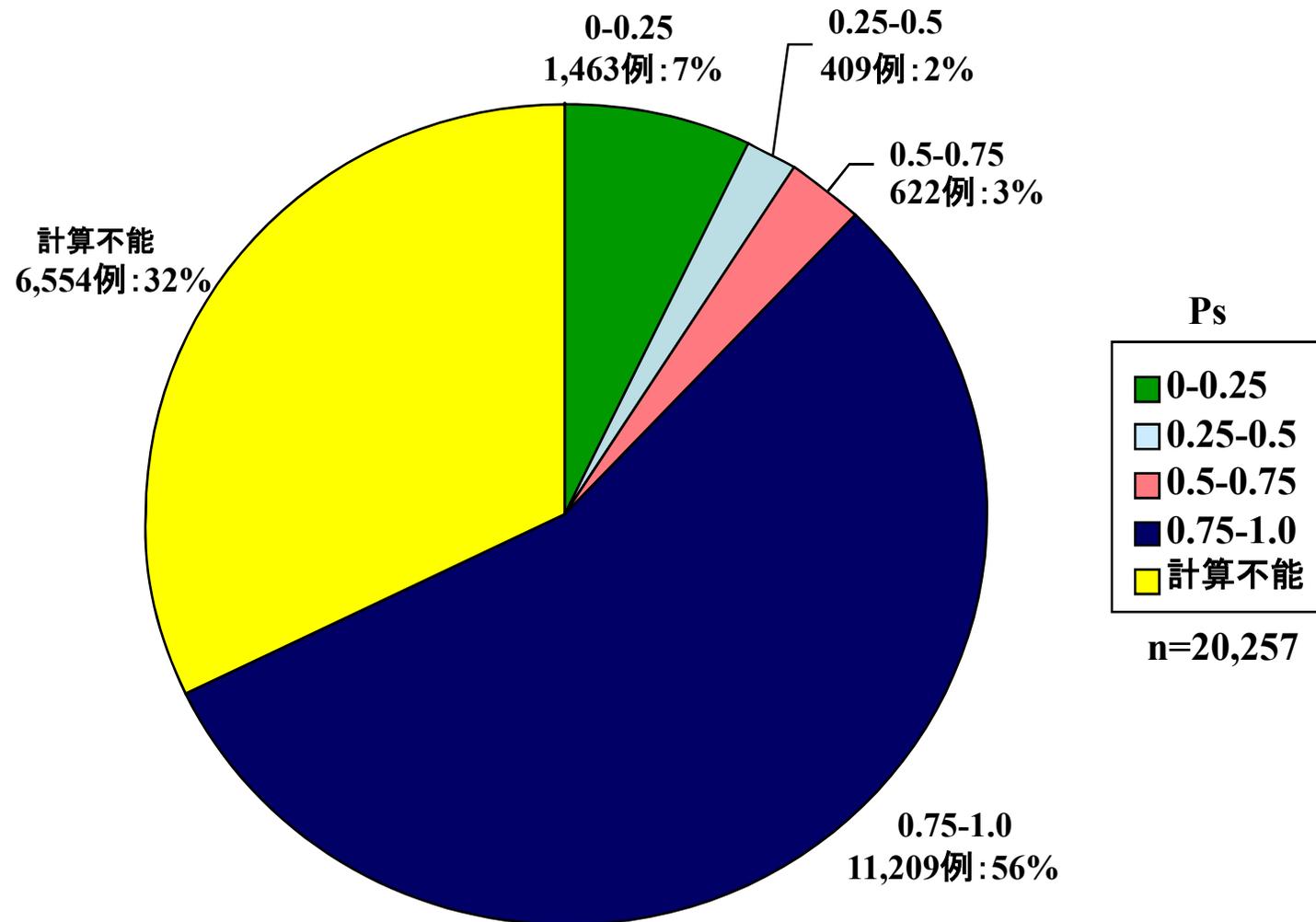


図20-D ISS カテゴリー別の救急部門平均入院日数



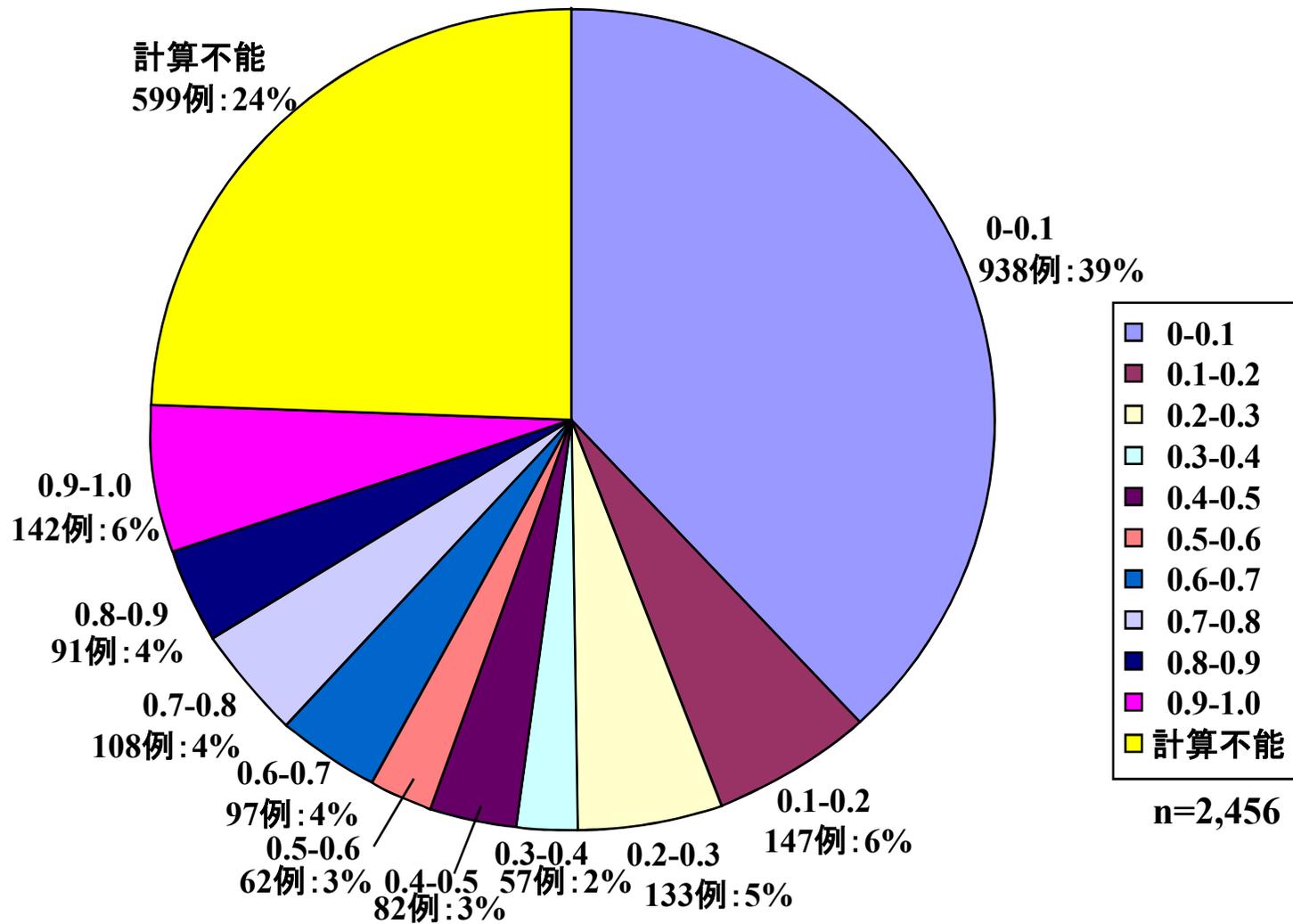
Ps(0.75-1.0)の症例が56%を占め、最も多かった。また、Psの計算に必要な項目が欠損している症例が32%あった。

図21 Probability of Survival (Ps) カテゴリー別の症例数の割合

Ps	0-0.25	0.25-0.5	0.5-0.75	0.75-1.0	計算不能
症例数	1,463	409	622	11,209	6,554
総症例数に対する割合	7.2%	2.0%	3.1%	55.3%	32.4%

Ps(0.75-1.0)の症例が56%を占め、最も多かった。また、Psの計算に必要な項目が欠損している症例が32%あった。

表21 Probability of Survival (Ps) カテゴリー別の症例数の割合



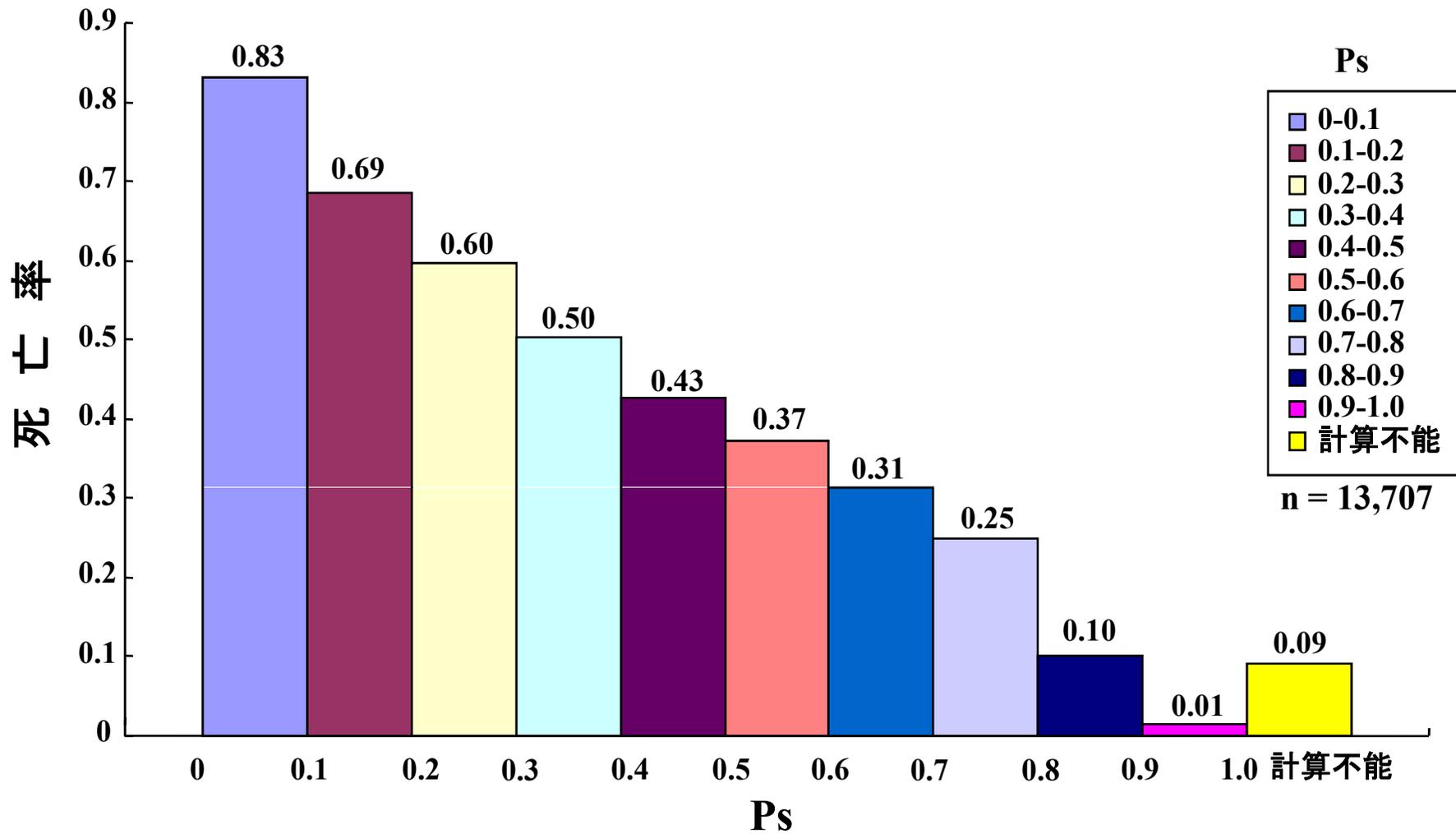
Psが0-0.1の群が死亡者の39%を占め最も多かった。

図22-A Probability of survival (Ps) カテゴリー別の死亡数の割合

Ps	0-0.1	0.1-0.2	0.2-0.3	0.3-0.4	0.4-0.5	0.5-0.6
死亡数	938	147	133	57	82	62
全死亡症例に対する割合	38.2%	6.0%	5.4%	2.3%	3.3%	2.5%
Ps	0.6-0.7	0.7-0.8	0.8-0.9	0.9-1.0	計算不能	合計
死亡数	97	108	91	142	599	2,456
全死亡症例に対する割合	3.9%	4.4%	3.7%	5.8%	24.4%	100%

Psが0-0.1の群が死亡者の39%を占め最も多かった。

表22-A Probability of survival (Ps) カテゴリー別の死亡数の割合



Psが0-0.1の群では死亡率が83%を超えているが、0.9-1.0の群では1.4%であった。
Psが高くなるにつれて死亡率は減少する傾向があった。

図22-B 各Probability of survival (Ps) カテゴリーの死亡率

Japan Trauma Data Bank Report 2004-2007

Ps	0-0.1	0.1-0.2	0.2-0.3	0.3-0.4	0.4-0.5	0.5-0.6
患者数	1,130	214	223	113	192	166
死亡数	938	147	133	57	82	62
死亡率	0.83	0.69	0.60	0.50	0.43	0.37
Ps	0.6-0.7	0.7-0.8	0.8-0.9	0.9-1.0	計算不能	合計
患者数	310	432	899	10,024	6,554	20,257
死亡数	97	108	91	142	599	2,456
死亡率	0.31	0.25	0.10	0.01	0.09	0.12

Psが0-0.1の群では死亡率が83%を超えているが、0.9-1.0の群では1.4%であった。
Psが高くなるにつれて死亡率は減少する傾向があった。

表22-B 各Probability of survival (Ps) カテゴリーの死亡率

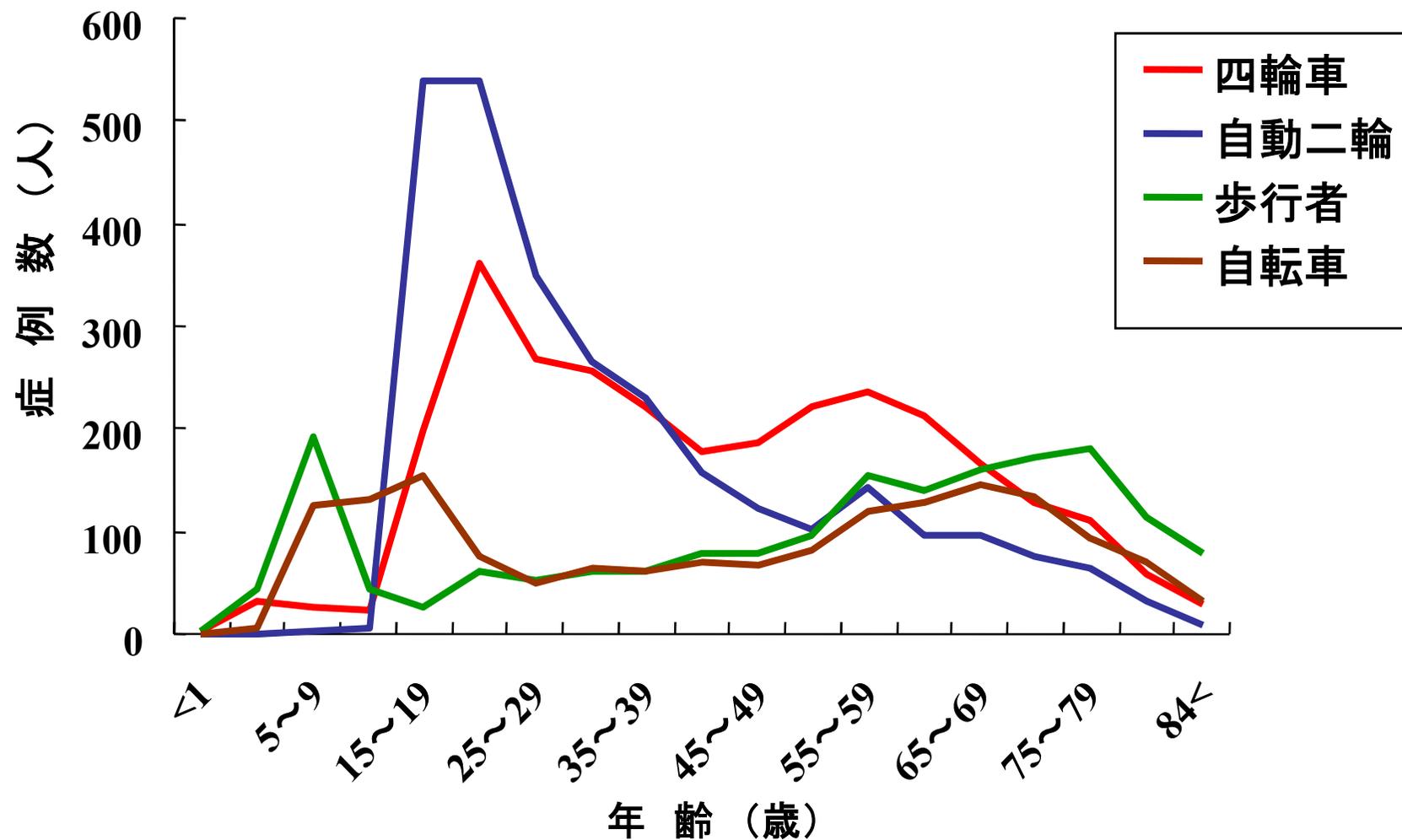


図23 交通事故患者における種類別および年齢別の患者数

Japan Trauma Data Bank Report 2004-2007

年齢	四輪車	自動二輪	歩行者	自転車
<1	2	0	2	0
1~4	32	0	45	7
5~9	25	2	192	124
10~14	24	6	43	132
15~19	197	538	27	155
20~24	361	540	62	76
25~29	268	349	52	49
30~34	256	264	61	65
35~39	221	230	61	60
40~44	179	158	80	70
45~49	187	123	80	68
50~54	222	103	96	82
55~59	237	143	154	120
60~64	213	96	139	129
65~69	166	95	160	146
70~74	129	76	173	133
75~79	111	64	182	93
80~84	59	33	114	70
84<	28	8	78	33
総計	2,917	2,828	1,801	1,612

表23 交通事故患者における種類別および年齢別の患者数

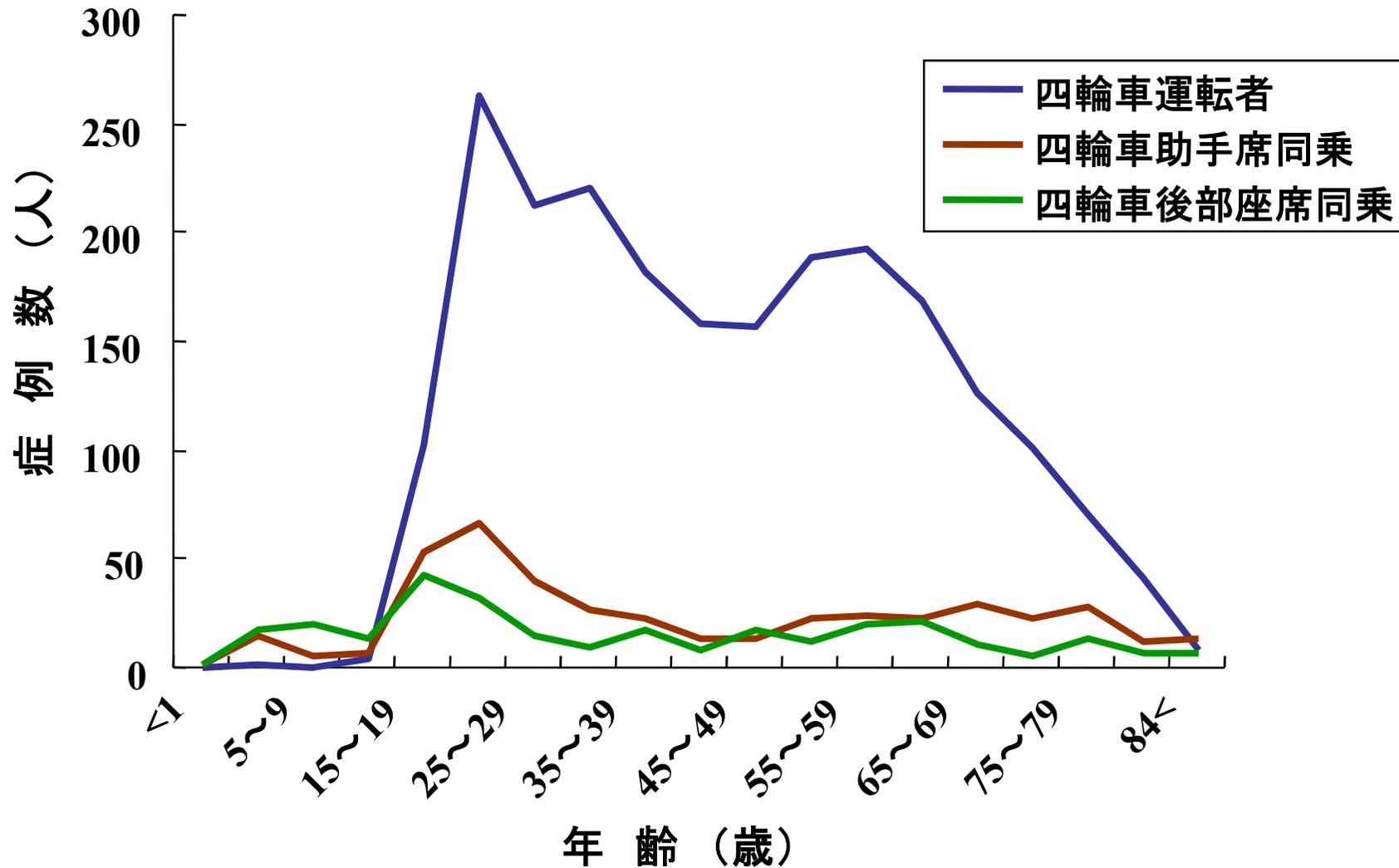


図24 四輪車事故症例数の運転者・乗客別年齢分布

Japan Trauma Data Bank Report 2004-2007

年齢	四輪車両運転者	四輪車助手席同乗	四輪車後部座席同乗	四輪車合計
<1	0	1	1	2
1~4	1	14	17	32
5~9	0	5	20	25
10~14	4	7	13	24
15~19	102	53	42	197
20~24	263	66	32	361
25~29	213	40	15	268
30~34	220	27	9	256
35~39	182	22	17	221
40~44	158	13	8	179
45~49	157	13	17	187
50~54	188	22	12	222
55~59	193	24	20	237
60~64	169	23	21	213
65~69	126	29	11	166
70~74	101	23	5	129
75~79	70	28	13	111
80~84	41	12	6	59
84<	8	13	7	28
総計	2,196	435	286	2,917

表24 四輪車事故症例数の運転者・乗客別年齢分布

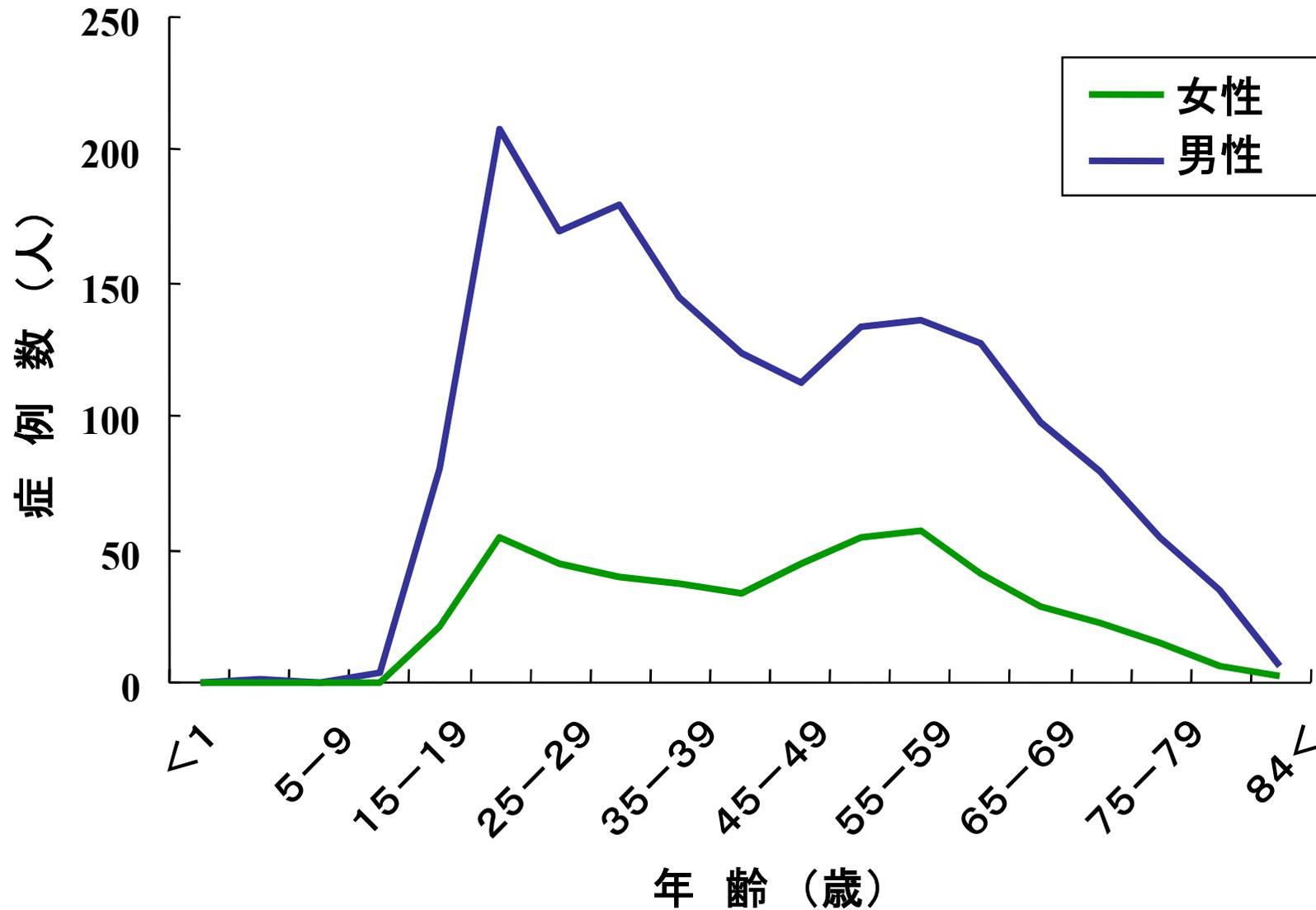


図25 四輪者事故(運転者)症例数の性別年齢分布

Japan Trauma Data Bank Report 2004-2007

年齢	男	女	総計
<1	0	0	0
1~4	1	0	1
5~9	0	0	0
10~14	4	0	4
15~19	81	21	102
20~24	208	55	263
25~29	169	44	213
30~34	180	40	220
35~39	145	37	182
40~44	124	34	158
45~49	113	44	157
50~54	134	54	188
55~59	136	57	193
60~64	128	41	169
65~69	98	28	126
70~74	79	22	101
75~79	55	15	70
80~84	35	6	41
84<	6	2	8
総計	1,696	500	2,196

表25 四輪者事故(運転者)症例数の性別年齢分布

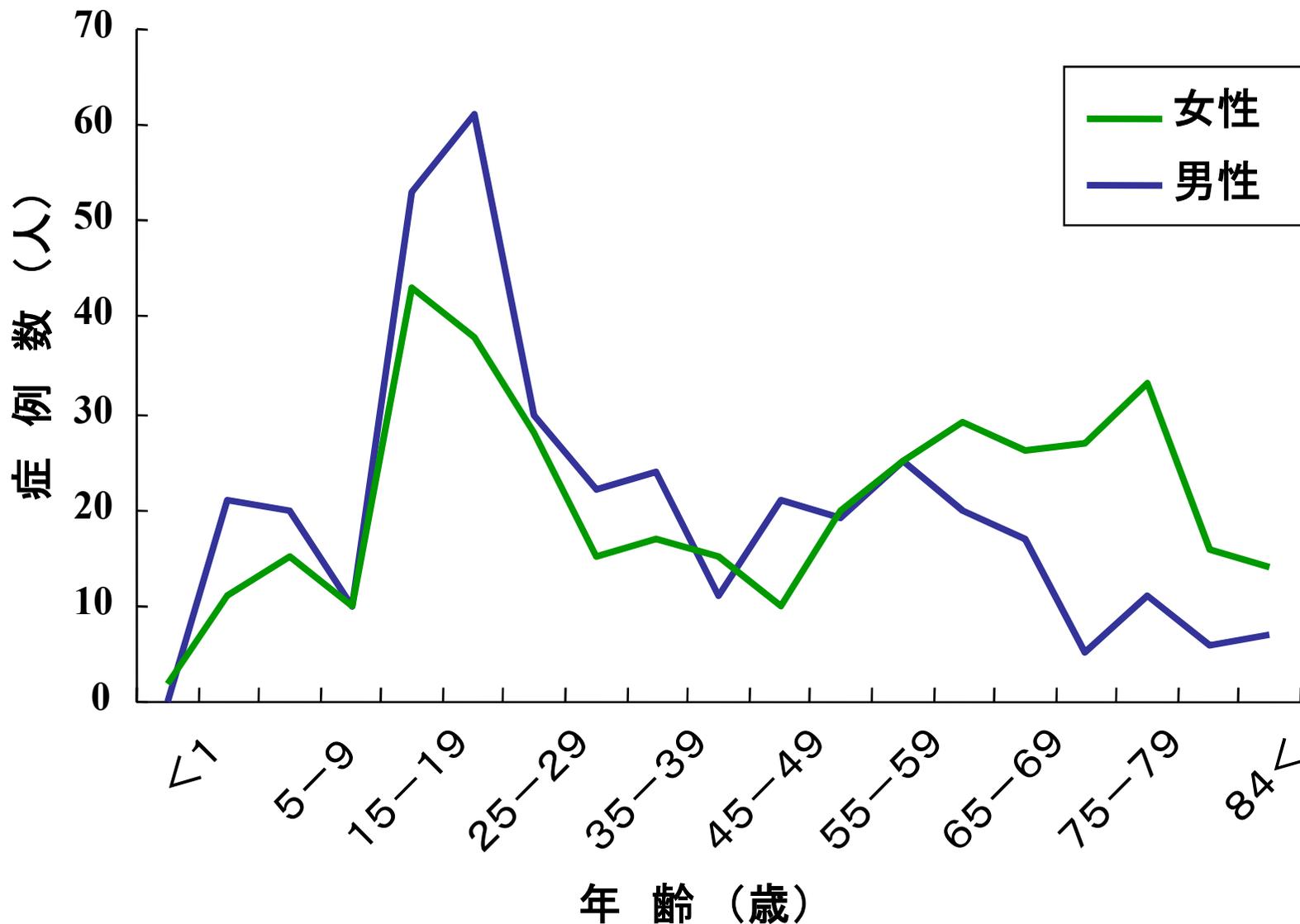


図26 四輪者事故(助手席)症例数の性別年齢分布

年齢	男	女	総計
<1	0	2	2
1~4	21	11	32
5~9	20	15	35
10~14	10	10	20
15~19	53	43	96
20~24	61	38	99
25~29	30	28	58
30~34	22	15	37
35~39	24	17	41
40~44	11	15	26
45~49	21	10	31
50~54	19	20	39
55~59	25	25	50
60~64	20	29	49
65~69	17	26	43
70~74	5	27	32
75~79	11	33	44
80~84	6	16	22
84<	7	14	21
総計	383	394	777

表26 四輪者事故(助手席)症例数の性別年齢分布

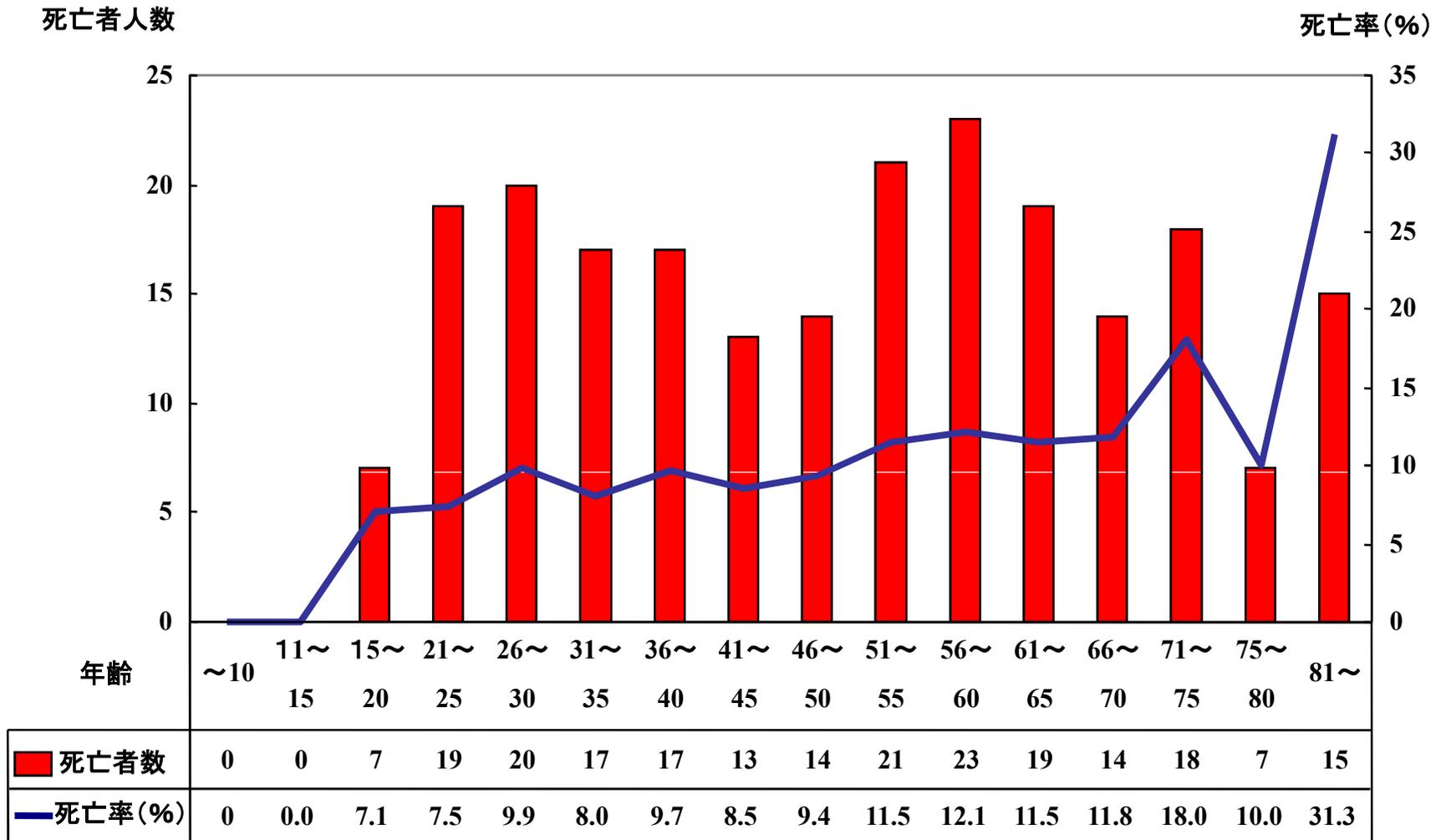


図27 四輪車における運転手の年齢別死亡者数および死亡率

死亡者人数

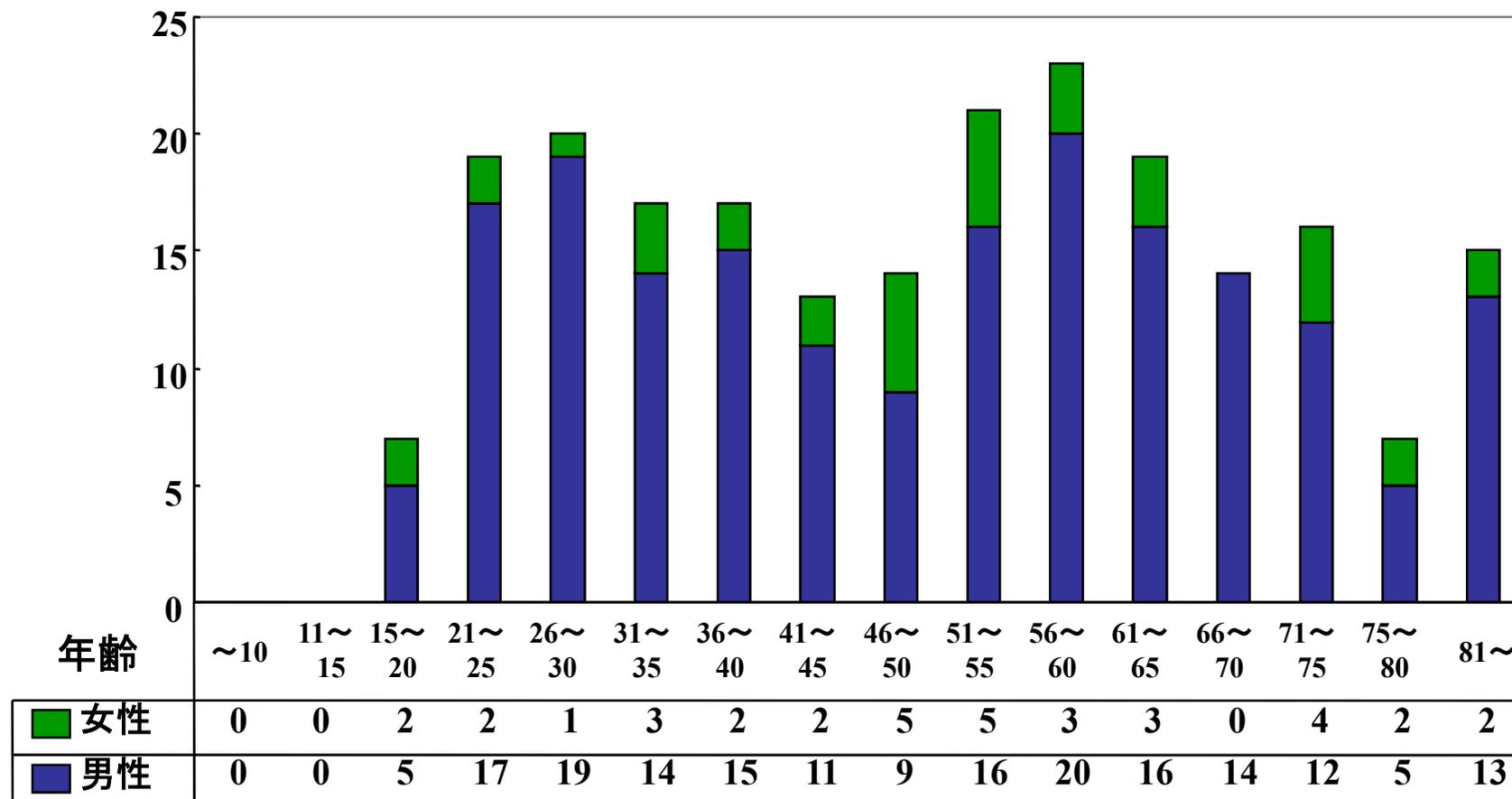
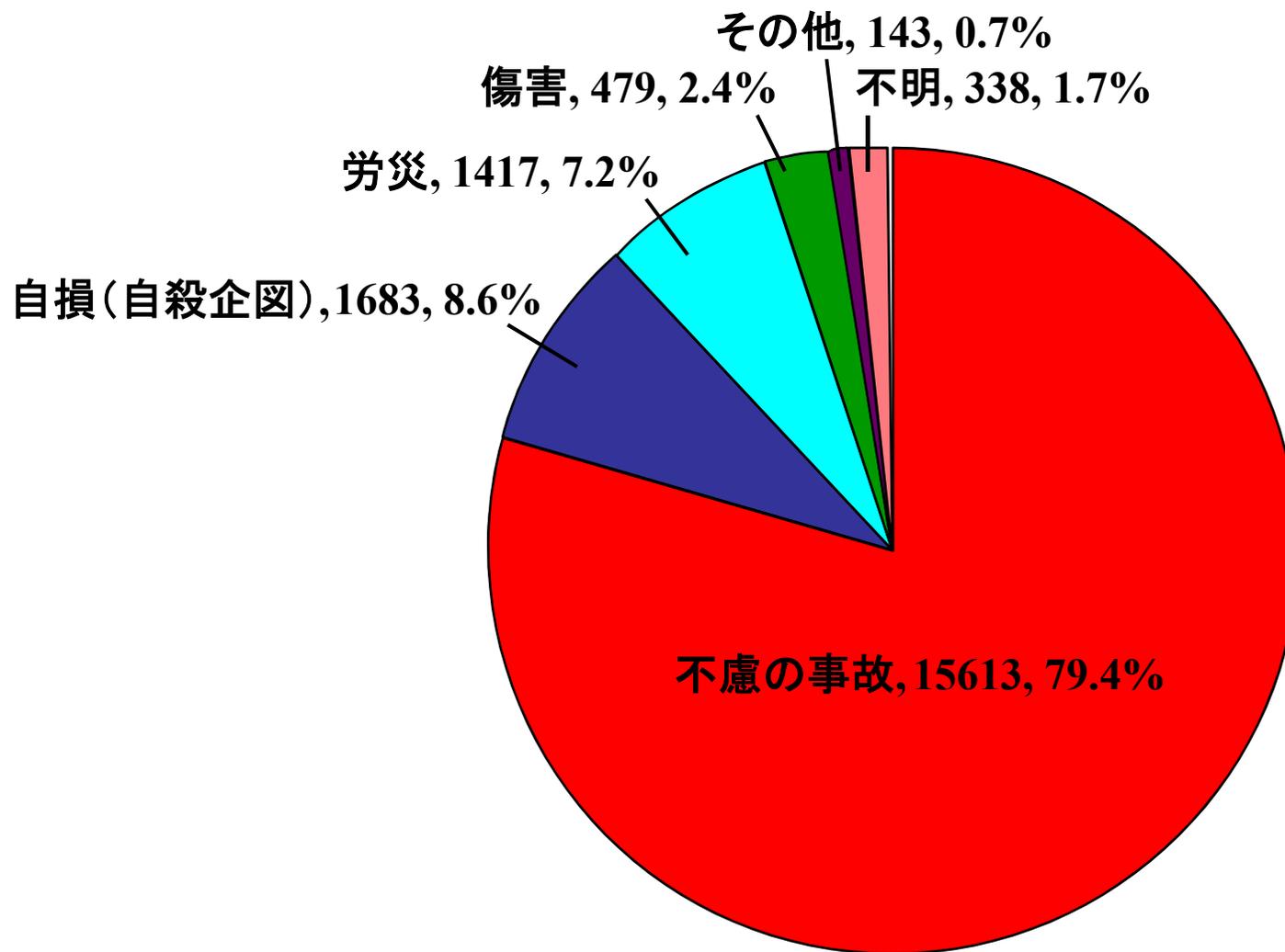
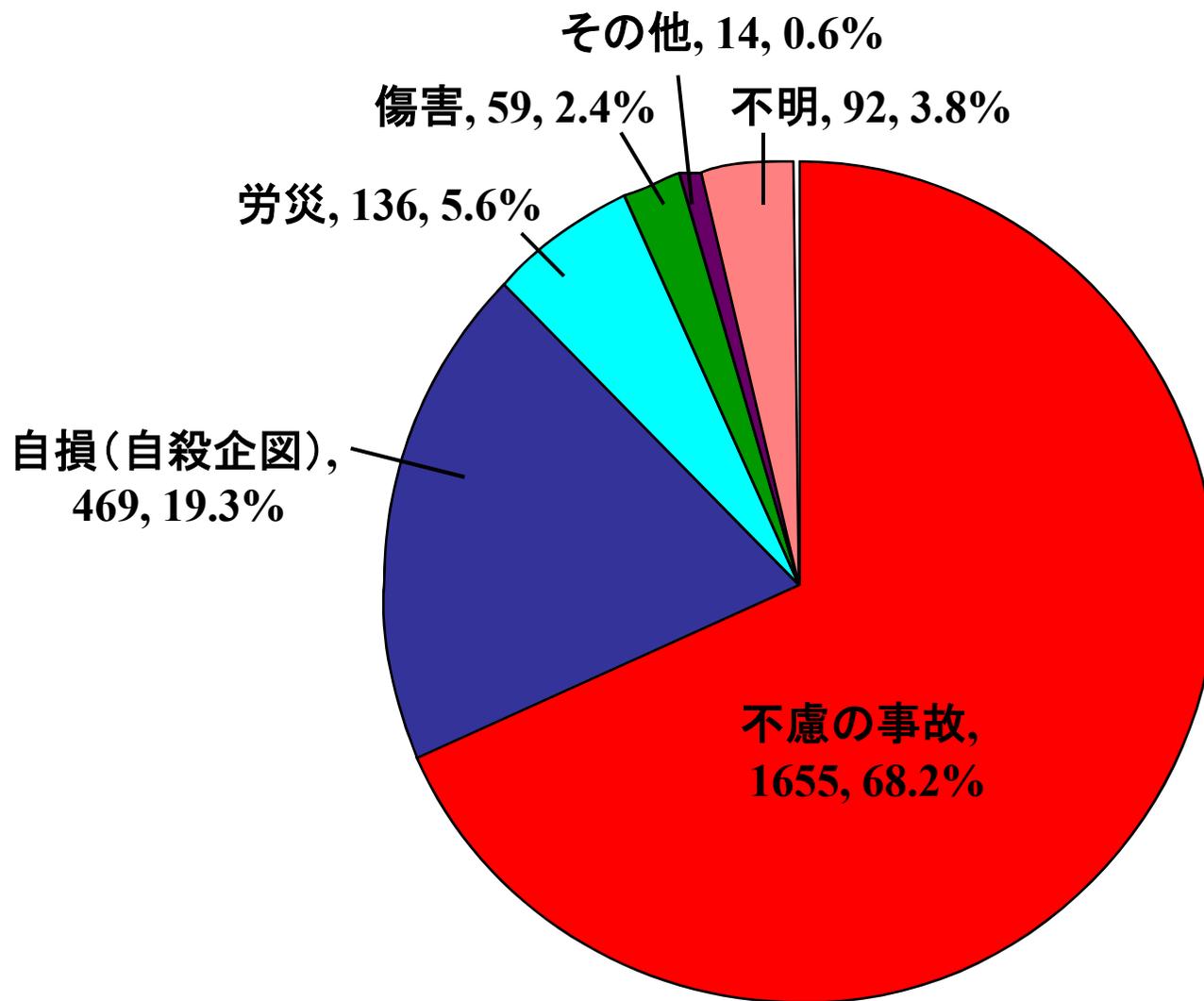


図28 性別および年齢別運転死亡者数



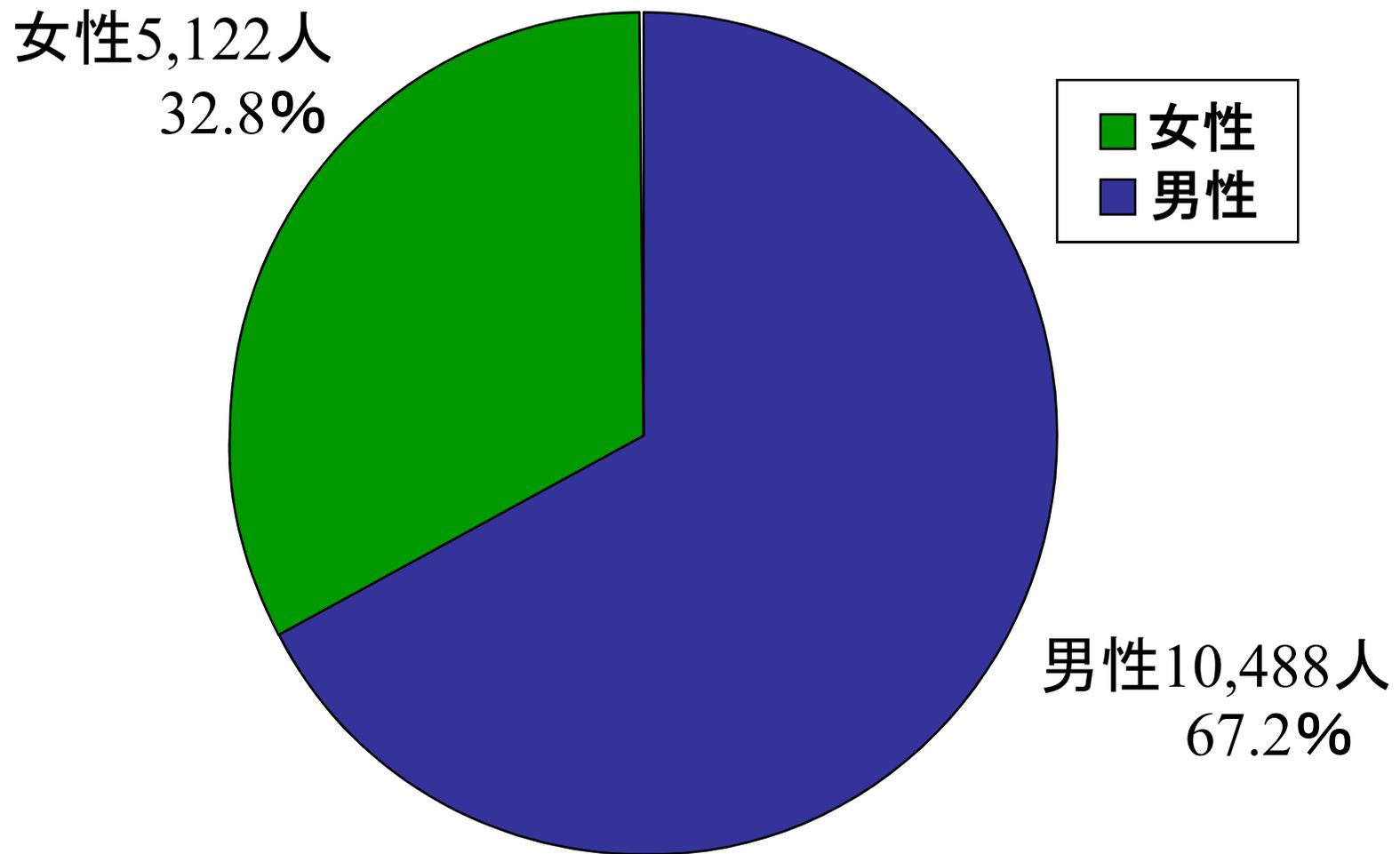
外傷原因としては不慮の事故が最も多く、全登録患者の79.4%(労災を併せると86.6%)を占めた。

図29 外傷原因別の登録患者比率



外傷原因別の死亡者比率としては不慮の事故が最も多く、68.2%(労災と併せると73.8%)を占めた。

図30 外傷原因別の死亡者比率



年齢不詳を除く。労働災害に関連した事故は含む。

図31 不慮の事故者における性別比率

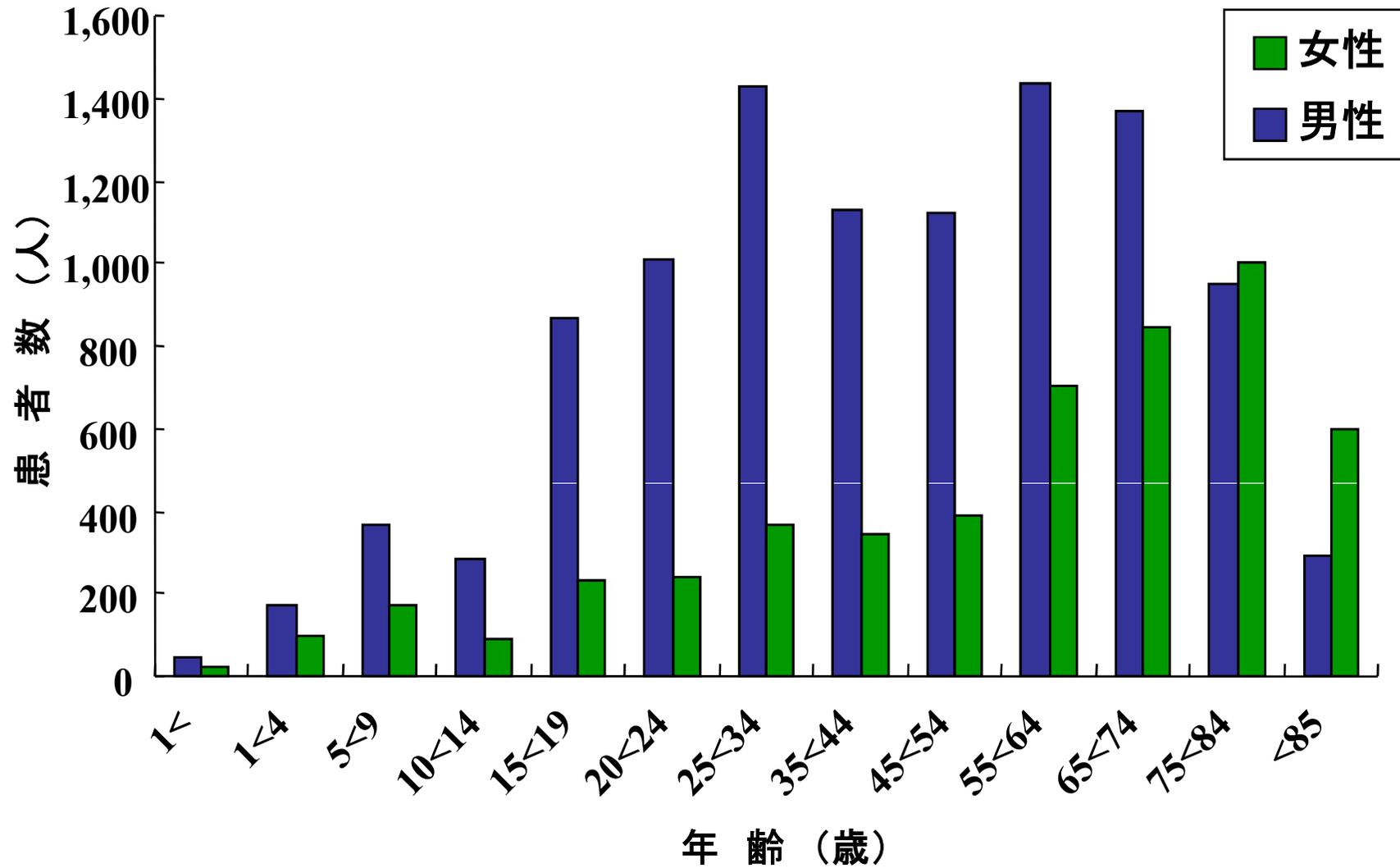


図32 不慮の事故者数の性別年齢分布

	男性	女性	計
1<	44	25	69
1<4	175	94	269
5<9	363	174	537
10<14	281	93	374
15<19	866	230	1,096
20<24	1,008	241	1,249
25<34	1,430	363	1,793
35<44	1,126	347	1,473
45<54	1,123	392	1,515
55<64	1,434	701	2,135
65<74	1,371	847	2,218
75<84	953	1,005	1,958
<85	292	600	892
合計	10,466	5,112	15,578

表32 不慮の事故者数の性別年齢分布

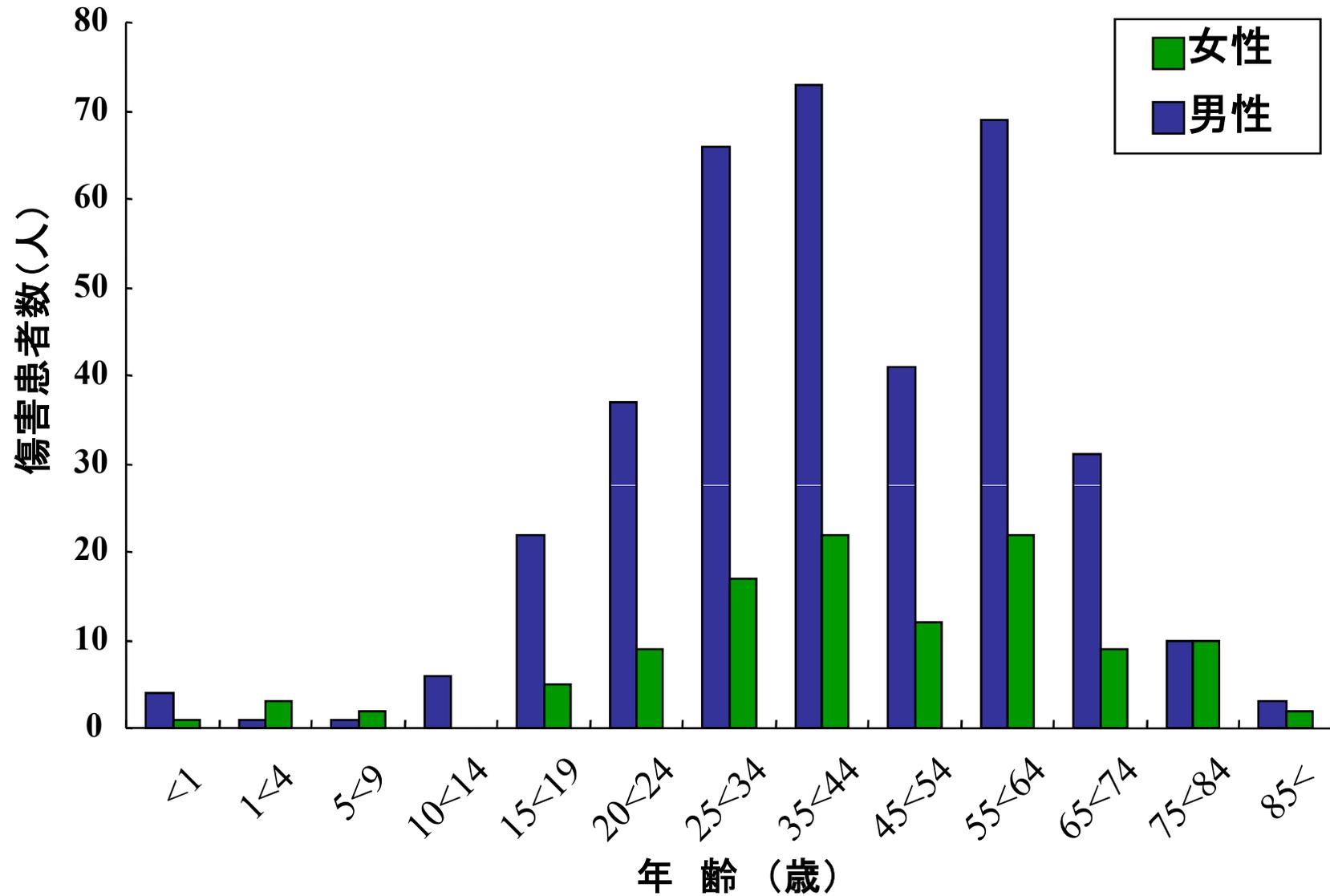


図33 性別及び年齢別の傷害患者数

Japan Trauma Data Bank Report 2004-2007

	男性	女性	計
1<	4	1	5
1<4	1	3	4
5<9	1	2	3
10<14	6		6
15<19	22	5	27
20<24	37	9	46
25<34	66	17	83
35<44	73	22	95
45<54	41	12	53
55<64	69	22	91
65<74	31	9	40
75<84	10	10	20
<85	3	2	5
合計	364	114	478

表33 性別及び年齢別の傷害患者数

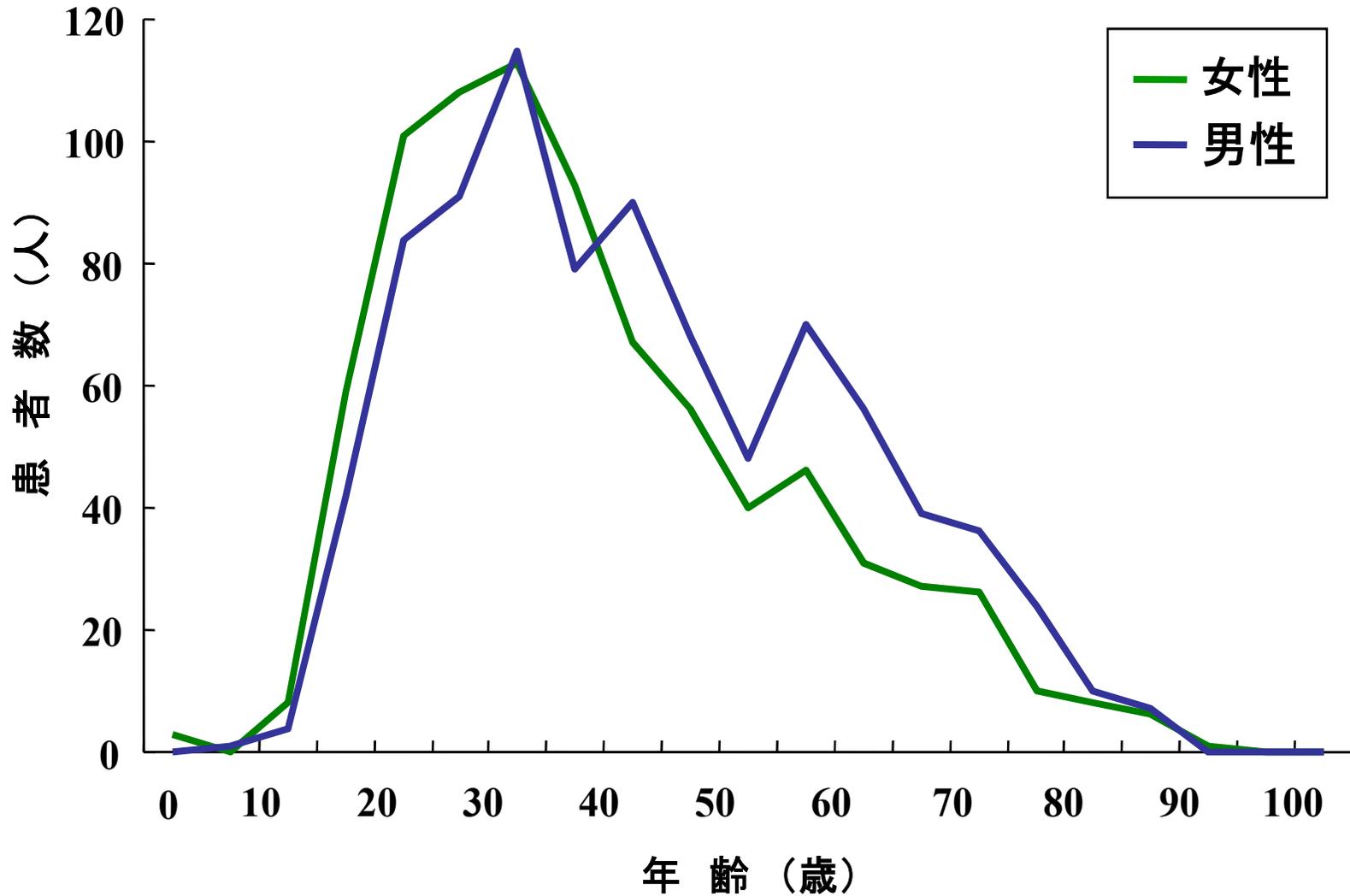
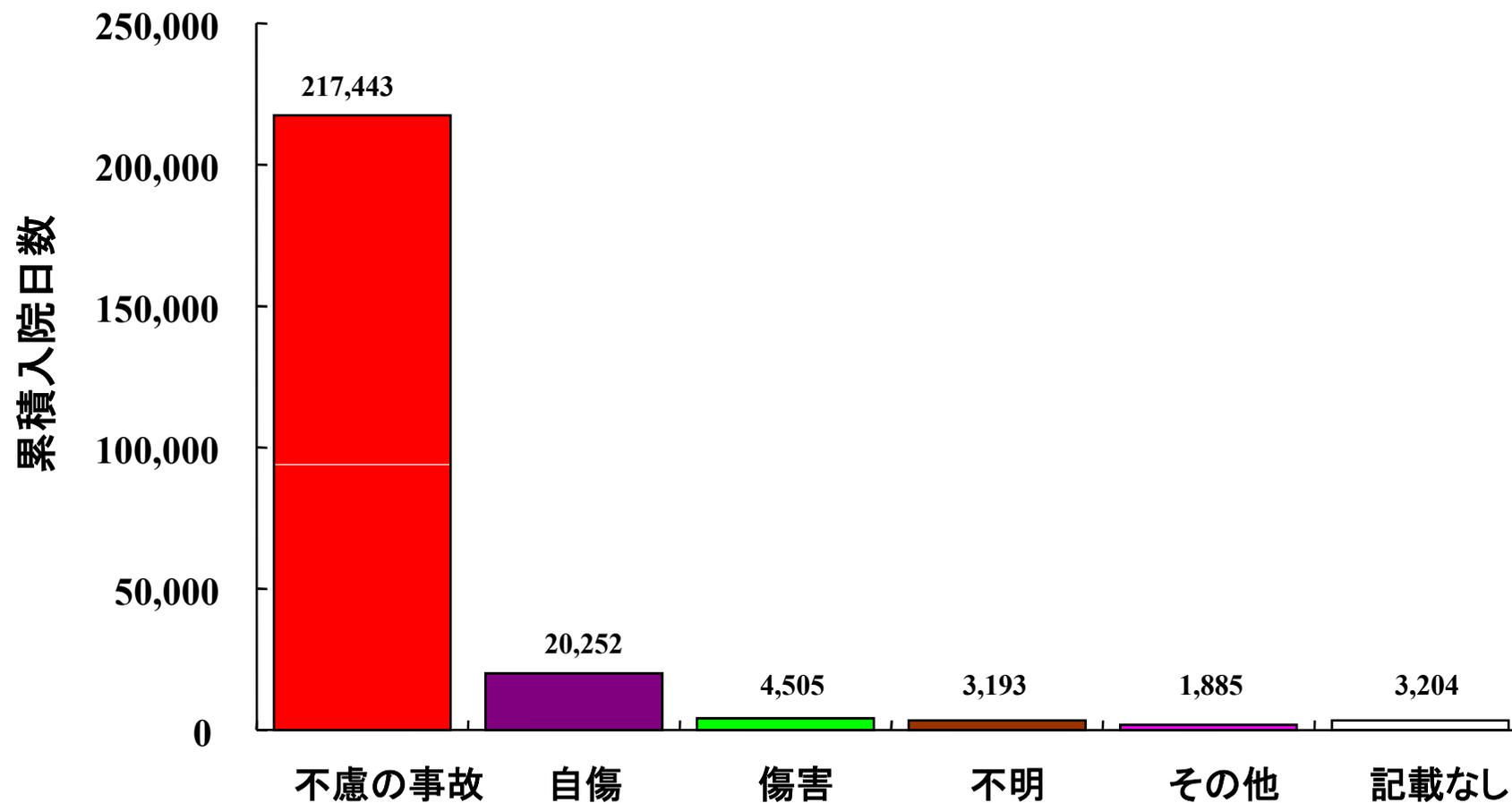


図34 自傷による外傷患者の性別年齢分布

Japan Trauma Data Bank Report 2004-2007

	0-	5-	10-	15-	20-	25-	30-	35-	40-	45-	50-	55-	60-	65-	70-	75-	80-	85-	90-	95-	100-	不明	計
女性	3	0	8	59	101	108	113	93	67	56	40	46	31	27	26	10	8	6	1	0	0	9	812
男性	0	1	4	42	84	91	115	79	90	68	48	70	56	39	36	24	10	7	0	0	0	5	869
計	3	1	12	101	185	199	228	172	157	124	88	116	87	66	62	34	18	13	1	0	0	14	1,681

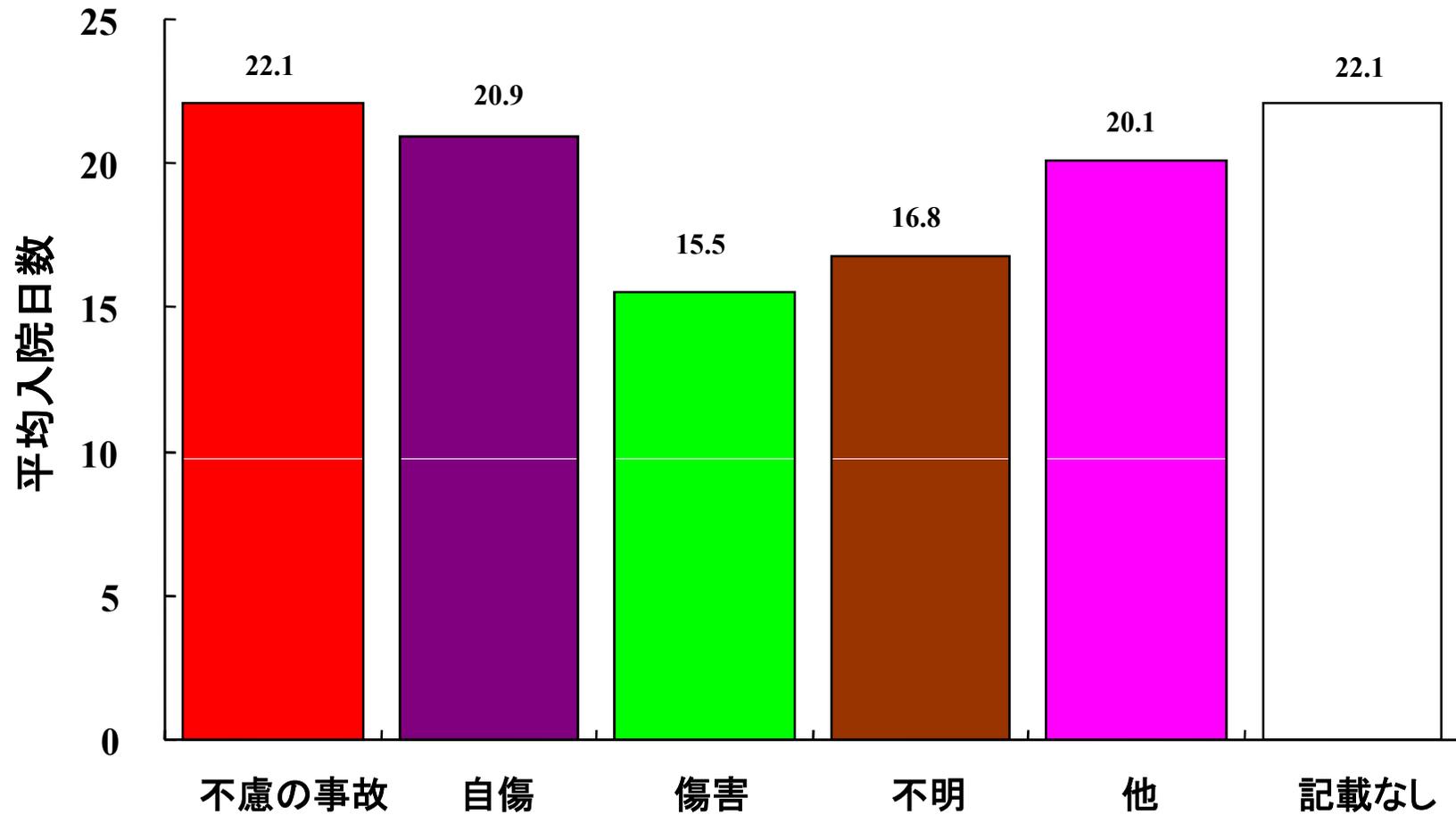
表34 自傷による外傷患者の性別年齢分布



「記載なし」とは、外傷原因の記載がないものを指す。

不慮の事故には、労災も含まれる。

図35-A 外傷原因別の累積入院日数



不慮の事故には、労災も含まれる。

図35-B 外傷原因別の平均入院日数

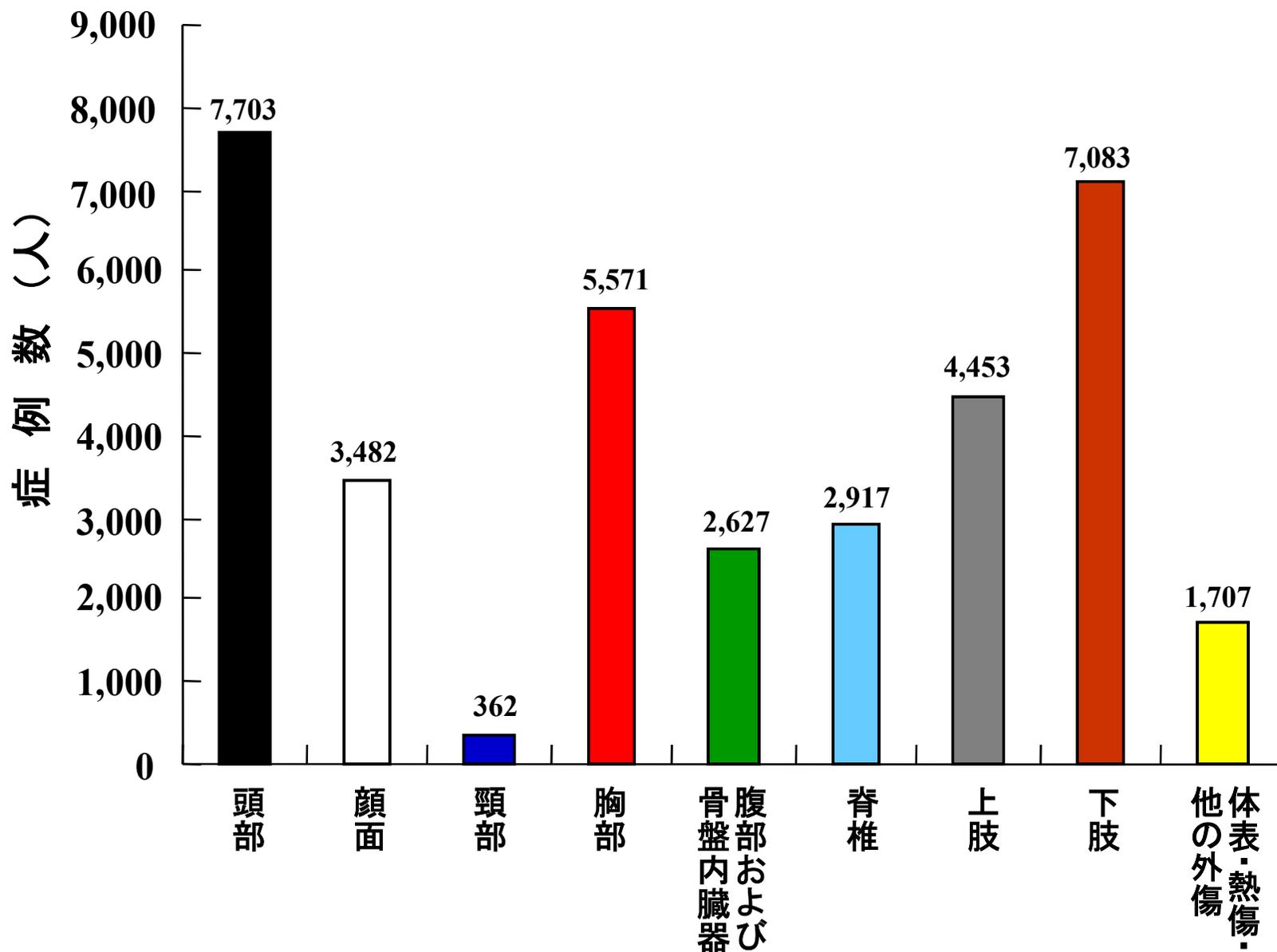


図36 各部位損傷症例数

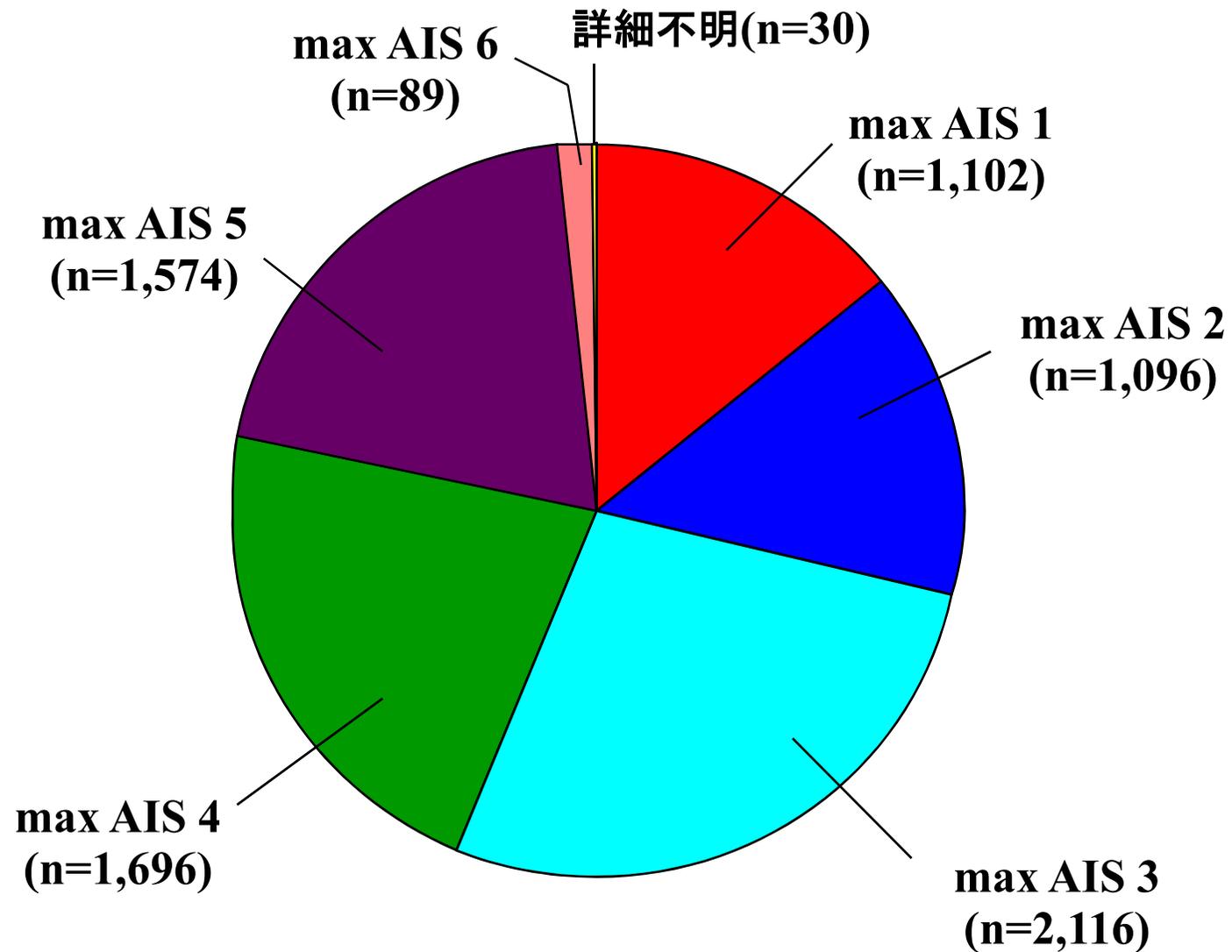


図37-A 頭部損傷とmax AIS重症度

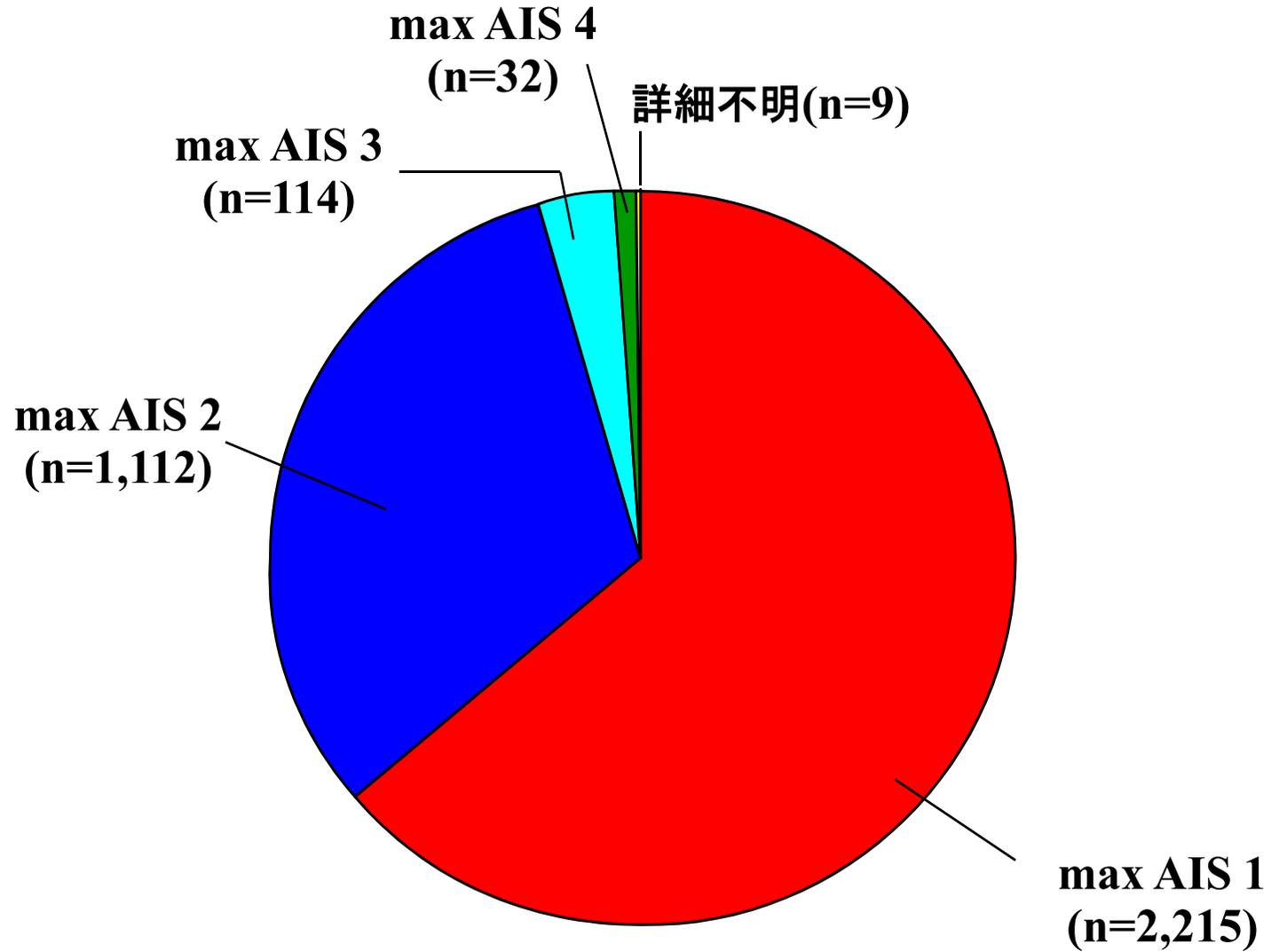


図37-B 顔面損傷とmax AIS重症度

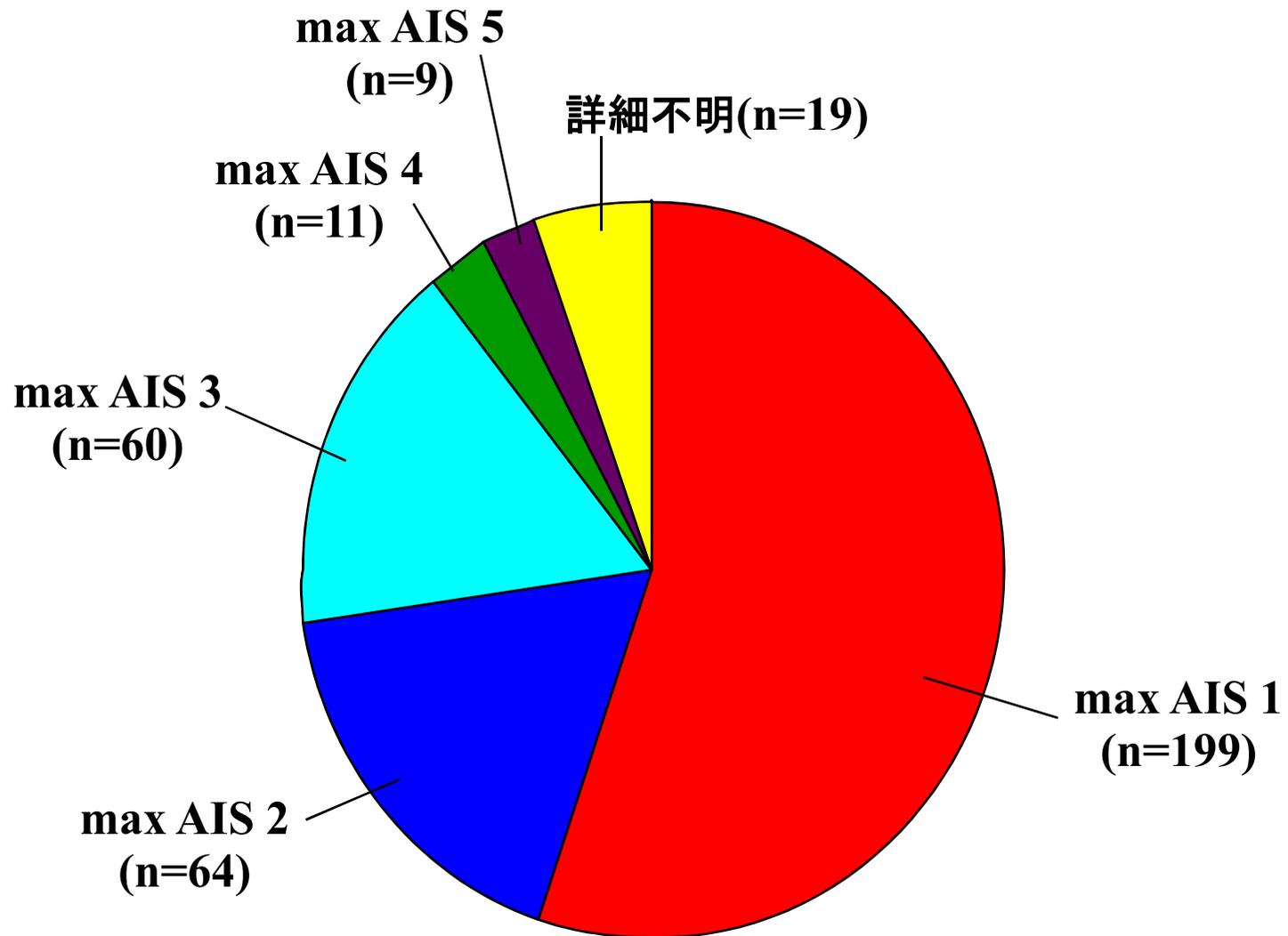


図37-C 頸部損傷とmax AIS重症度

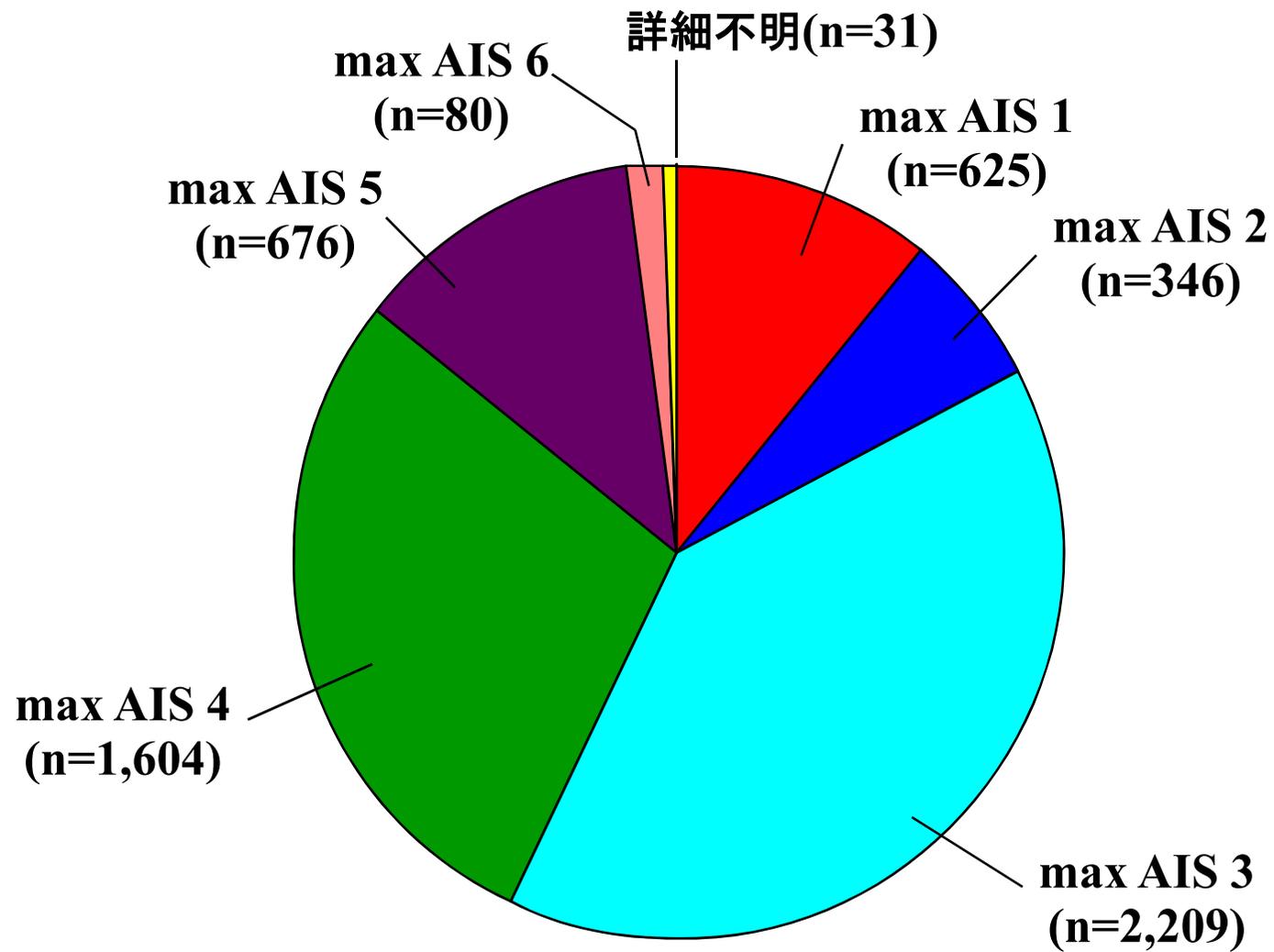


図37-D 胸部損傷とmax AIS重症度

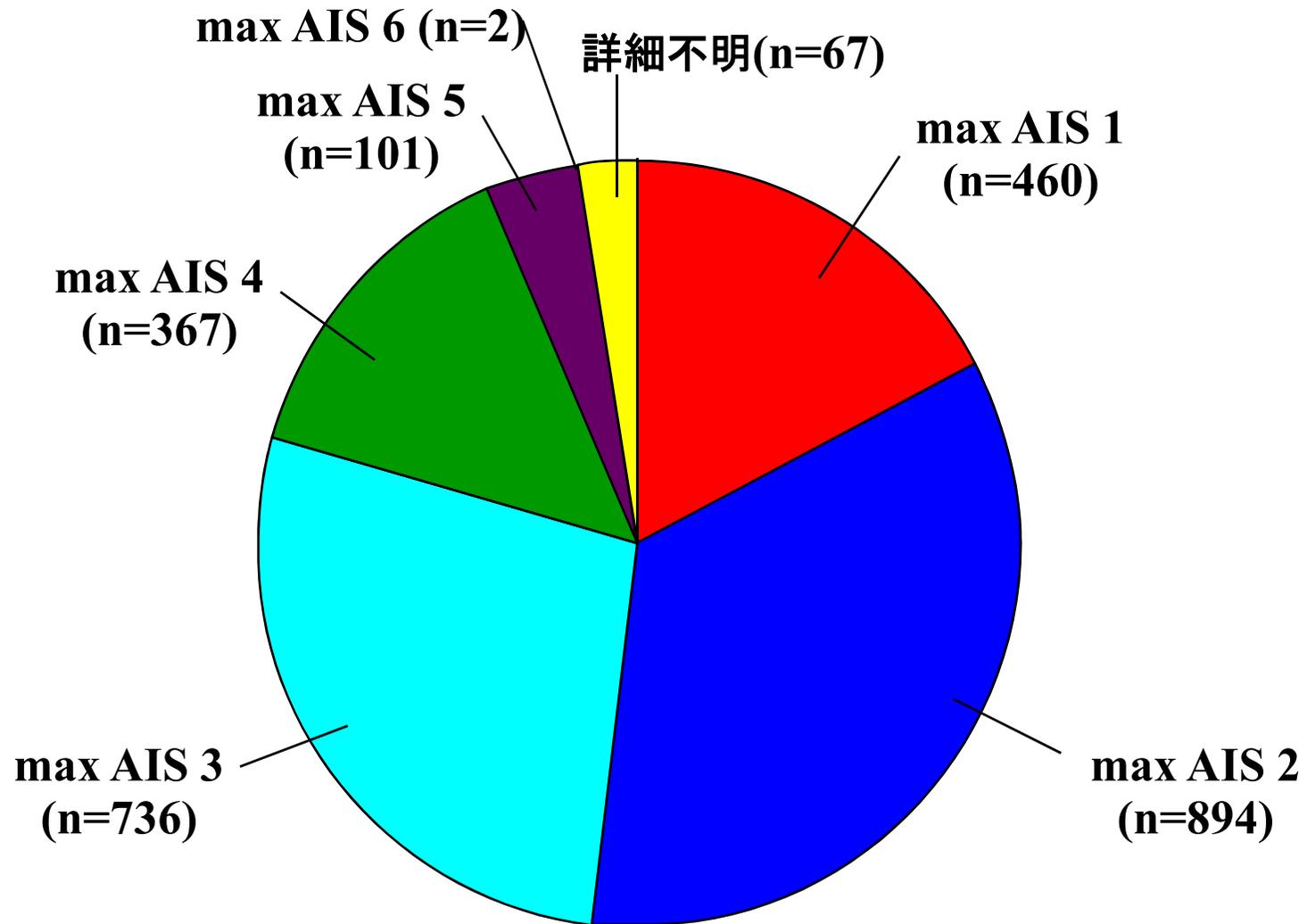


図37-E 腹部および骨盤内臓器損傷とmax AIS重症度

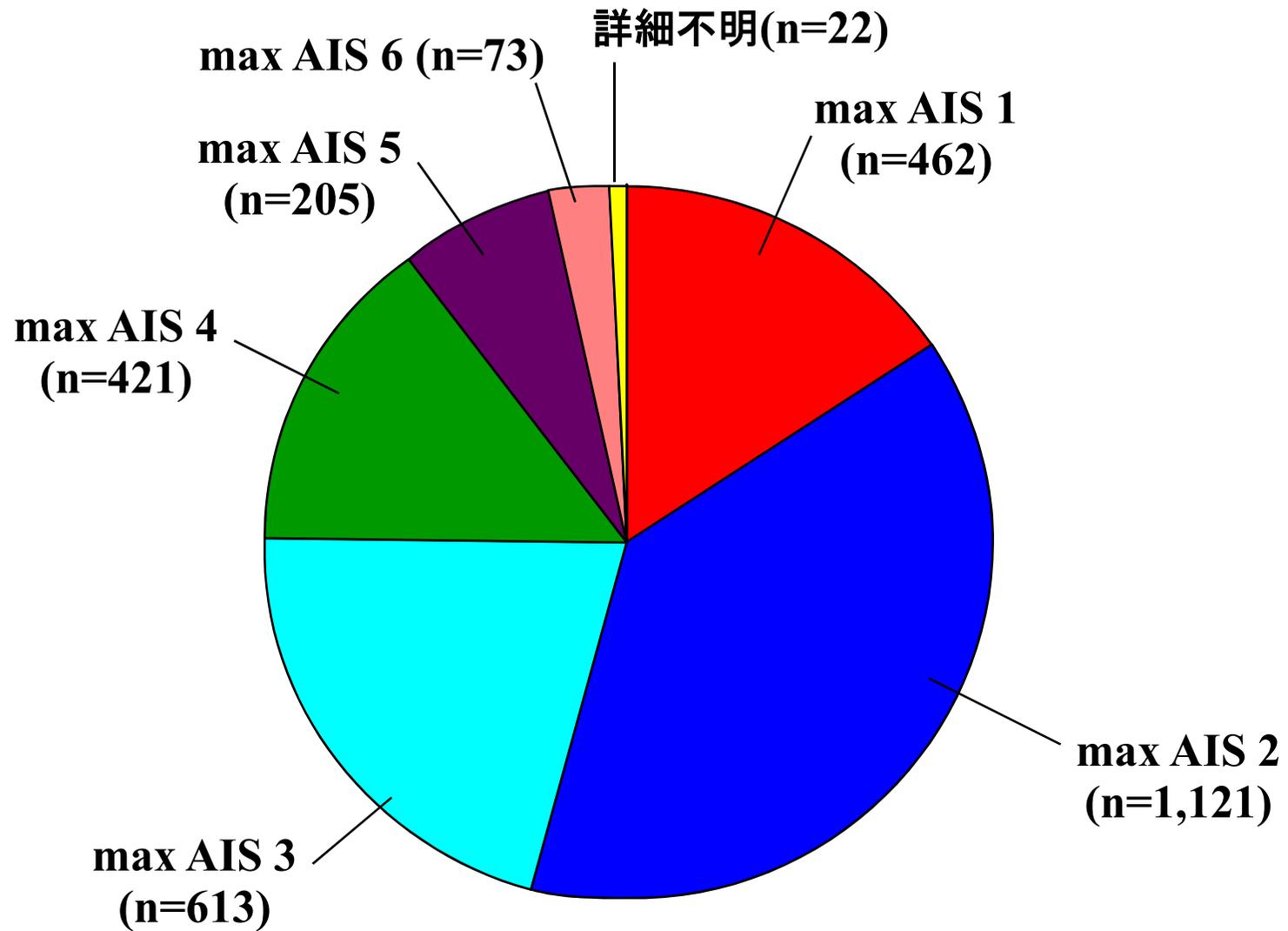


図37-F 脊椎損傷とmax AIS重症度

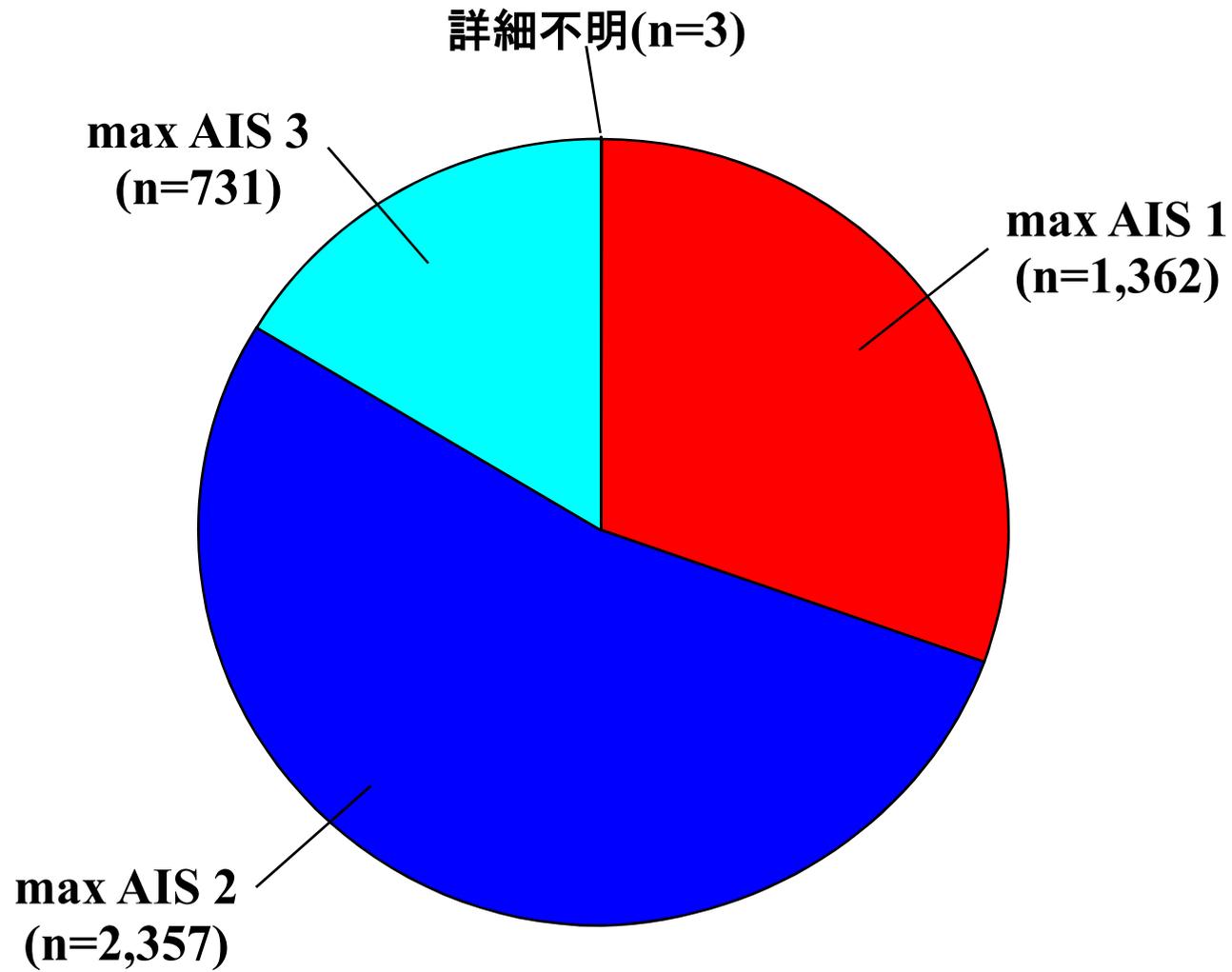


図37-G 上肢損傷とmax AIS重症度

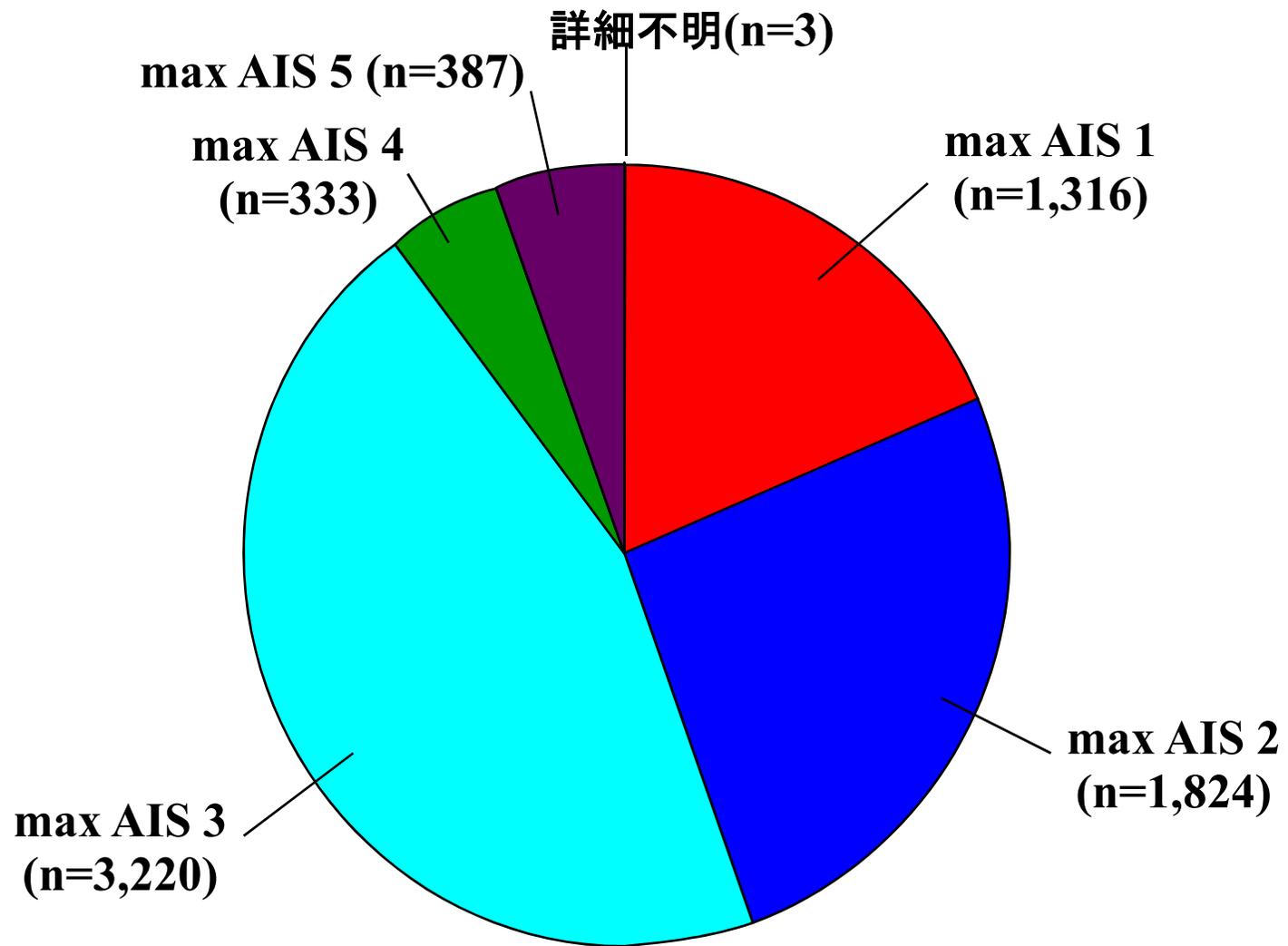


図37-H 下肢損傷とmax AIS重症度

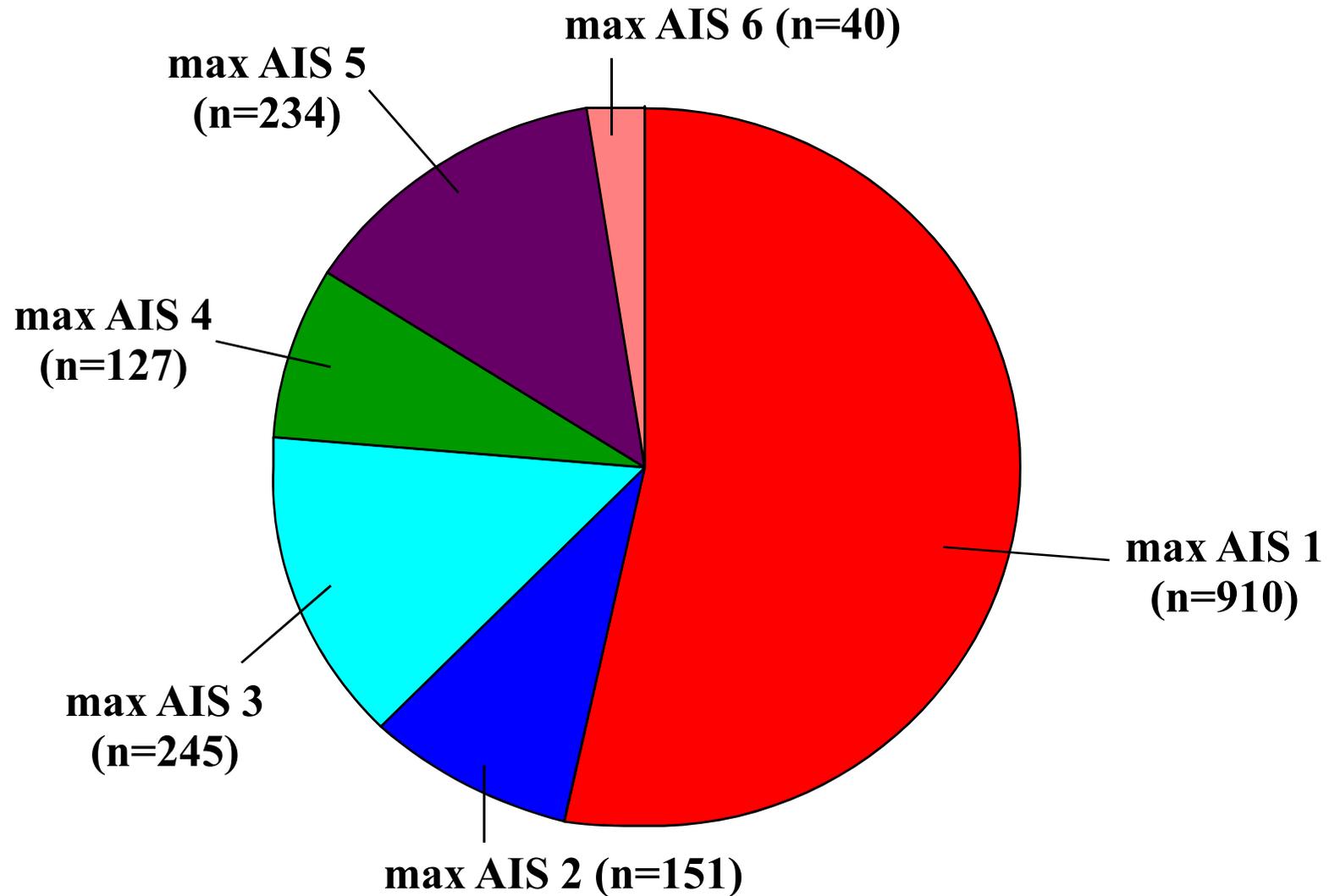


図37-I 体表・熱傷・他の外傷とmax AIS重症度

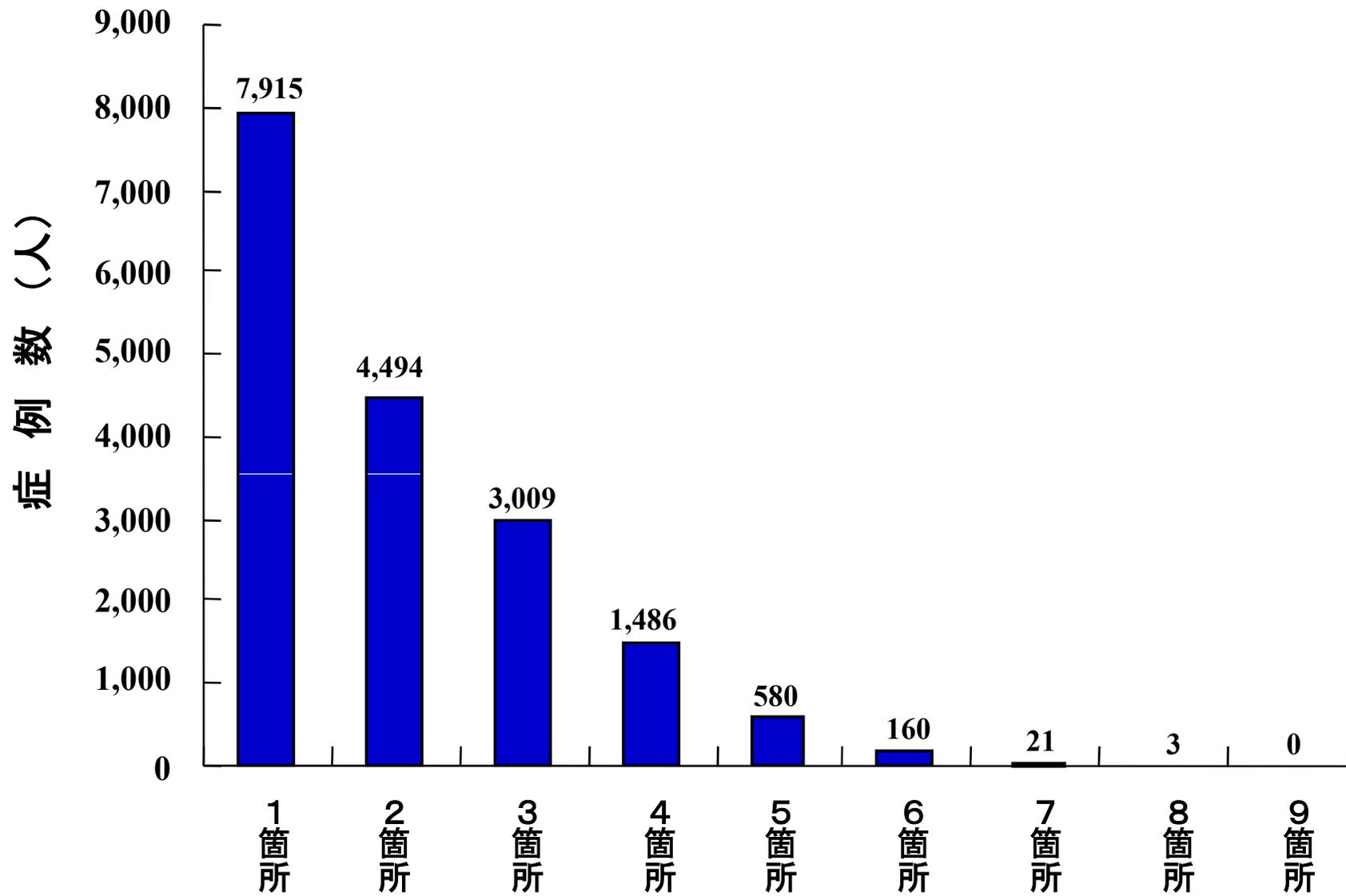


図38 AIS損傷区分に基づく損傷箇所数と症例数

日本外傷データバンク報告
(2004-2007)

JAPAN TRAUMA DATA BANK
REPORT 2004-2007

2008年10月12日

日本救急医学会 診療の質評価指標に関する委員会
担当理事 有賀 徹
委員長 坂本哲也

日本外傷学会 Trauma Registry検討委員会
担当理事 益子邦洋
委員長 齋藤大蔵

Task Force

織田 順
阪本雄一郎
木村昭夫
東平日出夫
林 宗貴
福田充宏
藤田 尚
増野智彦
三宅康史
森村尚登
山口芳裕
青木則明